

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	良くなる	百貨店（売場主任）	・ラグジュアリーブランドの価格改定で価格上昇が継続しているなかでも、購買動向が上向いている。
		スナック（経営者）	・株高、円安になり、世の中自体が少し浮かれているため、これから景気が良くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・春を迎えて観光シーズンが始まり、人、物ともに輸送量が増加する。
		住宅販売会社（経営者）	・新政権の経済対策の効果が期待している。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・客の様子をみても、持っていた株が上がったなどの景気回復感のうかがえる明るい話題が出てくるようになった。
		商店街（代表者）	・政権交替後、景気が徐々に上向いているとの判断も聞かれるが、当地においては現在のところ実感できるものはない。しかしながら、2～3か月前後は道外客が増加してくる時期となるため、客単価のアップ及び販売量の増加等で収益の増加が期待できる。
		商店街（代表者）	・来月から東京との航空路線での新規就航があるため、来客数の増加が見込まれる。また、株高円安の動きもあり、少しずつ消費に回るようになる。
		商店街（代表者）	・高額品が少しずつ動き始めており、景気回復の兆しがみられるようになってきている。ただ、北海道は本州に比べて効果が遅れてくるため、実感できるのは早くても夏の終わりになる。
		百貨店（販売促進担当）	・大雪や厳冬に悩まされた北海道であったが、4～5月にかけて雪解けが進み、春の訪れとともに、春物衣料を中心とした購買意欲が高まる。
		百貨店（販売促進担当）	・2月末以降、気温の上昇とともに購買動向が上向きにある。降雪や前年の爆弾低気圧のような特殊な天候要因がなければ、好転する兆しがうかがえる。
		百貨店（役員）	・先行きへの期待感に消費者が反応してくることを期待している。
		スーパー（店長）	・酒類売場では価格の安い新ジャンル系のビールが好調であるが、特出しすべきは高級ビールが動くようになってきており、それ以外のビールも好調になってきている。
		スーパー（店長）	・気温上昇とともに消費のモチベーションが上がる。価格競争は消費税増税以降に顕著になるとみられ、今年は高額商材の需要が十分見込める。
		スーパー（店長）	・消費税増税までは、客の購買意欲が高まることになる。
		コンビニ（エリア担当）	・株価も上がっており、給料も上がる気配が出ている。その感覚がすそ野まで広がれば消費が刺激されることになる。
		自動車備品販売店（店長）	・来客数が2か月連続で伸びている傾向から、期待感も含めて良くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・このまま新政権の経済対策の効果が続けば景気は良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・需要を喚起するような学会、イベントがいくつか開催される予定である。
		旅行代理店（従業員）	・本格的に景気が良くなると断言できるまでにはまだ時間がかかる。企業のベースアップの動きもみられるなど、企業活動が活性化することで法人需要が増えることになる。
		旅行代理店（従業員）	・T P P問題などで1次産業では先行きへの不安を抱えているが、東京便の一部で運賃値下げを実施することで需要喚起が期待される。
		旅行代理店（従業員）	・当地区は、農業に携わっている方が多いが、前年度の収穫高が良かったため、今後はやや良くなる。
タクシー運転手	・これから花見やゴールデンウィークがあるため、観光客の入込が期待できる。		
通信会社（企画担当）	・直近の活動で客に対するイメージアップが期待できるため、今後はやや良くなる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（従業員）	・空路において、4月から国内線の新規就航や増便があるほか、国際線でも5月から台湾との定期便の増便などがあり、プラス要素の効果が期待できる。
		美容室（経営者）	・最近、客との会話で明るい話題が多くなってきている。旅行や外出のための来店も増加してきている。
		設計事務所（所長）	・問い合わせの増加が受注につながることを期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・現状でもかなり良好な水準で身の回りの景気は推移しているが、今後2～3か月はさらに良くなる。分譲マンションの購入に際して、キャンセル待ちの客がいることに加えて、最近の給与水準の引上げにともない新たな分譲マンションの購入予備軍が増えてきている。
	変わらない	商店街（代表者）	・マスコミが新政権の経済対策に関する報道が盛んだが、現状では企業家や投資家の関心は高いが、一般消費者はデフレの方が生活しやすいため、中高年層が中心の商店街では期待感が薄く、先行きは不透明である。
		商店街（代表者）	・夏商戦が早めに来るとみられるため、夏物の定価品の購入に期待できるが、商品単価の問題もあるため、春商戦以上に売れる訳ではなく、今と変わらない状態で売れるとみられる。
		商店街（代表者）	・世の中全体的には、右肩上がりの方向に動いているが、末端ではまだ実感がない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・大企業や東京周辺では景気が良くなっているような報道もみられるようになったが、北海道という土地柄で、それが実感されるのはまだ当分先のことになる。いまだに前年までの景気の悪さを引きずっている印象がある。
		百貨店（売場主任）	・3か月の長期予報が出たが、前年よりもやや暖かいということであった。前年が非常に寒く、雨の日も多かったことに加えて、今年は3月に入っても寒いせいもあり、4月以降に関しては、春物や夏物の動きが活発化する。
		百貨店（売場主任）	・買上客数の減少がとまらず、売上の前年割れが続いている。
		スーパー（企画担当）	・株高、円安が消費に与える影響としては、輸入物価の上昇によるエネルギー価格や食品価格の上昇などのマイナスの影響が先行しており、所得環境の改善などのプラスの影響が出てくるにはまだ時間がかかる。
		スーパー（役員）	・ここにきて雪解けが進んだことで買い回りしやすい環境になっており、降雪の影響で悪かった大型店舗の来客数も増加が見込める。また、各業界では、ベースアップや定期昇給の実施などの好材料もみられるが、電気料金等の公共料金の値上げ報道や大手スーパーのプライベートブランド強化により食品のデフレ状況がさらに悪化するのではないかと不安が大きい。
		スーパー（役員）	・昼のテレビ番組で値上がりする商品の特集を放送している影響か、サラダ油やトイレットペーパーのまとめ買いが目立つようになってきた。一度染みついた節約思考が抜けるにはまだまだ時間がかかる。
		コンビニ（エリア担当）	・売上の20%以上を占めるたばこの販売減が続いており、そのことが客の来店回数の減少につながっている。たばこは喫煙者の減少や消費量の減少が続いているため、今後もこうした影響が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・一部企業の賃上げ等の報道もみられるが、食料品に対する支出が増えていくような消費行動にはつながらない。逆に、円安による輸入商品の値上げの影響が危惧される。
		衣料品専門店（店長）	・今の状態をみても景気が良くなるような兆候が全く見えない。また、新政権の政策が成功するかどうかもよく分からない。
		衣料品専門店（店員）	・消費税増税などの影響があり、無駄な物は買わない傾向にあるが、良い商品がより安くなれば消費行動がみられるようになる。
		家電量販店（経営者）	・先がまだ不透明であり、良くなる材料が見当たらない。
	家電量販店（店員）	・薄型テレビの需要回復がまだ期待できない。必要以外の物は買わない傾向がまだみられる。	
	家電量販店（地区統括部長）	・地上デジタル放送への完全移行から約2年が経過するが、依然としてテレビの買換え率は低く、それに変わる新しいジャンルの商品も特に見当たらないため、最悪であった前年とほぼ変わらない売上で推移する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・昇給やボーナスの効果を期待したいが、当地域では期待が薄い。一方、低燃費車への人気は高いまま維持されており、まだ期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・明るい見込みがあるかどうか、まだ判断が付かない。
		乗用車販売店（営業担当）	・新商品もなく、地域の経済動向をみても今以上の上向きに転じる要因が見付からない。
		その他専門店〔造花〕（店長）	・景気対策がまだ浸透していないため、今後も変わらない。
		高級レストラン（経営者）	・円安、株高の効果で景気が上向いてきそうだが、北海道の地方都市への影響は薄い。
		高級レストラン（スタッフ）	・今後、資材や食品が値上がりすることを心配しているが、女性客の服装が例年になく明るい色遣いになってきているため、外食の機会は増えることを期待している。客の様子では、都市のビジネスマンは、新政権に漠然と景気回復を期待していることが多い。一方、農業地帯の客は、農業以外の業種でもT P P参加への反対が多く、時には話を聞いただけで声を荒げるケースもあり、地域の思いがどう景気に影響するか分かりにくい。
		観光型ホテル（経営者）	・引き続き外国人旅行客数は堅調だが、先行予約状況全体は良化しておらず、大きく景気が良くなる傾向にはない。
		旅行代理店（従業員）	・航空運賃の低価格化に反応して利用件数の伸びている状況が当面続き、商品単価の低下と販売数の増加がきつ抗する。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注状況を見ると、国内旅行は5月が前年比100%、6月が前年比90.2%となっている一方、海外旅行は5月が前年比115.1%、6月が前年比103.5%となっており、トータルすると今月と変わらない。
		タクシー運転手	・冬を過ぎてこれから暖かくなるに向かって、需要の喚起がみられるのがポイントになってくる。政府の動向をみると、やはり新政権の経済対策に期待する向きがあるため、若干の持ち直し傾向を期待しているが、当社においては燃料の高騰による負担など、この先厳しく響いてくる要因も抱えているため、現状がしばらく続く。
		タクシー運転手	・今後の予約や問い合わせの状況に変化はみられないなど、景気が良くなる要素が見当たらない。
		観光名所（職員）	・政府による金融政策等が企業や国民に完全に浸透するには相当の時間を要するため、今後も変わらない。
		パチンコ店（役員）	・悪くなるであろう要因はあるが、良くなる要因は見当たらない。
		やや悪くなる	一般小売店〔土産〕（経営者）
タクシー運転手	・例年4月になり、暖かくなるとタクシーの利用客は雪の降る時期と比べると激減する。今年も3月下旬から暖かくなり、タクシーの利用客が減ってきているため、今年も暖かくなるにつれて、売上が悪くなる。		
悪くなる		○	○
企業 動向 関連 (北海道)	良くなる	—	—
	やや良くなる	金属製品製造業（役員）	・消費税増税前の駆け込み需要が始まるとみられるため、今後については良くなる。建設業界において期待できるような話も多い。
		建設業（経営者）	・公共工事については、補正予算によって第1四半期の発注が例年より多くなる見込みである。民間建築についても、景気の先行き期待感から増加する。住宅については、消費税増税の関係で需要が増えることを期待している。ただ、人手不足と資材単価の高騰が工期や採算性の面で心配される。
		建設業（従業員）	・公共事業の拡大を目指した新年度予算の執行で建設業界の仕事量が増大する。労務者不足の影響が懸念されるが、単価が上がることで期待される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（支店長）	・ここ数か月、復興予算関連と公共投資の見直しから輸送物件の増加を期待してきたが、動きが鈍い。ただ、民間企業の計画も具体的になっており、今後上向いてくるのは間違いないが、大きくは期待できない。
		金融業（企画担当）	・観光関連は円安により外国人観光客の増加が見込まれる。また、公共投資予算が大幅に増額されており、予算執行の本格化とともに基幹産業である建設業の業績が上向き、地域経済にも波及してくる。ただし、人手不足と資材価格の上昇が懸念される。
		司法書士	・春の雪解けとともに景気が上向くだろうと期待している。
		コピーサービス業（従業員）	・緩やかではあるが、確実に良くなっていく。昨今の受注量も、大きな波がなく、少しずつではあるが良くなってきている。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・2～3か月先の商材は応分にあるが、既存設備の入替にとともなう投資であり、受注量の増加にとともなうものではない。中小企業金融円滑化法終了にとともなう動向を注視したい。
	変わらない	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・取引先の仕事量が増える傾向にあり、それにつれて動きの鈍かった商品を中心に販売量が増加する。ただし、依然として受注単価が低調なことが不安材料である。
		食料品製造業（団体役員）	・年度替わりにともなう消費需要と求人雇用の増加に明るさを感じられるものの、輸入原材料価格の上昇で物価が上がり、消費者の生活面が苦しくなることが懸念材料である。
		食料品製造業（役員）	・先々、変化していくような案件が現在のところ特に見当たらない。
		家具製造業（経営者）	・市場の雰囲気は悪くないが、物価が上昇局面に入っており、耐久消費財の動きに様子見が出ている。
		輸送業（営業担当）	・T P Pによる北海道産農産物への影響が不透明であり、保管、輸送業者として非常に危惧している。
通信業（営業担当）		・現状は政府の景気に対する積極的な取組が評価され、景況感の改善を感じているが、ムード先行の印象もぬぐえず、この先の景況感としては、やや良い印象での横ばいが続く。	
司法書士		・経済対策による景気回復が一般市民にどの程度浸透するかが問題である。当分の間は現状維持で推移することになる。	
やや悪くなる	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・大企業ではボーナスを増額するといったことがニュースになっているが、下請に対する条件は最も厳しいころのままである。年度が変わっても改善されるとはとも思えず、末端に良い効果が出てくるのはまだ先のことになる。	
	食料品製造業（経営者）	・賃金アップは大企業のみであり、90%を占める中小企業の賃上げはまだ先である。先行して物価が上昇すれば、庶民生活は苦しくなる。	
	出版・印刷・同関連産業（従業員）	・良くなる理由がない。また、材料費の高騰も懸念される。	
悪くなる	司法書士	・現政権の下での物価の上昇、土地価格の上昇が伝えられているが、当地では直ちに値上がりする見込みもなく、動きは鈍いまま推移する。	
	—	—	
	—	—	
雇用関連 (北海道)	良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・今月ほどの業種も順調に推移しているため、今後もこの好況ムードはしばらく続く。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・社会全体の景気回復ムードが経営者心理にプラス要因となっており、事業拡大や新規事業への進出など、新たな動きの兆しがみられる。バブル期のようなことはないにしても、ここ10数年景気低迷であえいでいた北海道経済であるが、ここにきて経営者が動き出すことで景気にプラスになっており、こうした動きが求人数の増加に表れている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・かなりの勢いで求人が増えている。一部で反動減もみられるが、全体として、今後2～3か月はこの水準を維持していくものとみられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・今後2～3か月程度の短期的な目線では、景気の浮揚感が高まるが、公共投資などで実際にどの程度の子予算が付くかによって継続的な動きになるかどうかがかんがえられることになる。T P Pの問題に関しても動きを注視したい。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・新しい雇用が生まれていないため、今後も変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・少子高齢化と若年層の地方からの流出による人手不足感が足を引っ張り始めている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・T P Pの地場経済に与える影響がどのタイミングで出てくるか判断が付かないが、当面は雇用に対する需要が期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・2月の管内の有効求人倍率が33か月連続して前年を上回り、高い水準を維持していることもあり、新規求職者の減少が続いている。
		職業安定所（職員）	・一部の業種で求人増の動きがあるものの、全産業で見ると、前年と比較して求人数の減少幅が前月より拡大していることから、管内の雇用情勢が持ち直しているとは感じられない。
		職業安定所（職員）	・就職件数は前年比で3.6%の増加となった。
	やや悪くなる	—	—
悪くなる	—	—	

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)	良くなる	コンビニ（店長）	・春先から夏場に向けては売上も上がっていく傾向にある。また、複数店の売上が先月ごろから前年を大きく上回っているため期待できる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・新規開店の店があり、内情的にも気分的にも明るくなってきている。卒業、入学シーズンに入り、来街客増に伴い全体的に活気が出てきている。前年より好結果となることが期待される。
		商店街（代表者）	・4月後半からのゴールデンウィークから5月の前半までは、春まつり、桜まつりの全盛期であり、観光客並びに地域外の方が訪れると予測される。地域のなかでもイベント等を数多く実施し、来客数増加に努めるので、非常に明るく、期待が持てる。
		商店街（代表者）	・アベノミクスの効果はまだ表れてこないが、長年続いたデフレ基調から脱却できる雰囲気だけでも、プラス効果と考えている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・正直、今の状況ではどのようになるか全く検討がつかない。客の動向が良くなると期待したい。
		百貨店（企画担当）	・今までけん引してきた高額品の売行きは、4月に一部値上げの動きはあるものの影響は少ないと見ており継続する。さらに、衣料品の動きが上昇基調となっている。販売量のプラスに加え、食料品のいいモノを求めるニーズもあることから、客単価も向上するとみている。
		百貨店（営業担当）	・一部企業で給与、賞与増が決定しており、その動きが拡大してくれば景気は上向きになる。ただし、政府の景気対策の効果があまり見えないようだとしてそれほど景気は変わらない。一方で来年の消費税導入を控え、そろそろ高額品を中心に需要が拡大してくると予想される。
		百貨店（経営者）	・株高、円高の修正、賃上げなど景気の回復がうかがえることが徐々に発生している。
		コンビニ（経営者）	・季節要因による売上や買上点数の増加に加え、午後の客層において買上点数の増加が見られる。なかでも主婦層の買上点数は目的買いプラスアルファが出ている。そういった状況から、景気は上向きになるのではないかと判断する。
		コンビニ（エリア担当）	・気温の上昇により、売れるものが変化している。ただし、消費者に最も近い小売業においてはアベノミクス効果の実感はまだ届いていない状況である。
		衣料品専門店（経営者）	・新商品の販売など、営業努力をすれば良くなると期待したい。
		衣料品専門店（店長）	・春から初夏にかけてのワクワク感は売上につながる。来客数も見込める。
		衣料品専門店（総務担当）	・他業界の所得が上昇することにより、消費行動が期待できる。
		家電量販店（店長）	・政府の景気対策の効果が早急に表れてくれば、景気の改善は見込める。
		家電量販店（店長）	・日経平均株価が上昇基調にあるなかで、消費マインドも底上げが図られてくれば、小売の当社としては今後の消費拡大に期待が持てる。
		乗用車販売店（経営者）	・低燃費で免税・減税対象のエコカー新モデルの投入等で販売増が期待できる。
		住関連専門店（経営者）	・世の中の流れは景気が良くなる方向に向いているので、当店のよう小さな販売店も少しはおこぼれがあるのではないかと楽観的に考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・気候も良くなり、前向きな景気動向が報道されていることもあり、消費者の動きも消費意欲も高まるのではと期待している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・気温の上昇に伴い、衣料品の販売量が増加傾向にある。
		高級レストラン（経営者）	・株も上がっているなど、全体的に良い方向にいつている。今後も劇的に良くなるかどうかは分からないが良くなっていくことは間違いない。
		高級レストラン（支配人）	・東北は震災復興に向け、冬季開けから活発さを増す。野菜などの農産物の生産流通も活発になれば、消費行動も活性化される。
		一般レストラン（経営者）	・アベノミクスの効果で景気が良くなることを期待している。
		一般レストラン（経営者）	・毎日行く市場は活気が良くなり、人が集まってきているようである。経済が動いているのではないか。同業からもかなり上向きになってきているというような話が多くなってきている。
		一般レストラン（経営者）	・周りの雰囲気からは良くなるのではないかという期待感が持てる。ただ、アベノミクスも実際のところ、末端の消費者に還元されるまでは時間が掛かるのではないかと懸念もある。
		観光型ホテル（スタッフ）	・電気料金やガソリンなどの高止まり感が個人消費を冷えさせなければよいという不安はある。しかし、歓送迎会にもどことなく明るさが見えているし、4月からのデスティネーションキャンペーンにも期待をしている。長年続いていたデフレが解消されることを期待したい。そうなれば、観光客も増え、本格的な上昇気流に乗るのではないか。
		都市型ホテル（スタッフ）	・アベノミクスの影響により、消費者のマインドは前政権時と比較すれば格段に回復している。今後確実な政策実行により、景気回復が実感できるようになることを願っているが、地方、特にホテル業についてはタイムラグがある。その時のためにいかに消費者のニーズにこたえられる商品をラインナップするかである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・大震災から丸2年が経つが、まだ東北応援のイベントや本来は他県で実施予定の会合が入ってきている。それに伴う宿泊や宴会受注と大河ドラマ効果による観光客の流れにも期待している。
		旅行代理店（店長）	・夏のボーナスや、月例給を政府方針通り増額する動きも見られ、個人消費は今以上に活性化するとみられる。
		通信会社（営業担当）	・全体的に復興特需ということで、建設業などでも資材の高騰はあるものの、仕事は順調にあるようである。ここ4、5年くらいは十分な復興需要が見込めるなかで、現政権に変わってからはムードも良く、かなり期待できる。
		通信会社（営業担当）	・各社の業績向上が期待できる。
		テーマパーク（職員）	・現在の好況感が継続する。さらに、風評による買い控えが徐々に薄くなり消費単価が上がる傾向は続く。
		観光名所（職員）	・現在のところ雪解けも順調に進んでおり、ゴールデンウィーク頃からは行楽客も増えると思込んでいる。
		遊園地（経営者）	・ガソリンの高止まり、電気、ガス料金の上昇が心配されるが、復興需要に下支えされて、少なくとも前年並みには推移すると見込んでいる。
		美容室（経営者）	・春になると、気分的にパーマをかけたりカラーを明るめにしたたりしたくなって来店する客が増える。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・大手企業のベア満額回答のニュースによる波及効果か、3月の年度末臨時手当を支給する地元企業が数社ある。今後の消費マインドの上昇に期待している。
		住宅販売会社（経営者）	・新エネルギーに伴う大規模開発及びRC集合住宅の受注が確定しているため。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・消費税増税前の需要に期待している。
変わらない	商店街（代表者）	・生活者は景気回復ムードに乗せられているようだが、4月以降、身の回り品が一斉に値上がりした時に今度はどう反応するかが心配である。過去の例では購買意欲というのは物価が上がっている時の方が増すということがあるが、給料のベースアップが遅れるようだとまだちょっと心配である。	
	商店街（代表者）	・景気が底を打ったので、少し明るくなるとみられる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔書籍〕 (経営者)	・地方の市場経済は昇給、その他の要因に深く関わっているし、メーカー等の影響を受けないところなので、現状でははっきりと認識できる状況ではない。
		一般小売店〔酒〕(経営者)	・売れる日と売れない日の波が激しいが、トータルでは変わらない。
		一般小売店〔スポーツ用品〕(経営者)	・物価が上がるのに売上及び利益が上がらない。安売りバーゲンとは違う打出しをして、集客する方法を考えている。
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・アベノミクス効果で大手企業は給料が上がるようだが、消費者がお金を使うようになるにはまだまだ時間が掛かる。当分は現状のまま変わらない。
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・天候に左右されるものの、客の購買力は良くなっており、今月も良い傾向になっている。これ以上良くなるかどうかは分からないが、変わらないのではないかとみている。
		百貨店(売場主任)	・景気回復傾向の報道などで気持ちは幾分明るくなってきている。ただ、電気料など、実生活のマイナス部分の影響が把握できていない。実際に地方に変化が表れるのはもっと先である。
		百貨店(総務担当)	・一部企業の業績回復や株価の回復といった良い要素もある一方で、電気料金や原材料の高騰ということもある。一般消費者が自分の所得のなかでどこまで消費に向けるかという部分は判断がつかない。
		百貨店(買付担当)	・株高、円安傾向があるなかで、可処分所得を含めてなかなか手取りが増えない状況では販売にはつながらない。
		百貨店(経営者)	・春闘で賃金が改善される業種が当地区には少なく、3か月先も好材料に乏しい状況である。むしろ目先のガソリン及び灯油高、電気料金の値上げ等の悪い材料がある。
		百貨店(売場担当)	・前年のこの時期もやはり苦戦を強いられていた。セール前の買い控えが要因となり客の買い方に大きく影響を及ぼすとみられる。客は安いからではなく価値と価格のバランスや何か付加価値がないと駄目である。安いものは量販店やショッピングセンターなどで上手に買い分けをしており、百貨店ならではの取組がキーとなってくる。
		百貨店(経営者)	・富裕層の高額品は好調に推移しているがごくわずかの部分なので、全体の多くを占める中間層からその下の層までの回復が見えない。その層の回復を期待するのなら、給与、賞与など所得アップが現実的にならないと厳しい。
		スーパー(経営者)	・ニュースと天候につられて何だか明るい気持ちだが、所得が増えているわけでもないので、財布のひもは緩まない。
		スーパー(経営者)	・最近の株価上昇で潤う人がいるほか、円安で輸出拡大の期待もあるが、4月からは公共料金や食料品の値上げ、ガソリン、灯油等の高止まりもあり、財布のひもは固くなる。また、春闘で一部賃上げはあるようだが、主に賞与時期の企業が多いようであり、実質可処分所得増も7月ごろまでは消費拡大は期待できないのではないかと。客である農家もTPP交渉参加に関心が高く、現在の消費行動は様子見である。この状態はしばらく変わらない。
		スーパー(店長)	・来客数は微減傾向だが、1点単価、買上率が落ち込んで、客単価の減少に歯止めが掛からない状況である。価格競争もますますし烈になっている。この傾向はまだまだ続きそうである。各企業の体力勝負になってきている。
		スーパー(店長)	・円安等の影響もあり、4月ごろから油、粉物の価格高騰等も考えられるため、客が必要なもの以外は儉約する傾向はより強くなる。また、競合店間のチラシ価格合戦はより激化し、業績向上に厳しい環境になる。
		スーパー(店長)	・競合店の出店が続くなか、販促策を強化して来客数、売上を回復しなければ業績は変わらない。
		スーパー(店長)	・競合の状況、商品の動向のいずれを見ても大きな変化は無いとみている。
		スーパー(総務担当)	・株価が上昇している一方で、電気料金の値上げが控えている。これにより、可処分所得が減少するということもあり、トータルではあまり変わらない。
		スーパー(物流担当)	・災害復興需要もなくなり、短期的に景気が良くなる要因が見つからない。
		コンビニ(経営者)	・前年割れが続くとみられる。季節による売上増加は見込めるが、光熱費の値上げ等、消費者の財布のひもが緩むニュースが無い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（エリア担当）	・トレンドに変化を及ぼすような環境変化が見込めない。
		コンビニ（エリア担当）	・社会全体の景気は上昇基調だが、コンビニエンスストアの売上が良くなるのは社会全体の景気上昇が力強いものになってからである。
		コンビニ（エリア担当）	・当社も含め今期の出店計画は過去最大である。今後もより競争環境は厳しくなることが予測される。
		衣料品専門店（経営者）	・地方にも早く景気回復の兆しが見えてきてほしい。
		衣料品専門店（店長）	・春物商品の立ち上がりとその後の動向を見る限り、実売期での苦戦が予想される。また、ビジネス用途でのニーズが減少していることから、今後も苦戦が予想される。
		衣料品専門店（店長）	・客単価はアップしているが、クールビズにより、年々夏物スーツ需要が減少している。
		家電量販店（店長）	・夏の電力値上げに向けて、客は節電タイプの冷蔵庫やエアコンといったものに興味を示している。今のところそれらの需要は大きく伸びておらず、テレビ需要の落ち込みをカバーはしていないが、少し景気が上向きになっていることをうかがわせる。春先の需要は良くもならず、悪くもならずで、このままの状況が続くのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・株価、円安、賃金面で先行きに明るさが見えているものの、エコカー補助金並びに復興需要の発生で先食いしており、今後も受注、販売共に10～20%前後くらいの前年割れで推移するものと考えている。
		乗用車販売店（従業員）	・目立った新型車の投入も特に無いので、販売量はなかなか伸び悩むとみられる。
		乗用車販売店（店長）	・消費増税の影響もまだ無く、販売量が大きく変動する要素は無い。車販と並行したサービス需要の掘り起こしが急務である。
		住関連専門店（経営者）	・油や電気料を始め値上げが始まったが、収入は増えず中央のムードとはかけ離れている。今後のアベノミクスの影響を期待しているが、地方まで浸透するようになるのはいつのことだろうか。
		住関連専門店（経営者）	・新生活は3月から4月にかけて動くが、そういう客は当社にはそう多くなく、現状からすればそう大きい回復は考えられない。アベノミクスといわれるが、我々の業界はそこまで影響を受けていないというのが現実である。
		その他専門店 [パソコン]（経営者）	・起爆剤となる商材は幾つもあるが、消費者の財布のひもは固く市場に回るお金は少ないとみられるため、今後も期待は薄い。
		その他専門店 [食品]（経営者）	・食品値上げ、先の消費税率アップ等を考えて、できるだけ消費を押さえようとする意識がますます高まるのではないかと。
		その他専門店 [靴]（従業員）	・行楽シーズンに向けたウォーキングシューズやスニーカーの提案を強化していく。
		その他専門店 [酒]（営業担当）	・地元ではこれから農家が農作業に入るので、大きい動きは期待できない。また、地元以外での高付加価値商品の売上を少量でも伸ばす必要があるが、すぐには成果が上がらない。今のところ大きなマイナス要因が無い限りは、この状態が続くと考えている。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	・当県の場合、まだ復興予算頼みのウェイトが高いため、公共事業の予算執行まで一服状態が続く。今後の新築工事等の見通しもいまだに見えてこないため、足踏み状態が続く。当県は農産物の生産ウェイトが高いが、風評被害の影響がまだ色濃く残っており、農業、漁業いずれも需要回復が見通せない。しばらくはこのような状況が続くものとみられる。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（営業担当）	・アベノミクス効果により円安・株高が進んでいるが、当県の燃料販売については、前年比でガソリン98%、灯油76%、軽油108%という現状である。軽油は復興需要により伸びているが、全体的には低調な販売が続いている。原発事故の早期収束を願うばかりである。
		高級レストラン（支配人）	・収入増なくして、物価増はありえない。順序を間違えると今より悲惨な状況が待っているという限りのない不安がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・長い期間にわたってレストランで食事をするということから遠ざかっている方が増えており、そういうスタイルが固定化されているようである。多少景気が良くなったとしても、そう簡単にレストランに行こうというふうにはならないのではないか。ただ、少しは増えてきて欲しいと願う気持ちもある。
		スナック（経営者）	・今月の送別会シーズンは予想よりも客の流れが良く、数字的にもクリアできている。このままのペースで歓迎会シーズンに入っていきたい。客からも、歓迎会は経費が使える人が沢山いるように聞いているので期待している。
		観光型旅館（経営者） 観光型旅館（スタッフ）	・変化する兆しは見えていない。 ・現在、直近の個人型は順調だが、団体型の申込が伸びない。予約発生が早い個人型が少ないため、ゴールデンウィーク以降については厳しい状況が見込まれる。個人型もゴールデンウィーク以降、夏までは落ち着くとみられ、今は順調でも先の期待は薄い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・本来であれば、新入学ということで人生の節目を迎えてホテルの利用も多くなるところである。4月上旬の市長選に始まり、5月には市と県の大きな人事異動もあり、景気でのこ入れになるであろうが、買物をしたり、ホテルの利用が多くなるとは思えず、現状維持のままとみる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・当地では景気回復の実感はない。逆に円安によるガソリン価格の高騰など、ゴールデンウィークを控えた遠方からの宿泊客への影響が懸念される。
		タクシー運転手	・乗客の様子を見ると、震災の影響はもう無くなり仕事も順調にしているようで、大変忙しいという話をよく聞く。タクシーにも客が切れ目なく乗ってくる。良くなる方向にしているのではないか。
		タクシー運転手	・相変わらず働きたくても仕事が無いという乗客の話がある。仕事が無いような状態では景気が良くなることは考えられない。
		通信会社（営業担当）	・政府の施策が反映されるまで3か月はかかるのではないかと。中小企業の経営者が投資するときに景気の上向きになるときである。東日本大震災の復興が加速すると景気は上向きになるが、まだまだ3か月後は変わらない。
		通信会社（営業担当）	・首都圏では景気が上昇しているようである。北東北でも反映されてほしい。
		通信会社（営業担当）	・好転するような材料が特に見つからない。一部の業種以外は停滞基調で推移する。
		通信会社（営業担当）	・首都圏の一部企業における年収増で、恩恵がある人による消費拡大傾向に伴い一時的に指数は上がるが、本来の内需拡大につながるか否か、予断は許されない。
		通信会社（営業担当）	・景気の回復感が浸透してきており、これまでの安価なサービス商品より、やや高めなサービス商品の販売数が増えている。今後はしばらく、これまで増加していた解約者が減り、新規客は少ないながらも安定していくとみられる。
		観光名所（職員）	・来客数の目安である乗船予約数は芳しくない状況だが、来た客に関して売上は前年を上回っている。来客数及び売上が伸びるか、来客数は伸びず売上も現状維持になるか、どちらともいえない状況である。
		競艇場（職員）	・政府の景気対策等が行われているが、当業界に影響が出るにはまだ時間が掛かる。
		美容室（経営者）	・美容業界では、景気の上がり下がり具合は急激に表れるわけではなく、半年、1年というスパンで遅れて動くという状況がある。したがって、仮に他の景気が良くなっても特に影響はなく、そういった意味で変わらないとみている。
		設計事務所（経営者）	・年度が変わり暖かさが増してくればいろいろな住宅関係の話も出てくるが、コンクリートや木材等の資材不足と値上げでどうなるかとの懸念もある。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・予約はごく短期のものしか入っておらず、先行きは非常に不透明である。株価や気持ちの問題が先行しているようである。秋の選挙までは低迷が続くとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・前年の春は意外なほどの業績改善が見られたが、当時は原発事故に絡む一律賠償が行われた時期で、その影響もあったかもしれない。当店の立地は復興施策の影響を強く受ける場所であり、業績好転も政策、施策を要因とする短期的結果だった可能性がある。今は、経済の諸条件が震災後、基本的に厳しいままだったのではないかと考えている。
		スーパー (店長)	・円安でガソリン価格などが上がり、電気料金が上がる話もある。しかし、給料は依然としてそのまま生活が苦しくなっているため、景気は良くならない。
		コンビニ (経営者)	・今月は他地域への人の流出が多くなっている。そういった面では3か月後はかなり厳しくなると予想される。
		コンビニ (店長)	・これから円安による原油価格の高騰により、電気料金が上がっていくということなので、消費のマインドはやや下降気味になる。しかし、震災がらみの工事関係者の消費は引き続き好調なので、プラスマイナスでゼロと予想する。
		衣料品専門店 (経営者)	・アベノミクス効果でムード的には良くなるだろうが、現実的には円安による灯油、ガソリン、食料品等の値上げによる生活防衛意識のデメリットの方が大きい。
		衣料品専門店 (店長)	・前々年からの震災特需が一巡し、ここ1、2年でスーツを作られた方が多くなっている。買換えのニーズがあっても、毎日スーツを着るビジネスマンは購入するだろうが、そんなに使用しない方は我慢するのではないかと予想している。
		乗用車販売店 (経営者)	・例年4月以降、特に5月の連休後は動きが悪くなる。
		乗用車販売店 (店長)	・今月は決算月ということもあり販売量が伸びたが、今後はその反動もあり、販売量や来客数なども減少傾向になると考えられる。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕 (営業担当)	・年度末の商品の動きからすればやや悪くはなる。ただし、今年はより一層のクールビズが定着していくのではないかと期待している。特に女性の制服に関しては各メーカー共に、多種多様な商材を出している。また、今年も暑くなれば夏物が売れるのではないかと期待もある。
		一般レストラン (経営者)	・景気回復の起爆剤になるような材料はなく、今は様子見の段階である。むしろ、下がる傾向になると予想している。
		観光型ホテル (経営者)	・4、5月の予約状況はデスティネーションキャンペーンと学校関係のオリエンテーションなどで入込は10%ほど良いが、6月以降は復興支援のあおりもあり、前年比約10%減少している。
		都市型ホテル (スタッフ)	・被災地ということでここ1年以上特需があり、個人利用、法人利用共に過去最高の入込、売上が続いていたが、件数、売上共に前年を下回り始めている。来月以降の予約状況も前年に比較すると件数、売上共に下回り始めている。
		旅行代理店 (経営者)	・円安もあり、売れ方を見ると、3か月前より景気は下がっているようである。もう少ししたら落ち着き、伸びてくるのかもしれないが、今は出控えているようである。
		タクシー運転手	・不景気の状態が続いており、車を選ぶ客や乗り控えが非常に目立ってきている。
			悪くなる
コンビニ (エリア担当)	・同業他社との競争が1番大きいマーケットのなかで激化していくので、厳しい状況が予想される。		
企業 動向 関連 (東北)	良くなる	電気機械器具製造業 (企画担当)	・業績の影響が徐々に我々末端に好影響を与えつつあり、それが更に鮮明になってくる見通しである。公共事業の増加により、身の回りの景気が良くなっているのが見てとれ、更に良い方向に向かっていくとみられる。
		建設業 (従業員)	・発注が遅延した案件の出件が年度初めに見込まれており、2～3か月先には入札が一巡して受注者が確定してくる。
		広告業協会 (役員)	・マスコミは今後も首都圏からの引き合いが多いが、4月からは仙台・宮城デスティネーションキャンペーンも始まり、観光業者からの発注も期待される。
		広告代理店 (経営者)	・取引先の売上が順調に伸びている。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕 (経営者)	・4月から行われるデスティネーションキャンペーンへの期待は大きく、観光施設や料飲店での需要が見込まれる。
	やや良くなる	食料品製造業 (総務担当)	・政府の景気対策が次第に効いてくると期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		繊維工業（経営者）	・ムードが良い方向に向かっているため、実際にも良くなってほしい。大いに期待している。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・アベノミクスの波及効果もみられる。
		広告代理店（経営者）	・賃上げやボーナス満額回答が出ている状況で、その消費を狙った広告物が、新しく発生する期待がある。
		司法書士	・冬期間低迷していた分譲地の取引が増加している。
		公認会計士	・東北の沿岸部の復興計画が動き出せば、現在よりは需要が上向くと予想される。
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・今後もテレビドラマの影響で観光客が増え、景気はやや良くなる。
		金属工業協同組合（職員）	・半導体関連の客先からの5～6月の発注計画の見込みが増加予想であり期待したい。しかし、依然として短納期、低価格である。
	変わらない	農林水産業（従業者）	・このごろ、農業機械やトラックの買換えなどをする農家が多く見られる。
		食料品製造業（経営者）	・この先3か月を見ても、牛タンの人気は落ちることはない。それ以上に、アメリカ等から30か月齢までの牛肉の輸入が可能になれば、ますます質の良い牛タンが提供できるため、人気も上がるのではないかと見通しがある。
		食料品製造業（経営者）	・4月から始まるデスティネーションキャンペーンでどれだけ観光客が来るかで売上は左右される。円安で資材関係の値上げ要請がきており、コストアップになりそうである。
		食料品製造業（総務担当）	・売上の前年割れが続いている。
		木材木製品製造業（経営者）	・震災復興による住宅着工も継続して需要を見込める。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・広告宣伝は印刷物からインターネットなど他の媒体にどんどん変わってきているようである。
		土石製品製造販売（従業員）	・これから新年度に向けて、復興事業予算が大きく占めることが予想される。道路設備工事や、マンション建設が多々あるため、人手がまだまだ足りないくらいである。しかし、復興へ向けての工事で景気が上向きとなるのはまだまだ先ではないか。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車部品については、輸出環境はやや良化してきているが、海外移管が進んでおり、国内では数の増加は見込めない。
		建設業（経営者）	・一時的には好景気になるであろうが、職人不足や資材の高騰、将来的には人口減少問題等の不安材料がある。
		建設業（企画担当）	・多くの出件が見込まれるが、技術者不足及び労務者不足の影響が懸念される。
		輸送業（経営者）	・現状が大きく変わる要素は無い。物量は減少傾向であり、現状が続くものとみられる。
		輸送業（従業員）	・貨物の動きに大きな変動要因が見られない。
		通信業（営業担当）	・受注は今のまま増加傾向で推移するとは考えられず、予断を許さない状況には変わりがない。
通信業（営業担当）	・アベノミクスへの期待はあるが、震災からの復興遅延などもあり、現時点でよし悪しの判断はできない。		
通信業（営業担当）	・政治の舵とり次第である。		
金融業（営業担当）	・特に大きな変化要因は無い。		
金融業（広報担当）	・アベノミクス効果について巷間で言われているが、地方ではまだ実感に乏しく、もう少し影響を見極める必要がある。		
経営コンサルタント	・消費マインドは高まっており、春の賃金アップが期待される。		
コピーサービス業（経営者）	・景気が良くなるだろうという気分で市場は活性化しているが、実態はまだまだである。受注件数も少ない。		
その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・納入価格や販売価格が正常に戻るということは考えられない。適正マージンを得るようになるまでは相当な時間がかかるのではないか。		
その他企業〔企画業〕（経営者）	・復興に関する住宅需要は、一部には見られるものの、被災地では宅地利用計画が遅々として進んでいないため、受注数の停滞感はまだまだ継続すると考えられる。		
やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・T P P交渉参加を見越した米業者が、米の取引価格を引き下げることが予想される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業 (営業担当)	・大手が給与を戻したり上げたりできているのは中小企業がより一層厳しいコストダウンを身を切っているためである。よって、中小企業の業績は売上が変わらなくても利益減か赤字というのが現実である。それを政府は見えていないのではないか。
	悪くなる	—	—
雇用 関連 (東北)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社(社員)	・派遣サービスは引き続き受注が減っているが、人材紹介に関していえば高めの紹介料で安定してきており、特に緊急度の高いクライアントから決まってきた。
		アウトソーシング企業(社員)	・4月の仕事の予約も入っている。
		新聞社[求人広告](担当者)	・4月以降、京阪を中心に進出企業又は工場の進出計画もある。また、国の被災地復興予算も新年度、形になって表れてくることも想定されるので、少しは今の状況より良くなる。
		新聞社[求人広告](担当者)	・現政権の経済対策に対して、期待感が以前高い。そうしたマインドが、設備投資や採用意欲に良く作用している。
		新聞社[求人広告](担当者)	・輸出関連産業の伸びが、季節労働者の求人状況を好転させると期待される。
		職業安定所(職員)	・新規求人数は引き続き前年同月比プラスで推移している。この先は求人が増加していく時期でもあり、景気は上向いていく。
		職業安定所(職員)	・新年度で、事業所の生産活動が活発化してくる状況が見受けられる。
		民間職業紹介機関(職員)	・今月になり求人が増加している。4月以降も同様と考える。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	・引き続き中堅中小企業から採用の意向、問い合わせが入り続けていることもあり、現在の良い状況とそれほど変わらない。
		人材派遣会社(社員)	・取引先の声として、経済対策への期待感は依然高いものの、一時の高揚には一服感がある。より具体的効果が表れるのはまだ先との声が多い。
		人材派遣会社(社員)	・経済対策への期待はあるが、まだまだ効果は不透明である。高齢者雇用安定法により、雇用は更に慎重傾向が続く。
		職業安定所(職員)	・製造業など、地域の基幹産業で求人意欲の高まりがみられない。
		職業安定所(職員)	・新規求人数は依然として高水準で推移するとみられる。一方で、新規求職は時期的要因もあり、一時的には増加するとみられるが、状況が大きく変化するとは考えにくい。
職業安定所(職員)		・復興需要が継続している局面ではあるが、数値的な改善ほど地元における復興感は強くない。	
職業安定所(職員)		・今年度後半から有効求職者が前年度比増加に反転している。今後も注視していく必要がある。	
職業安定所(職員)		・有効求人数は23年5月から25年1月まで21か月連続で前年比20%以上の増加であったが、25年2月は18%の増加と、22か月ぶりに10%台の増加となっている。また、有効求人倍率は2か月連続低下したため、先行きに不安がみられる。	
職業安定所(職員)		・アベノミクスによる景気の上向きを期待しているが、まだ地方にはその影響は表れていない。当所管内で2月に大規模な人員整理があり、3月にも人員整理が予定されている。	
やや悪くなる	人材派遣会社(社員)	・被災県からの復興プロジェクト等の入札案件が多いことやそれに関連した民間需要もあるものの、求職者が減っているために2、3か月先の景気はやや悪くなる。	
	新聞社[求人広告](担当者)	・3月の状況が予想以上に良すぎるため、例年見られる4月の様子見や出稿控えも現在のところ前年よりも大きくなりそうである。	
	悪くなる	—	—

3. 北関東(地域別調査機関:(株)日本経済研究所)

(—:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ(経営者)	・気候が良くなることで客の動きが活発になることと、ゴールデンウィーク前後でイベント等を開催するため、来客数の増加が見込める。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(北関東)		住宅販売会社(従業員)	・戸建住宅も、3月以降にアベノミクスの効果が数字に表れてくるとみている。当地域は自動車関連の会社が多く、円安の継続は景気回復に大きく作用するはずである。
	やや良くなる	商店街(代表者)	・陽気も温かくなり観光客も多少は増えてくると、報道等での盛り上がり期待している。
		一般小売店[家電](経営者)	・気候も良くなってきており、エアコンと白物家電を含め、客の購買意欲が少し上向いてきているような気がする。
		百貨店(営業担当)	・株価も上昇しており、消費マインドとしては上向くのではないかと期待感がある。实体经济への影響はまだまだと思うが、先の見通しとしては若干上がると思う。
		百貨店(販売促進担当)	・報道などにもあるように、賃金の上昇や株高など今後に期待感を持たせる要因が出始めている。また、気温も高めに推移していることから、主力の衣料品が動き始め、他のカテゴリーへの波及効果も期待できる。
		百貨店(店長)	・アベノミクスに加え気候も良くなり、ムードが上がってきていると感じる。
		百貨店(店長)	・2月に比べ、明らかに売上が向上してきている。
		百貨店(店長)	・来客数、客単価共に上昇しているほか、飲食需要も増えてきている。
		スーパー(店長)	・業績は底を打った感があり、これからは間違いなく上がってくる。競合店では、営業を中止して撤退する企業も出てきている。これからは価格より、価値で売り込める。
		スーパー(総務担当)	・大手企業の一時金満額回答が続出した報道や株価上昇など、消費に回るお金が増える期待感がある。
		コンビニ(経営者)	・当店の客は、営業の人が大半であり、その客が少しずつ増えてきている。また、カップルや家族で買物に来る客の姿が目立ってきている。レジを打つ時は、カップルでも家族でも1人とカウントするので、実際には店内が以前よりも少しにぎやかになってきている。
		コンビニ(経営者)	・以前は来客数が大分落ち込んでいたが、ここ1か月ぐらいの間に昔からの客が戻ってきており、来客数が少しずつ回復してきている。
		コンビニ(店長)	・大胆な金融緩和ということで円安と株高が進行しているが、我々の周辺ではまるで無関係である。新たな需要もまるで発生していない。当業界はかなりの過当競争に陥っているため、仕入価格は更に低下している状態である。現在は減少しつつある来客数を少しでも回復していくよう努力している。
		衣料品専門店(統括)	・東日本大震災から2年が経ち、少しは良くなるかという期待もあったが、現状ではなかなか景気が上向かず、売上も上がらない。天候が安定しないということもあるが、これから暖かくなり、人が街の中で歩けるようになることを期待している。
		家電量販店(店長)	・昨年末からエアコンの動きが良いが、今後、夏に向かっていくにつれて販売量が伸びていくため期待が持てる。
		乗用車販売店(経営者)	・円安で輸出業界は良いのだろうが、当業界関連としてはガソリンの価格高騰等で好景気感が感じられない。
		住関連専門店(経営者)	・現政府の政治が、徐々に国民の政治への信頼回復や経済回復につながっていくように感じている。安心感による消費の拡大が起こりつつあることを販売の現場から感じられる。
		一般レストラン(経営者)	・アベノミクス効果による株価上昇の影響なのか、単価を気にせず注文する客が増えている。
		スナック(経営者)	・来客数や客単価など全体的に少しずつ良くなってきているため、このまま推移してもらいたい。昨年からイベントなど地域として力を入れていることもあり、その効果が出てきているのではないかと。
		観光型ホテル(営業担当)	・繁閑の差が激しい地域であるため、シーズンインとともに来客も増加する。今年は春から初夏にかけて当地域で大きなイベントもあり、期待している。
	旅行代理店(所長)	・しばらくはこの傾向が続くのではないかと感じる。株価も堅調である。	
	旅行代理店(営業担当)	・新年度が始まり、年間の行事や予算が決定され、見積りの依頼も増えてくる。	
	通信会社(経営者)	・高齢者の消費拡大やリフォーム補助金活用などにより、多少景気の上向き感が出るのではないかと。	
	通信会社(総務担当)	・株価の上昇が、消費者の心理に影響を与えてくるころだと思う。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		遊園地（職員）	・景気回復への期待感が高まっており、2、3か月先の景気はやや良くなる。	
		ゴルフ練習場（経営者）	・今までできなかった東日本大震災の復興が、年度替わりから少しずつ始まっており、既存の建物の取り壊し、新築改築など建築や設備業者が忙しい。資材も値上がりしている。	
		ゴルフ場（業務担当）	・ここにきて客の動きが良くなってきている。コンペの取り込みも前年を若干上回る形で進んでおり、また、新しい補充募集関係についても動きが出ている。全体的には前年比を幾分上回る状況になると思う。ただし、収益関係は単価が下落しているため、改善されるかどうかやや疑問な部分もある。	
		その他レジャー施設 [アミューズメント] （職員）	・給料を含め様々なものが良くなりつつあることは分かる。しかし、それが当業界にまで届くのが先か、それとも経費の増大が先か、そのあたりが非常に微妙である。景気が良くなるだろうと予測はできるが、それが当業界まで実感できるようになるかがポイントである。	
		美容室（経営者）	・これから春先に向かって、おしゃれには出費を惜しまない女性が少しずつ増えてくると思う。	
		設計事務所（経営者）	・消費税増税と物価上昇の前に設備投資を考えると多く出てくると思う。	
		住宅販売会社（経営者）	・消費税増税前に土地を買う客が増えると思う。	
	変わらない		商店街（代表者）	・当店はスポーツ店だが、例年9月ごろまではスポーツのシーズンであることと、今年は何となく今の世間の風潮で、これから良くなるのではないかという気がするため、少しは良くなると思っている。
			商店街（代表者）	・期待はまだまだ大きいですが、来客数が増加し、売上につながる事がみえてこない。
			商店街（代表者）	・円安の影響で、値上がり品の消費意欲減退は、一部の大手企業の社員給料の上昇を上まわっているようである。最寄り品を扱う商店は厳しい現状が続いている。
			一般小売店 [精肉] （経営者）	・アベノミックスの影響も地方ではまだ浸透していない。輸入品の値上がりで物価が上がってきているため、まだ変わらないだろう。
			一般小売店 [家電] （経営者）	・商品の値上がり傾向に消費者は動じず、買い急ぎ、買いだめの動きもありみられないが、客足は安売りの店、量販店へ向いている。専門、一般小売業はますます厳しい状況にある。
			一般小売店 [乳業] （経営者）	・まだまだ消費意欲が上がってくる気配がみえない。
			百貨店（販売促進担当）	・年初からの円安、株高が今後も継続するかは疑問である。一般消費者の可処分所得が増えたとしても、今までの慎重な消費行動が継続すると思う。
スーパー（店長）			・曜日ごとの客数は、数か月間変化がない。	
スーパー（統括）			・円安や株価の上昇が一部の消費を押し上げてはいるものの、ガソリンの値上げや電気料金の値上げ予測などのマイナス要素も強く、全体への波及はまだ先と思われる。	
スーパー（経営企画担当）			・円安、株高で景気の良い話も聞こえてくるが、小麦粉、油といった輸入食品などの値上げが目白押しであるため、消費に悪影響を及ぼすのではないかと。	
スーパー（商品部担当）			・世間では、給料のベースアップなど良い方向に向いている感じはするが、当社や当地域の情勢を見てみると、3か月後に上向きになる感じがしない。	
コンビニ（経営者）			・競合店との競争を勝ち抜いていくには、3か月くらいはかかるのではないかと。	
コンビニ（経営者）			・夏前であるため、特別売れる物がない。	
コンビニ（店長）			・良くなる要素も悪くなる要素も、今のところ特に考えられない。状況としてはあまり変わらないと思うが、当店のこの悪さは依然として続いていくと思う。	
衣料品専門店（店長）	・食品や電気代などの生活必需品の値上げがあり、その影響により消費マインドが低下傾向である。			
乗用車販売店（販売担当）	・変わらないと思う。景気は良かったのだが、徐々に来客数が減っており、売上も徐々に落ちている。この状態がこのまま続くのではないかと。また、客が来ててもなかなか決めず、決めたとしても値引きが厳しくてとても大変である。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（管理担当）	・円安による為替差益や株価上昇による利益が出ているが、これは大企業や製造業の一部にしか効果がなく、中小零細企業は依然厳しい環境である。また、円安による燃料単価の高騰は消費者の負担を増やしている。
		乗用車販売店（統括）	・現在の状況が継続していけば良いという希望である。
		自動車備品販売店（経営者）	・株などは多少良くなったものの、当地域の経済に関しては、円安や株高の恩恵の実感があまりなく、上がっていく材料が見当たらない。しかし、特に悪くなることはないと思う。
		住関連専門店（店長）	・客1人当たりの買上点数、客単価共に伸びているが、競合店の影響で景気はあまり変わらない。
		住関連専門店（仕入担当）	・生活必需品に関してはまだ様子見の感があり、これまでと大きな変化は見込んでいない。逆に、円安による仕入価格の高騰は動きが顕在化してきており、利益の確保が急務である。危機感が増している状況である。
		一般レストラン（経営者）	・物価上昇や株高、円安の影響が、一般消費者に影響が出てくるのは、まだまだ先に思える。大手企業と、そのほかの大部分の企業や国民の間に差がありすぎるのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・円安や株価上昇により、一部の企業は良い方向に向いていると思うが、我々、末端の中小企業に関しては、全く良い方向には向いておらず、あまり変わらない。
		スナック（経営者）	・変わらないとしたが、今の悪さがそのまま変わらないという希望的観測である。また、今騒いでいるアベノミクスなどは、末端まで届くにはなかなか時間がかかるような気がする。その時はもう遅いような気がするが、良い方法があったら教えてほしい。
		観光型旅館（経営者）	・前年と比較すると人の動きは良いが、前年が特に悪かったため何ともいえないところである。周囲の景気はやや良くなってきているようだが、旅館などサービス業は、収入が増えてからの剰余金によって人が動くため、景気回復のタイミングは1テンポ遅れる。そのため2～3か月先はまだ現状維持である。
		都市型ホテル（支配人）	・当地域に来るビジネスマンは東日本大震災前の状況に戻ってきたが、観光客、行楽客はまだ2～3割減のまま推移している。福島第一原子力発電所の事故による風評被害がまだしばらく続くと思う。
		都市型ホテル（営業担当）	・ここ1、2か月のなかでは、様々な指標も良くなっていることもあり、景気はやや上向いてきているとのことだが、そのまま上昇していくのではなく、この後少し停滞する期間があるのではないかと。ホテルの宿泊の景気としても、現在やや良くなっているのだが、このような状態で2、3か月続くと感じている。
		旅行代理店（従業員）	・もう少し時間がかかると思う。
		通信会社（局長）	・個人消費の改善が実感できるまでには、まだまだ時間がかかりそうである。
		テーマパーク（職員）	・期待値ではやや良くなると思っているが、現実的には好転する材料が乏しい現状があり、良くなると思えない。
		ゴルフ場（支配人）	・近隣に経営者が変わるゴルフ場が数多くあり、一連の客単価が下がってきている。集客における努力のため、客単価の減少もみられる。
		競輪場（職員）	・日本で一番大きいレースが開催されたが、その売上が思ったほど伸びていない。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	・ホテルの宿泊の予約状況については、かなり上向きになってきている。しかし、他の施設やテナント等については、横ばいもしくは下がっているため、全体的にみると変わらない。
		設計事務所（所長）	・一向に進展がなく、建設投資が可能な状況になるには、まだ時間がかかると思う。
		設計事務所（所長）	・今月成果があったおかげで受注の貯金もでき、今後2～3か月は今月と変わらず安定する。
		住宅販売会社（従業員）	・株高による消費の回復がどこまで続くか不透明である。また、地方への波及効果は遅く感じられる。
		住宅販売会社（経営者）	・現在は少し良くなっているが、その状態が上限であり、これ以上に良くなる印象は薄い。
	やや悪くなる	一般小売店〔青果〕（店長）	・近隣の大手企業が合併により7月で整理され消滅する。その後の行方をみないと分からないが、今のところはリストラ、リストラ、リストラで景気は悪い一方である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（販売担当）	・景気が良くなっているという判断が、至るところで報道されているが、やはり来店客は実感が無いというのが本音だと思う。このところ幾分買物客に動きが出てきた感じだったが、その動きがまた少し小さくなりつつある。そういう様子をみていると今後もあまり期待できず、やや悪くなっていくと予想をしている。
		乗用車販売店（従業員）	・需要期も過ぎると販売台数が落ち込むのではないかと危惧している。消費税の引上げ動向によっては変わると思う。
		乗用車販売店（販売担当）	・3、4月は、恐らく卒業、入学、就職関係により、一過性で新車、中古車の販売が伸びる。当地域は観光地のため、2、3か月先の5、6月ごろに観光客は来るが、そこに勤めている人や商売をしている人は車に目がいかなくなる。そのため、当然2～4月と比べて販売台数が落ち、それほど良くなる要素はなく、やや悪くなる。
		高級レストラン（店長）	・当店がある商店街も、数か月以内に数店舗閉店すると聞いている。商店街の通りの半分以上が空き店舗になり、良くなる要素が見当たらない。
		スナック（経営者）	・4～6月の今までの動向をみると、毎年売上が減っているため、今よりは悪くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・3か月先の6月は、今の時期より少し売上等が悪くなると思う。たまたま総会の時期ではあるが、会場関係においては3月よりは多少落ち込むのではないかと。景気が1日も早く良くなってくれれば有難い。
		タクシー運転手	・同じ地域で競合他社が1社増える予定である。
		タクシー（経営者）	・利用客が少ないため、この先も悪いと思う。
		通信会社（経営者）	・円安による仕入価格高騰で利益がひっ迫している。デフレ慣れした消費者は価格高騰に敏感で、かえって値上げが難しい。デフレ脱却といっても現実には2～3年はかかるだろう。
		通信会社（営業担当）	・無理は続くことなく、再び将来に向けた蓄えに戻る。
悪くなる		一般小売店〔衣料〕（経営者）	・最近、近隣の飲食店などは外国人が来て結構にぎやかだと聞いている。しかし、そういったことがあっても、なかなか全体に回らない感じがする。このような状況のため、これからもあまり良い状況は生じないと思う。
		タクシー運転手	・3、4月は歓送迎会の時期であるため、例年多少は動くが、それが終わるとがたっと減る。今年も悪くなると思う。
		通信会社（経営者）	・地方都市の一零細企業が経営を維持していけない状況が続く。元本返済の滞る企業への貸出しは銀行も拒む。こういう時期こそ、本質の金融緩和が必要に思われてならない。
企業 動向 関連 (北関東)	良くなる	食料品製造業（営業統括）	・アベノミクスも徐々に効果が出始めているのか、ほかの酒類からワインへの移行がみられるようになってきている。更に付加価値の高いワインに向かうと考えられる。
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	・太陽光発電の500キロワットの半メガソーラーが複数か所で立ち上がる予定である。
	やや良くなる	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・アベノミクス効果は当業界にまだ及ばないが、大いに期待している。
		金属製品製造業（経営者）	・取引先より連絡があり、4月から受注が多くなるため、これから良くなる見込みである。楽しみにしている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・中国市場に向けた油圧ショベル部品の生産が回復傾向にあることは明るい話題だが、現地生産、現地調達動きがますます加速しているため、国内生産のボリュームが今後大きく戻ることは期待できない。しかし、自動車、油圧機器、航空機等の新規の動きも確実に出てきている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・大手銀行、大企業が良くなってきているため、我々中小企業もこれ以上は悪くならず、少しずつだが忙しくなるのではないかと。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・大手自動車メーカーからの生産の3か月見通しによると、4、5月は6、7月の前倒し関係の発注がくる。そういう部分では伸びるが6、7月を調整しているため、その先がやや不透明になってきた。一方では、4月からのコスト軽減要請があるため、収益的には厳しくなっている。全体的には上向きの状況に入っているが、3か月先以降になると不透明感がやや強まったという感じを受けている。
		建設業（総務担当）	・補正予算の恩恵が数か月後には顕在化してくれると思う。
		金融業（調査担当）	・経済対策の効果は少しずつ見え始める。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（経営企画担当）	・製造業関連において、円安により輸出が伸びることへの期待感があるほか、建設業、建築業関連においても、政権交代による公共工事の増加や消費税増税に伴う新築住宅の駆け込み需要への期待感がみられる。また、サービス業関連において、観光地が観光シーズンに入ることや、高速道路のトンネル崩落事故に伴う通行止めが解除になったことなどによる期待感がみられる。
		経営コンサルタント	・漠然とした消費マインドの高揚を期待する向きもあるが、食品など生活のレベルアップにつながるような消費の増加、それに伴って生産増加をもたらすような景気の好転には時間がかかるという見方が多い。
	変わらない	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・官庁関係については、相変わらず見限りもかなり下げないと駄目な状況で、実際には変わらないと予想している。
		化学工業（経営者）	・期末のため、駆け込みの注文も結構あり今は良いが、新年度からしばらくの期間は受注の動きが鈍くなってくる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・ソーシャル・ネットワーキング・サービスでのPR効果が徐々に始めている。クラフト体験のシーズンを前に、体験工房へのPR等、地道に展開していく程度しか策がない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・現在の受注先については下げ止まりをしており、当分現状維持で推移するとみられるが、採算を割るところまできているため、非常に苦慮している。新規開拓の努力をしているが、結果が出るには半年以上かかりそうである。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・何社かやはり仕事が少なくて十分でないということを聞いている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・主要の客が6月分から仕事の約半分を中国生産に切り替えるため、売上の約3割落ちてしまい、非常に厳しい状況になっている。今後も回復の見込みがなければ新規の開拓をするしかないのだが、状況としては非常に厳しい。近年にない厳しさになると思う。
		電気機械器具製造業（経営者）	・来月から新機種の生産が開始予定であるが、厳しい単価の要請を受けている。また、新機種の生産数がまだ不透明である。
		輸送業（営業担当）	・ドア・ツー・ドアの手軽さでインターネット通販などは今後も荷扱いは増えそうである。また、アベノミクスの景気誘導により、アパレルや高級化粧品などの荷扱いは増えてきそうである。しかし、円安による燃料費の負担が厳しく、利益は薄くなりそうである。
		通信業（経営者）	・アベノミクスという言葉だけが独り歩きしており、実際、景気対策の効果が出ている感じは全くない。
		金融業（役員）	・地方にはまだアベノミクス効果がほとんど届いていない。具体的には、公共工事、あるいは自動車関連などではまだ効果がない。したがって、成長戦略が出たあとどのくらいの数字が出るか、参議院選挙が終わったあとが一つの山場だと思う。
		不動産業（管理担当）	・管理する建物の受注金額は、横ばいか少し値下げされており、その分を多少増える小修繕のスポットでカバーする。世で言われている好景気は、地方の当社のような業種にはすぐに影響がない。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・物価上昇2%に見合う賃金改定が言われているが、店主、企業主の多くは将来の不安が拭いきれず、とても上げられないと話している。
		司法書士	・皆と話していて、景気回復の効果が数字に表れてくるのは秋の終わりぐらいというのが大筋のようである。
		社会保険労務士	・多くの事業所で雇用保険の資格取得者よりも資格喪失者のほうが多い。今のところ、この状況が変わる雰囲気はない。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・客の情報化投資の改善はみられるが、従来型の受託型の情報化投資は減りつつあり、モバイル系の活用やクラウド向け商材に客の投資意欲が出てきている。
	やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・今月は年度末で忙しさもあるが、利益、資金繰りなどの面では相変わらず大変である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・期待はしたいが、仕事が減ってきた現状をみると先の見通しは厳しい。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・4月は展示会シーズンであるが、それに向けたオーダーは少ない。商品価格が高騰しているため、小売店からも先を見込んだ発注は少なく、回復には時間がかかる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	不動産業（経営者）	・業種により景気の回復に差があるようである。回復しているとの話題はあるが、収益増までには至らず、備品類の補充等の必要経費で精一杯である。
		食料品製造業（製造担当）	・今月は中国産が値上がりし、来月はアメリカ産の原料が7%ほど上がる。売上が落ち込んでいる状況での原材料の高騰は、財務内容を本当に厳しくさせる。
		建設業（開発担当）	・3月は公共工事施工が忙しいが、4月以降は例年発注が少ない時期になってしまう。今期は補正予算が計上されたため期待したいが、当社に関わる工種はどうか分からない。今後は民間工事に力を注ぎ受注確保を目指したい。
雇用 関連 (北関東)	良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・アベノミクス効果で消費意欲がおう盛であり、また、円安、株高が地域の製造業を中心に、活力を付けてきている。
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・4～5月にかけての連休に向けて、気温の変化はあるが比較的早くに暖かさが戻ってくると思うため、衣料品関係や、花見が大体終わってくるころだが北上すればかなり上向き傾向になり、食料品等と酒の伸びが期待できると思う。ただし、住宅関連や建設関連については、まだ今のところ不透明なところもある。
		職業安定所（職員）	・相当数の求職者数はあるが、求人数の微増、就職者数の急増、事業所からの情報等から今後はやや良くなる。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・仕事に安定感がなく、まだ忙しい感じではない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・今後、円安と株価の安定が長く続くようであれば、中小零細企業の景気が上向いてくるが、それに伴う求人がすぐに増加するのはまだ大分先になる。
		職業安定所（職員）	・景気回復に期待し、在職中の新規求職者数が増えている。また、新規求人数も復興関連の影響から、建設業、運輸業関係が増加しているが、有資格者や経験者を希望する求人が多くミスマッチとなっている。
		職業安定所（職員）	・企業側の採用意欲の高まりは依然感じられず、正社員求人がもっと増加してこない、厳しい雇用環境は変わらない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（管理担当）	・クライアントによる直接の期間雇用等が増えて、派遣の要請が減少する。
		職業安定所（職員）	・ここ2か月の新規求人については、前年同月比でみると、1月は1割減、2月はほぼ横ばいとなっている。新規求職者数については、関連主要企業及びその関連企業で、現在、早期退職の希望者を募り12～3月にかけて実施しているため、3月の求職者数が増加してくる見込みであり、また、例年4月は新規求職者も増加してくる。有効求職者数も当然増加見込みであるため、やや悪くなると判断した。また、企業訪問時等において、管内の複数企業での合併で主要企業では一部事業が経営統合などもあり、そうした影響から県北地区の仕事量の減少を心配する声も聞かれる。新規求人関係は少し厳しい状況になりそうである。
		悪くなる	—

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	良くなる	商店街（代表者）	・アベノミクスと私鉄の相互乗り入れのダブル効果により、更に良くなると思われる。景気が上昇軌道であることに加え、商圈が広がるという二重の効果は大きい。
		コンビニ（経営者）	・これからは暖かくなるため、買物客が相当多くなるのではないかと。
		家電量販店（営業統括）	・引き続き円安の後押しと、政府の取り組みによって訪日観光客は増加していくと考えている。メイドインジャパンの高額商品は東南アジア圏を中心に中国、台湾の客にも需要がある。日本人の国内消費は4月以降も株価が上昇し、実質的な給与増が実感されると、確実に消費行動が活発化する。高機能のエアコンも売れ筋になると思う。
		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	・政府、日銀の打ち出す政策に期待が持てる。
		旅行代理店（支店長）	・5月22日でスカイツリーは開業1周年を迎える。その関係でその企画やそれに付随したイベントの問い合わせもあり、また、実施が予定されているため良くなる。また、1周年ということで団体の問い合わせが多くなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（経営者）	・政府によるデフレ脱却の意識が感じられる。
		観光名所（職員）	・2か月後はゴールデンウィークとなり、トップシーズンを迎えるため、今月よりはかなり良い成績を期待している。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・2%のインフレ目標が現実化されれば、おのずから世間の景気も良くなると楽観している。
		一般小売店〔家電〕 （経理担当）	・実際の売上は良くないが、今月になり、見積依頼が増えて良くなりそうである。
		一般小売店〔家電〕 （経営者）	・アベノミクスの効果が出て、上がってくるのではないかと期待している。
		一般小売店〔家具〕 （経営者）	・気温が上昇しており、株価も上がっている。やはり一般消費者の心理的状況が、幾らか明るいほうに向いていくのではないかと。
		一般小売店〔祭用品〕 （経営者）	・新年度、新たに増えるであろう顧客に期待する。
		一般小売店〔文具〕 （販売企画担当）	・まだ予断を許さないかもしれないが、客との会話のなかで、25年度中に買える物は買っておこうというような話が出ている。消費税が次年度上がることによる対応が求められてきており、期待できる。
		百貨店（売場主任）	・円安、株高の傾向が今後も緩やかに続くと思われ、また、一般企業の給料等も上昇の兆しがあるとの報道から、徐々に景気の回復が想定される。
		百貨店（総務担当）	・引き続き円安、株価上昇傾向が続く。
		百貨店（広報担当）	・ここ数か月でみると、このままの売上の増加傾向が続きそうである。日銀新総裁も景気浮揚策支持を発表しており、短期的な株式などの利益確定売りは出るかもしれないが、全体的には上昇傾向は維持される。ただし、参議院選挙後の消費税増税やTPPへの関わり方など、中長期的には不確定要素が多く予断を許さない。
		百貨店（営業担当）	・街全体に人が流れているのは良い傾向である。私鉄の相互直通運転の影響もあり、流出の危惧もあったが、今のところは大きな影響はなく、しばらくは堅調な伸びに期待したい。
		百貨店（店長）	・株価と給与の上昇による購買意欲の上昇が期待できる。
		百貨店（販売管理担当）	・景気全体に持ち直し感が出ており、一部持ち直しがみられた高額品だけでなく、一般の衣料品にも同様の傾向がうかがえることから、広い所得層の間で消費意欲や購買意欲が回復傾向にある。
		百貨店（副店長）	・高額品である宝飾、時計などの客単価は上昇傾向であり、今後高齢者にも景気回復感が反映してくれば売上が上昇傾向になると思う。外商の顧客層の動きは確実に良くなっている。しかし、百貨店からの不断な集客対策が奏功しないと一般顧客の回復は簡単ではない。
		百貨店（営業企画担当）	・カード顧客向けの施策を実施したところ、反響が大きく、前年売上を大幅に上回っている。
		百貨店（管理担当）	・大手企業による賃金アップへの積極的な取り組みや、年度末の株価上昇による景気回復への期待からである。
		スーパー（店長）	・今後、流通に関しては消費税増税問題も控えているが、最近の企業の賃上げや株高等をみると、日本経済が好転をしてくていると思う。今後も景気が良くなっていくと思われ、景気が良くなれば客の購買意欲も高くなるため、今月と比べて更に良くなっていくのではないかと期待している。
		スーパー（店長）	・競合店ができて今が一番底だと思っている。そのため3か月先は今よりも数字が改善されるという期待値を込めて、やや改善される。
		スーパー（営業担当）	・円安、株高の基調が継続している。継続している限り、消費意欲が徐々に増していき、今後の見通しは明るくなっていくのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・季節的な要因だが暖かくなるため、客の動きも良くなると思う。今の景気状況が一般にも普及するようになるのではないかと期待している。
		コンビニ（経営者）	・短期的には少し良くなると思うが、決して楽観できない。
		コンビニ（経営者）	・幸福価値商品を求める客の流れは当分続くと思う。
		コンビニ（経営者）	・気温が上がると、少しずつ上向いてくる期待と、客単価が高くなってきているため、改善方向に期待している。
		コンビニ（商品開発担当）	・各部門の達成率と予算から、やや良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・新政権の景気対策が少しずつ効果が現れてきており、明るいムードになってきているため、これからの期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（営業担当）	・景気、売上等は上がるが、消費税増税により、その後2、3か月影響するのは明らかである。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備と販売をやっているが、整備、販売共に今月は順調である。販売は先月まではあまり良くなかったが、消費税増税による前倒しだと思う。また、景気が回復してきているのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・アベノミクス効果で株価も上がり、新車の販売台数も増えて景気が良くなってきている。
		乗用車販売店（販売担当）	・新車の需要も伸びているが、今まで成約率の悪かった中古車も高くなっている。特に建設関係ではダンプカー、ミキサー車、クレーン車は、非常に納期がかかるため、即使える中古車の価格が高くなり、成約率が上がっている。景気は徐々に良くなっている。
		乗用車販売店（渉外担当）	・エコカー免税、減税は継続しており、ハイブリッド車や新型車は好調に推移している。東日本大震災やタイの洪水等の反動からV字回復した前年には及ばないが、前年比10～15%減でここ数か月推移しており、楽観視はしていないが消費行動も続くともみている。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・競合店がますます増加しているが、社内の体制変更により店舗が活性化してきているため、3か月後が非常に楽しみである。
		その他専門店〔雑貨〕（従業員）	・新規に出店した店が非常に好調であることから、まだまだ開拓できていない客層の店は、需要があると思う。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・物販店の動きに着目すると、少し潮目が変わった感じがする。世間一般に気持ちが上昇方向であるように感じる。
		高級レストラン（支配人）	・今月に入り中国からの客も来店し始め、4月以降期待が持てる。
		一般レストラン（経営者）	・新政権になり、アベノミクスが浸透してきて景気も少しずつ上向いてきたような気がする。道路も混んできており、平日でも客が結構入るようになってきている。今後、少しずつ良くなるのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・円安、株価上昇もあり、テレビ等の影響もあって景気が少しずつ良くなっているようにいわれているため、少しずつダブルを脱却して、景気が良くなってくると思う。不動産、建築等が良くなってくれば、飲食店も良くなっていくような気がする。
		一般レストラン（経営者）	・若い人の起業が多いため、地域の若返りが感じられる。
		一般レストラン（店長）	・まだまだどうなるか分からないが、希望的観測を込めて良くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・株価等も上がって実体経済に徐々に反映し、ホテルにも好影響が出てくると思う。
		都市型ホテル（スタッフ）	・来客数、販売量共に緩やかではあるが伸びてきており、この流れが続けば全体的に良い方向へ向かうのではないかと。個人、法人共に消費回復に期待したい。
		旅行代理店（従業員）	・国内団体旅行の見積件数が増えている。また、1泊2日から2泊3日へと滞在日数も増えてきている。
		タクシー運転手	・暖かい春を迎えるにあたり、新入社員等の活発な動きが始まると思う。これから明るさを取り戻し、前面に出てくるのではないかと。
		タクシー運転手	・政権交代後、幾分か良くなっているように感じる。昼間や深夜に動きがあり、全体として需要があるため以前に比べ実車回数、距離共に伸びている。
		タクシー運転手	・円安でガソリン価格が高騰している、また消費税も来年4月から増税されるが、春闘で労働者側の要求を満たす回答が一部出ており、賃金が上がれば消費も増える。しばらくは景気は上向きで推移する。
		通信会社（経営者）	・昨年末に販売開始した商品の獲得計画を2013年度は倍増し、需要喚起を期待している。
		通信会社（経営者）	・円安等、新政権への期待感から消費も何となく増える。
		通信会社（社員）	・新年度を迎えるが、新サービスの伸びが期待できる。また、春闘の結果などでボーナスや給料がアップする会社も多く、気分的な要素もあり、新規契約も増加するのではないかと期待している。
		通信会社（営業担当）	・景気の先行きに明るい兆しがみえてくれば、上向きに推移していくと思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（総務担当）	・大手企業等における春闘では、ベースアップやボーナスアップの要求が経営者側に受け入れられ、所得が少し増える見込みのためである。
		通信会社（局長）	・アベノミクス効果かどうかは分からないが、中間所得層の分譲マンション購買も増えていき、連動してエコ商品系を絡めて購買意欲が高まる可能性があるように思う。
		通信会社（営業担当）	・連日の好景気のニュースで、一般消費者は今後、景気が良くなると感じてはいると思う。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (店長)	・ここ2～3週間急に下落したが、来客数に関しては若干回復の兆しもみえており、一時的なものだと思う。
		その他レジャー施設 (経営企画担当)	・催事や宿泊施設の予約が堅調に推移している。政府の経済政策の最終消費者への効果にも期待する。
		美容室（経営者）	・政権交代し、全体的な工事や企業の動きが活発になり、客の懐も少し良くなってきたと感じる。
		その他サービス [保険 代理店]（経営者）	・年度末でのメーカー決算の影響を鑑みても、この先まだまだ顧客の購買意欲が上昇するように感じる。来年度もアベノミクスに期待している。
		その他サービス [福祉 輸送]（経営者）	・円安と株価が案外良い水準で推移しているため、消費者、また店の状況が良くなっていると感じている客が多い。4月の昇給等で給料等が上がれば、更に消費動向は上向くのではないかと。ただし、自動車販売業では昨年実施された補助金が今年は縮小されるか、あるいはないという状態のため、昨年まで景気を引き上げてきたマイカーの台替えについては、若干マイナスの効果もあるのではなかと考えている。
		設計事務所（所長）	・先のことははっきりしないものの、新年度になって良くなっていくことを期待して、やや良くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・やや良くなることに期待している。新政権に変わってから数々の景気対策が打たれているが、その効果がいつごろ出てくるのか分からない。即効性のある景気対策を期待している。今年中に明らかに景気を回復させないと、来年4月1日から消費税を上げることができないのではないかと。
		住宅販売会社（従業員）	・今の状況より良くなると思うが、仕入の状況が厳しく、売主はもっと景気が良くなるだろうと売り渋りをしている感じが若干ある。公示時価も下げ止まりの報道があるため、いかに仕入をうまくするかが今後に影響してくると思う。
		住宅販売会社（従業員）	・アベノミクス効果と消費税増税前の駆け込み需要が始まっていると思われる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要が増えると思う。また、土地の流通が良くなって価格が上がり始めており、流通は更に良くなると思う。
	変わらない	商店街（代表者）	・一時的なものかと思うが、良くなって欲しい。
		商店街（代表者）	・最近の様子は中国、北朝鮮の問題がかなり悪くなっていることがはっきりしてきたため、その点もどうかしないかと難しい状態が出てくると思う。
		商店街（代表者）	・新聞、あるいはテレビ等では、円安になり、株価が上がって景気が非常に良くなると報道しているが、東証一部上場企業のある特定の企業にとっては非常に良い状況になってきているが、我々中小零細の小売業にとっては、まだそういう状況は全く感じられない。
		商店街（代表者）	・マスコミでは、アベノミクスで景気が良くなるといっているが、その半面、電気料金等の値上げがあるため、どちらとも言えない状況である。
		一般小売店 [家電] (経理担当)	・悪くなることはないと思うが、だからといってすぐに良くなるとも思えず、今の状態が少し続くのではないかと。様々な物の値上げが伝えられており、また、賃金が上がる傾向といわれているため、財布のひもを固くするか、消費者は悩みどころだと思う。
		一般小売店 [文房具] (経営者)	・今月は再開発の問題等で忙しくしていたため、業績があまり良くなかった。この先もしばらく工事関係の問題に追われ、業績はあまり芳しくないのではないかと。
		一般小売店 [印章] (経営者)	・テレビ等で見る限りでは景気が上向きであると非常に消費者をあおってくれる部分はあるが、商売をしている人間としては、末端まで景気が上向きになるにはまだまだ時間が相当かかるような気がする。T P Pの問題もまだはつきりしておらず、まだまだ先は厳しい道のりではないかと思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・大企業が給料を上げると出ているが、実際、中小零細企業はそのようなことはないため、このような状況が続くか、もしくは値上げなどが出てくると更に購買意欲が落ちてくるのではないかと心配している。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・今後、新茶の時期を迎え先行きの売上が気になるところだが、最近の気温の差が激しい状況で、お茶の新芽の成長が心配である。新茶の収穫時期に霜が降りないように祈るばかりである。
		百貨店（営業担当）	・円安により、価格の上昇が今後出てくることが予想され、婦人服全般にとってはより慎重な買い方になることが予想される。
		百貨店（営業担当）	・春物衣料等が前倒しとなり、夏衣料までの間の落ち込みが懸念材料である。高額商品が若干伸びをみせているが、全体を引き上げるまでいかない。
		百貨店（営業担当）	・アベノミクスへの期待から円安、株高の傾向が続いているが、個人消費への波及はまだ実感がない。ただし、婦人服を中心とした衣料関係は好調に推移している。
		百貨店（販売促進担当）	・一部高額品の動き等からみて景気自体は上向いていると思うが、個人客の消費は慎重であり、あまり変わらない。
		百貨店（営業企画担当）	・株価などが現状のまま推移すれば、現状維持されることが想定される。
		百貨店（営業企画担当）	・天候は変動要素だが、政府の政策や企業業績の回復を反映し、株価や景気は堅調に推移すると思う。
		スーパー（経営者）	・マスコミの情報では良い会社も結構あり、アベノミクス効果で景気が良くなったという話も聞くが、我々の業界は、まだまだそういう状況ではない。加えて値上げラッシュになるため、客の消費も厳しい状況であり、当分の間良い状態は続かないと思う。
		スーパー（店長）	・家計を預かる主婦の客が大多数を占めている業界においては、一部の業種だけではなく、全体的に所得そのものの底上げがない限り、まだまだ厳しい状況は続くと思う。
		スーパー（店員）	・多少なりとも来客数は増え、買上点数も増えてきている。ただし、大半が低価格品によるもので、所得アップなどからくる購買意欲増とは言えない。また、他社との価格競争のなかで集客できるかがポイントとなると思う。
		スーパー（総務担当）	・円安になり株価が上がってきたなかで、輸出は良いかもしれないが、個人消費に回るお金がまだまだ少ない。また、石油をはじめとする輸入品の価格が上がって原価が上がり、生活必需品を売っている小売店としては、こちらに回ってくるお金が少なくなってくるように思う。来年以降の消費税増税も非常に厳しいところである。
		スーパー（仕入担当）	・輸入商品が多く、円安によって仕入価格が上昇傾向にあり、売価へ即反映できない商品を中心に利益の低下がますます懸念される。
		コンビニ（経営者）	・客は皆、節約をしているように感じている。また、給料に関し、大手企業がベースアップするような話を聞くが、一般の中小企業、個人商店、当店のようないくつかのコンビニエンスストアでは、なかなかそのような対応ができない。底辺のほうからお金の回り方が良くなるように政策を打ってもらいたい。
		コンビニ（経営者）	・隣にある大手通信会社の社宅の入居者が、現在ほとんどいないため状況は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・たばこによる来客数の減少トレンドは5月ごろまでは続くと予測しており、今月とトレンドは変わらないとみている。6月以降は回復する見込みである。
		コンビニ（店長）	・節電など全体的に節約傾向が広まっているが、消費動向に関しては比較的良くなるという予想が出ている。しかし、現時点では時間がかかるように思える。
		コンビニ（商品開発担当）	・販売拡大につながる大きなニュースもないが、販売縮小につながるニュースもなく、大きな変化はないと思う。
		衣料品専門店（経営者）	・アベノミクスで景気が上昇するような記事を見るが、まだまだ末端の小売店には影響はない。売上が上がるのは、まだ当分先のように思う。
		衣料品専門店（経営者）	・アベノミクスで上辺だけ景気が良いように映っているが、実体経済はまだだと思ふ。逆に円安による値上げがあり、一部では良いようだが、小売業のような末端業者にとっては効果がいつ現れるのか分からない状態である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・春物と初夏物が混在しており、売上と共に数字もみえ難くなっている。市場の話題性で何かきっかけがないと、大きな購買に結びつかない。訴求に対してもシビアで、大きな動員もできにくい状況である。
		衣料品専門店（経営者）	・今の状況では、早くても秋口まではこのような調子が続くと思う。また、年金受給者の先行き不安の声が聞こえ、消費はかなり控えられている様子である。
		衣料品専門店（店長）	・景気が上向きとの報道があるが、実収入の増加までにはタイムラグがあり、消費の増加が数値に表れるのはまだ先である。全企業の給与に反映するのには相当の時間がかかると思う。
		家電量販店（店員）	・家電量販店は新年度を迎えても厳しくなる可能性がある。だからといって具体的な対策を視野に入れない限り、回復の兆しは見えてこない。
		家電量販店（統括）	・ヒット商品不足である。夏商戦でエアコン頼みになると思う。
		乗用車販売店（経営者）	・アベノミクス効果か、先月は良かったが、決算月である今月は決して景気が良いとは言い難い。
		乗用車販売店（営業担当）	・政治や経済に大きな変動があるが、消費者は冷静であり、市場の動きが鈍いため景気の上昇は難しいと思う。
		乗用車販売店（総務担当）	・今後についても大きな伸びは望めず、現状維持で推移していく感がある。インパクトのあるCM等により、購買意欲が増すことに期待している。
		住関連専門店（統括）	・まだまだ景気が良くなる要素が見当たらず、現状のまま3、4か月は同じ状態で推移すると思う。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・食料品に関しては、アベノミクスの恩恵は期待できない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・現状の傾向は期待感からくるものであり、実態が伴っていない場合は、この傾向に変化があると思う。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・春以降、海外でのイベントの盛り上がりには期待できるが、実売に結びつくのは年末ごろと思う。
		一般レストラン（経営者）	・政権交代による期待感も少し収まり、参議院選挙までは様子見という感じで消費を控えている気がする。
		一般レストラン（経営者）	・これからの天気にもよるが 今月の売上は前年比で100%を超えてくると思う。今月は曜日まわりが良いためであるが、来月も前年比100%を超えてほしい。
		一般レストラン（スタッフ）	・職種によって、景気が少しずつ良くなっている客がいるようである。そういう客は経費で落とせなくとも、自腹でお金のことを考えずに使ってくれるが、給料がまだ上がっていない客は、お金を使わない。また、良い場所の店は良くなり、非常に売上が上がっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストランは予約の入り方が少し遅くなってきている。前年同日比較で2割前後予約人数が少ない。宴会も法人宴席の予約の件数、人数が伸びず、婚礼も新規来館がじり貧状態で先は厳しい。宿泊も周辺のイベント数は前年並みとの情報であるが、予約の入り方がどんどん遅くなってきており、人が動いている実感はあるが先の状況は分からない。
		旅行代理店（経営者）	・大手企業やその他、様々な会社でボーナスが上がり、ベースアップが多少あるという話が出ており、実際に実現している所もあるようだが、まだ期待どおりにはいかないのではないかな。
		旅行代理店（従業員）	・受注状況は変わらない。新規開拓もままならない。
		タクシー運転手	・年度末に入ってきたからなのか、または歓送迎会が重なったからなのか、若干客が出てきたような気がする。しかし、時期的なものであり、一時的のような感じがする。
		タクシー運転手	・客のなかには、多少は上向いてきているのではないかという人もいるが、実際、客を乗せても、それほど変わっていないというのが実感である。早く景気が上向くことを祈っている。
		タクシー（団体役員）	・昔からタクシー業界は景気が悪くなる時は一番早く、回復する時は一番遅いと言われている。しばらくは現状のままだと思う。
		通信会社（営業担当）	・ここ数か月は上向き傾向にあるが、契約数からみると前月比横ばいとなっているためである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（局長）	・改善する兆しに関するニュースが少ない。為替や株価の影響は、大企業に勤務する一部が恩恵を受けるだけである。株価についても、原資となる投資マネーを運用する層は限られており、景気回復を実感できる状況にはない。
		通信会社（営業担当）	・アベノミクス効果で株価は上がり、一見景気回復に向かっているかのように報道されているが、物価上昇や消費税増税によって、消費を抑える傾向がしばらくは続くのではないかと。
		ゴルフ場（従業員）	・長引く景気の低迷で、簡単に良くなるとまではいかないと。長い間悪くなると思っていたが、先月同様変わらないとした。
		パチンコ店（経営者）	・低玉貸しでありお金を使わずに遊べるコーナーは結構良いが、店全体としてはなかなか厳しい。また、競合店の変化もさほどない。様々なことから本当はやや良くなると回答したいが、いろいろな面で変化はないのではないかと。
		その他レジャー施設 〔スポーツ施設〕（支配人）	・今年に入りファミリーを中心に来場者数が増えてきたが、今月は頭打ちになっている。春休みに入っても上昇傾向がみられない。
		その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（支配人）	・可処分所得が増えないと基本的にサービス業は厳しい。その可処分所得が増えるのは、夏の賞与が増額された後であり、良くなってくるのは、7月以降ではないかと思っている。
		美容室（経営者）	・早く天気が安定して、人の動きが良くなることを祈っている。
		その他サービス〔立体 駐車場〕（経営者）	・マスコミ等で景気が良くなってきているという報道があるが、当地域まで良くなるには、2、3か月では無理だと思う。
		その他サービス〔学習 塾〕（経営者）	・4月度の新入生が前年と比べ大分減少している。例年に比べてかなり下がっているため、まだまだ経済的には厳しいのではないかと。景気回復の兆しは見られない。
		その他サービス〔学習 塾〕（経営者）	・学習塾だが、前年の入塾者数と今年の入塾者数がほぼ同じ状況である。
		設計事務所（所長）	・アベノミクス、消費税増税等いわれているが、大手企業のみで零細企業にはほとんど影響はないと思う。
		設計事務所（職員）	・世間では、大手企業の給与アップなど話題となっているが、中小零細企業まで浸透するか現時点では不透明である。
		住宅販売会社（従業員）	・受注の糸口である来場者数に変化がなく、今後もしばらくは横ばい状況が続くようである。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要が続き、このままやや良い景気水準が続くと思う。住宅ローンの優遇幅が更に増え、実際、金利を下げている金融機関もあり、今がチャンスと考える客が増えているようである。
		その他住宅〔住宅資 材〕（営業）	・客の様子からも、具体的に何が良くなるというような話はない。
	やや悪くなる	一般小売店〔和菓子〕 （経営者）	・4月から電気料金や小麦粉など、消費者の生活に関わる商品の値上がりがあり、消費者の財布が厳しくなるのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・巷では株価も上がり復調基調もみられるが、末端では相変わらず不景気である。
		設計事務所（経営者）	・3月までの行政の仕事は、耐震診断等が多くあったが年度末ですべてが終わり、これから民間の耐震診断になる。しかし、民間の耐震診断については、まだ補助金制度が決まっておらず、民間の動き、または民間の道路沿いの建物の耐震診断による考え方というのが一様に変化している。もっと具体的な事例があればより仕事が増えると思う。
		設計事務所（所長）	・景気が良くなったといっているが、仕事量が一向に増えてこないのが現状である。業者数に対して仕事量が少なく奪い合いになっており、非常に先行きが暗い状況である。
	悪くなる	一般小売店〔家電〕 （経営者）	・今までなかったが、管理会社からの仕事や客から、どこかで安い商品を仕入れてきて、それを設置するよとの話が出ています。そうすると売上単価が下がっていくため、先細っていくような気がする。商品等に関して大変シビアになっている。
一般小売店〔茶〕（経 営者）		・3月は寒暖の差が大きく、来客数も減少している。特に日曜日が悪いと売上は厳しい状況が続く。	
一般小売店〔食料雑 貨〕（経営者）		・競合店の影響が予想以上に大きいためである。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連	良くなる	その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・アベノミクスの間接的な影響だが、世の中の空気が気候と共に良くなっている。
		金融業（役員）	・アベノミクスに対する期待は大きい。実体経済が動き出すまでもう少しという段階ではないか。
(南関東)	やや良くなる	金属製品製造業（経営者）	・国内生産での需要が戻ってくることに期待をしたい。復興需要が本格的に動き出すのではないか。
		金属製品製造業（経営者）	・見積、成約件数共に増えてきている。納品した物がまたすぐ注文される現象が出てきている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・引き合いの件数が比較的多くなってきており、客も多少活発に動き始めているため、今後の見通しによっては良くなることが期待される。
		その他製造業〔鞆〕（経営者）	・得意先では、近い将来のためにメイドインジャパンを確立したいというような話が出てきている。そういう目標が出てきているため、良くなるのではないか。かなりメイドインジャパンにこだわっているようである。
		建設業（経営者）	・補正予算等で公共事業の発注が期待される。消費者も若干動き出したが、製造業はまだまだ先の見えない状況である。
		建設業（従業員）	・受注状況からやや良くなる。
		建設業（営業担当）	・政権交代後アベノミクスの提言により、不動産及び設備投資など世の中の動きが活発になってきている。新年度へ向けて行政も企業誘致など積極的になってきており、補助金制度を打ち出している。
		建設業（経理担当）	・役所から耐震補強工事に関する補助金が出ており、また、早くしないと消費税が上がってしまうなどと計画している人が前倒しで実行するような雰囲気が出てきているため、これからは少し受注も増えそうである。
		輸送業（経営者）	・内閣と日銀による景気対策によって、非常に長い不況から脱出するといわれている。そういう点では評価していると思う。
		輸送業（総務担当）	・荷主は新年度から増産シフトの予定であるが、運賃、作業賃は低い状態で、採算確保が厳しいが、仕事量は確保されてくる見込みである。
		通信業（広報担当）	・更なる金融緩和と円安、賃上げの影響で景気は良くなる可能性が大きい。
		金融業（統括）	・円安や株高で状況的には良くなっている。また、景気マインドも多少上向いているように思う。
		金融業（渉外・預金担当）	・景気回復の機運は高まっており、引き合いが増加傾向にあることから、短期間では効果は出ないが長期間であれば改善されるとの見通しが出てきた。
		金融業（支店長）	・円安は一服感があるが、株高は続いている。ねじれ国会を解消するための参議院選挙までは、アベノミクスへの期待が大きい。
		不動産業（総務担当）	・空室率の改善とともに、賃料も底打ちした感がある。今後の景気回復が期待できる。
		経営コンサルタント	・新年度などで人の動きも多くなる時期のためである。
		税理士	・円安と株価上昇がこのまま続けば、日本経済に大いなる安心感をもたらすと思う。
		税理士	・北米での日本車や日本製品の売行きは、アメリカの景気回復によって少しずつ伸びていくと思う。一方で中国等がしばらく伸びていく。そして一番良いのはアベノミクスによって景気が回復してきており、円安、株高である。そのため全体的には良くなっていくと思う。
		経営コンサルタント	・期待に近いが、政府の積極的な政策、為替の動きなどから、中小企業にも影響が出てくるのではないか。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・円安の悪影響もあるが、アベノミクス効果がしばらく継続しそうである。
その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・円安、株高の影響である。ただし、物価の上昇が気になる。		
その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・仕事の引き合いは増えている。アベノミクスの影響なのか、取引先も上向きの傾向がみられるため、徐々に良くなると思う。		
変わらない		食料品製造業（経営者）	・まだまだ小売店に来る客は、堅実な買い方をしていると思う。
		繊維工業（従業員）	・現状維持が精一杯だと思う。中小企業金融円滑化法の期限切れ後の金融機関の出方が気になるところである。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・ある特定の顧客から明確な値下げの要求があり、対応した結果は今のところ不明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・希望を込めて良くなって欲しいと考えるが、依然この状態が続く限りは横ばい状態に変化がみえない。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・新年度予算での発注が始まってはいるが、低価格や部数の減少という経費削減面は依然として続く。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・店受けと外回りの営業、両方の仕事をしているが、法人関係の納入先は、まだ低迷している状態で少し下り坂である。しかし、来店客の客単価が少し上がってきたり、印鑑の買上本数が増えたり等、個人が少し上がってきているため、変わらない。
		化学工業（従業員）	・仕入先から原材料の値上げの打診があるだけで、販売先からの発注や見積の増加はみられない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・仕事量は安定しそうだが、原料の値上げ要求が続きそうで楽観できない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・売上の伸びが止まってしまった状態のため、変わらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・今後3か月の生産計画の内示では、受注量が増えている所がそれほどないため、現状維持の状態で行くと思う。
		精密機械器具製造業（経営者）	・新政権になり、様々なことが起こっているが、製造業は円安、円高にかかわらず海外生産へと加速している。TPPは良いこととは思いますが、もしかしたら大きな変化は起こらないのではないかと最近企業の動きをみていると感じる。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・例年の傾向から、桜も咲いてこれから少し上向きになってくと思う。しかし、3か月先の景気は全く分からない。何年か前は上がったら落ちた等があったが、今は小さく波を打っただけである。景気ウォッチャー調査の新聞記事を読むと、少しは良くなった、新政権になって良くなったと言うが、まだ町工場には浸透していない。そのため先行きのことははっきり言って分からない。
		建設業（経営者）	・景気対策の効果が、まだまだ我々のところまできていない。
		輸送業（経営者）	・荷主から、決して景気は良くなってないが、このところ競争相手から仕事が取れたことによって多少増えているという話を聞いた。
		金融業（従業員）	・景気回復への期待感は広がっているが、中小企業の収益環境は改善していない。仕入価格（原材料価格）の上昇が続く一方で、販売価格（請負価格）が低下する傾向には変化がみられない。
		金融業（支店長）	・このまま各業種の売上が上がらず、また、電力料金値上げや、消費税が来年引上げというような話があると、費用のほう膨らむ可能性もあるため、それを差し引くと、まだまだ今の状況から脱出できないのではないかと。
		不動産業（経営者）	・全般的に来客数が減っているため、どの店舗も苦戦している。
		広告代理店（従業員）	・消費税増税での落ち込みを考慮して、前半は抑えた予算執行になりそうである。
		広告代理店（従業員）	・当社の取引先に限り、発注が増えたり、新案件が出たりする兆しはまだ見られない。
		広告代理店（営業担当）	・エンターテインメント、アミューズメント業界との取引が多いため、他業界に比べて景気の影響は反応が遅い。
		社会保険労務士	・良くなる要素が見当たらない。
		経営コンサルタント	・期末を迎え、各中小企業では決算準備とともに、来期計画もあがってきている。その数値内容は、いずれも控え目であり、回復への道にはいくつものハードルがあるとみている。例えば、直近では今月末の中小企業金融円滑化法の期限切れがあり、対応ができなかった破たん企業数など当然報道されるだろうし、騒ぎが収束するまで時間がかかる。こうした条件を加味した来期計画のようである。
		その他サービス業 [情報サービス]（従業員）	・光回線開通数が着実に伸びてきていることから、当面の間この傾向が継続すると思う。
	やや悪くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・今のところ、この先の受注が良くなるという確証はないが、新商品に期待している。中小企業金融円滑化法が期限切れになり、その影響がどうなるかも心配である。
		輸送業（経営者）	・3月は新年度向け商材の増加で少しではあるが活気が感じられた。しかし、それも終了し、4月は3月の反動で、5月は連休による稼働日の落ち込みにより悪化が予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
	悪くなる	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・入札できず売上が落ちるなか、新規の仕事を受注しようと頑張っているが、売上減は避けられない。	
		建設業（経営者）	・消費税増税で悪くなる。ぱたりと止まりそうである。	
		広告代理店（経営者）	・当社の部分的なミスが誘発した面はあるものの、大部分の責任は先方にあるミスで、今後の発注を理由に、理不尽な大幅値引きを承諾させられた。その姿勢が客先にまだあり、今後も値引きのネタ探しと責任のなすりつけにさらされ続けるからである。	
雇用 関連	良くなる	人材派遣会社（社員）	・人材ニーズは堅調と見込まれる。	
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・顧客、新規共に20数件、新しい営業所や支店を出すという増員計画の話がきているため、かなり伸びが期待できる。	
(南関東)	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・為替の安定、株価の上昇など見通しが明るい。国外の経済で不安要素はあるものの、経済が急激に落ち込む要因がみられないため期待感もある。	
		人材派遣会社（営業担当）	・各企業共、業績回復傾向があり、人材の流動化が活性化され、今まで以上に外部人材の活用ニーズが増加すると思われる。	
		人材派遣会社（支店長）	・求人数については、緩やかな増加傾向である。	
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・年度末のこの時期、4月以降での新規オープン案件など、次年度に向けての前向きな話が多い。すぐに求人増には結びつかないが先々に期待感が持てる。	
		職業安定所（職員）	・管内の大手自動車メーカーでは低燃費車の売行きが好調なため、10月から軽自動車の本格生産体制に入る。4～9月までに千人程度の期間従業員の募集計画を発表していることなどから上昇する。	
		民間職業紹介機関（経営者）	・欧米系外国人を見かけることが増えた。同時に外資系企業からの求人が各職種共増加している。	
		民間職業紹介機関（職員）	・求人の増加に伴い、採用数が増えると予想している。	
		変わらない	人材派遣会社（社員）	・円安になり輸出は良いが、輸入品の値上がり気がになっている人が多い。特に燃料価格、ガソリン代がじわじわ上がっているが、転嫁ができずに困るという経営者が多い。
			人材派遣会社（社員）	・大分景気が回復した感はあるが、更に良くなるにはもっと時間がかかりそうである。
			人材派遣会社（営業担当）	・アベノミクスへの期待感で明るい声は聞くが、実際の効果はまだみえてこない。効果が現れるまでもう少しかかりそうである。
			人材派遣会社（支店長）	・求人倍率が回復しており、派遣で働きたい求職者が増えていけないため成約数が伸び悩むと思う。
			求人情報誌製作会社（営業担当）	・若干伸びてはいるが、ここ3か月ぐらいは横ばいとなっている。
			求人情報誌製作会社（営業担当）	・新規取引がそれほど伸びていない。
			求人情報誌製作会社（広報担当）	・現在の景気上向きの傾向は、実を伴っていない感じがする。企業側もすぐに採用を増やすということはないのではないか。
			職業安定所（所長）	・新規求職者数は引き続き減少基調で推移しているが、求人の伸びも鈍化している。アベノミクスも期待感のみ先行している感があり、景気が良くなるとまでは思えない。
			職業安定所（職員）	・新規求人が横ばいであり、また、求職者が少し減っている。求職者が減っているということは、不景気ではないという判断もできるかもしれないが、求職者も仕事がないため諦めているような状況があり、変わらない。
			職業安定所（職員）	・求人数は引き続き伸びており大量求人もみられるが、期限経過による更新も多く、業種や職種によるミスマッチのため充足に至らない。
			職業安定所（職員）	・飲食業や、医療、福祉等の人手不足の業種もあるが、採用について経済動向の様子見している中小企業も多い。
			職業安定所（職員）	・採用者数の動きに変化が出ていない。
			民間職業紹介機関（経営者）	・景気改善の期待感はあるが、実績としてはじわじわと良くなると思う。
民間職業紹介機関（職員）	・採用数、求人数等に大きな変化がみられない。			
学校〔専修学校〕（就職担当）	・求人募集予定の企業の総数は若干増加しているが、採用人数は絞り込む傾向にあり、トータル的には前年度と大きく変化はない。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東海)	良くなる	商店街（代表者）	・ますます景気は良くなる。
		一般小売店〔土産〕 （経営者）	・10月の遷宮に向けて、関連行事も増えてにぎやかになる。
		百貨店（販売担当）	・企業業績が上向き、ボーナスに反映されるこの夏には、客のマインドは更に上昇し、景気の回復傾向が顕著になる。さらに、来年の消費税増税前に、耐久消費財への投資が活発になることから、大きく上向き可能性がある。
		乗用車販売店（従業員）	・自動車購入の際に付けるオプションの単価も高く、活発に売れているため、他社も含めて単価は良くなっている。この傾向が、当面続くのではないかと。
		高級レストラン（スタッフ）	・前年は3月に開催されていた企業関係者による歓送迎会が、今年は多忙を理由に、4月に延期されるケースが発生している。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・周りの雰囲気は良くなると期待している。
		一般小売店〔高級精肉〕 （企画担当）	・景気はまだ好転しないが、消費意欲は好転している。
		一般小売店〔酒類〕 （経営者）	・余裕のあるシルバー世代と、消費が活発な若い世代では、飲食店への来店回数が回復している。
		一般小売店〔和菓子〕 （企画担当）	・参議院選挙までは、現在の雰囲気が続く。今後は、実際の政策がどうなるかによって変わってくる。参議院選挙が、大きな分岐点となる。
		百貨店（売場主任）	・当社が発行している会員用冊子を見て、靴の問い合わせをしてくる客があった。また、新聞広告を見て、当店で取扱があるかどうかを問い合わせるなど、靴に興味を持つ客が増えている。来店して実際に購入する客も多い。靴に関しては、売上が増えてきているため、景気は良くなっている。
		百貨店（経理担当）	・消費者心理を左右する要素の1つである株価は、当面、高止まりすると見込んでいる。株高が続く限り、景気は上方局面にとどまる。
		百貨店（販売促進担当）	・消費者マインドの上昇を受けて、乗客数、客単価共に、前年同月を大きく上回っている。そのため、当分この状況は継続される。
		百貨店（販売担当）	・ベースアップする会社が増えてきていると聞くので、消費者マインドの上向きも続く。
		スーパー（経営者）	・円安、株高が続き、企業のボーナス支給額も増えて、消費は徐々に増えてくる。また、長く続いたデフレは6月までには徐々に収まり、良い商品や高級品が売れてくるのではないかと。円安効果は当分続き、輸出産業にとっては大きな利益を見込めるため、久しぶりに日本全体に明るさが出てくる。
		スーパー（経営者）	・遷宮を迎えるため、当地は参拝客が増加することに期待している。
		スーパー（店長）	・当店は工業都市にあるため、円安の恩恵が大きい。春闘でも、要求通りの妥結が多い。
		スーパー（総務担当）	・和風惣菜や鮮魚、刺身類では、比較的高単価な商品も売れており、販売数は若干増えている。
		スーパー（営業担当）	・景気浮揚に対する期待感から、消費者マインドは上昇している。
		スーパー（営業企画）	・実体経済はともかく、景気の高揚感は今しばらくは続く。それに引っ張られて、消費支出も若干の増加が期待できる。
		スーパー（商品開発担当）	・明確に伸びている商品分野は今までと変わらないが、同時に全体が良くなっている傾向を確認できる。
スーパー（支店長）	・政権に期待する。		
コンビニ（店長）	・株価や地価の上昇などにより景気回復感はあるが、まだ消費には回ってきていない。これからやや良くなることに期待する。		
コンビニ（企画担当）	・所得が改善すれば、景気には良い影響を及ぼす。		
コンビニ（店長）	・4月の新年度を迎え、新しい学生やビジネスマンが増えてくること、大型連休が近づいてくること、暖かくなること、この3点で乗客数は増えてくる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（販売企画担当）	・動きが活発になってきていること自体、良いことである。今後は結果が出てくる。
		住関連専門店（営業担当）	・消費税増税の前に、新築住宅の購入、改修工事の動きがある。分譲住宅・分譲マンションでも資材の値上がりが出ており、早めに購入する動きが出ている。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	・アベノミクス効果が期待できる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（営業担当）	・円安による製造業の業績回復が期待できる。
		一般レストラン（従業員）	・当地の人は雨と寒さが苦手であるため、寒い冬を越せば、足を運んでくれる。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・今のところ増税の話題は出てきていないため、このままいけば上向く。
		都市型ホテル（営業担当）	・客の様子を見ていると、今後も景気が良くなる方向に向かう。
		都市型ホテル（経理担当）	・1人当たり単価が上昇する。
		旅行代理店（経営者）	・アベノミクスの効果が少しずつ地方にも出てきているため、今後は上向きになってくる。
		旅行代理店（経営者）	・政権が安定しているので、夏に向けて景気は多少なりとも良くなる。
		旅行代理店（経営者）	・4月以降は景気回復でますます好調という客の様子が見受けられる。
		旅行代理店（経営者）	・アベノミクスは、他業種では良い影響を与えているため、旅行業界もそれに追随して、4月以降は良い方向に向かう。
		旅行代理店（経営者）	・参議院選挙を控えて、量的緩和の効果が出てくると思われるが、成長戦略が順調に進まない限り、秋には腰折れする。
		旅行代理店（従業員）	・利幅が大きい見積書でも成約できる団体旅行が増えてきており、業績も好調に上がっている。大きな天変地異でも起きない限り、しばらくは上昇傾向が続く見通しである。企業でも、節目の周年イベントとして旅行を実施するケースが増えており、良い傾向である。
		タクシー運転手	・今年の春闘では、大手企業の回答が非常に良いため、ボーナスの時期には良くなる。
		テーマパーク（職員）	・グリーンシーズンを控えて、少しずつ増えつつある近隣からの観光客に期待できる。
		美顔美容室（経営者）	・新客フェアの開催によって、新規の来客数が少しは増えるのではないかと。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税を控え、現行税率での支払の期限となる9月末までの成約に向けて徐々に購買意欲は高まる。ゴールドウィークは、建築業界にとって、この1年を占う大きな山になる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込みのためか、円安に伴う輸入部材の高騰のためかはわからないが、購入するならば早いうちにとの考えで、客の購買意欲は少しずつ上向いている。
		住宅販売会社（従業員）	・多少、上向きになる。
	変わらない	商店街（代表者）	・景気の高揚感はあるが、販売量に動きは見られず、あまり変わらない。
		商店街（代表者）	・来客数の動きから見ても、良くなってきていることはわかるが、小売業はプラスに転じるのが一番遅い業種であるため、良くなるのはもう1、2か月先になる。
		商店街（代表者）	・客単価は下げ止まっているが、景気が上昇しているという実感はまだない。商店街の人通りは多いが、そのまま来客数にはつながっていない。
		商店街（代表者）	・株価やマスコミ報道等を見ると、景気は上向いているように見えるが、実体は全然良くなっていない。今後も2、3か月程度では、今とさほど変わらない。今春から様々な物の値上げが見込まれており、家計は更にひっ迫することから、身の回りの景気は良くならない。
		一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・客と会話していても、大部分の客からは、景気が良くなった感じは伝わってこない。買物する際に、買い増したり買い足したりする感じが出てくるまでは、それほど変化は出てこない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔書店〕 (経営者)	・新品の商品がよく売れ始めた後に、その商品が中古業界に入ってくる。新品の業界の動きが鈍いなかでは、まだ時間が掛かる。
		一般小売店〔生花〕 (経営者)	・物価の上昇もあり、そう甘くはない。
		一般小売店〔薬局〕 (経営者)	・株式市場が活況であるため、景気が良くなることを期待している。しかし、当地域の経済は、一部を除いて非常に暗い。そのため、3か月先に景気が良くなるとは思えない。これから梅雨に向かうが、商売は天候に左右されるのではない。
		一般小売店〔食品〕 (経営者)	・円安が進み、ガソリンの他にガス料金や電気料金の値上がりも決まっている。食品関連では、原材料のサラダ油や小麦の価格がまた上がる様子であり、商品を仕上げる際に、値上げするか量を減らすかで対応に困っている。客の賃上げの動きも鈍いと聞いているため、この先数か月間の景気は引き続き悪い。
		一般小売店〔贈答品〕 (経営者)	・当店の主な客層は、地元の中小企業であり、中間層である。客の間ではまだ景気の回復感はなく、様子見の状況である。
		一般小売店〔果物〕 (店員)	・3か月ほどでは変わらない。
		百貨店(売場主任)	・婦人物等の日常商品はあまり変わっていないため、今の好調は一過性であり、夏までこの好調が続くとは感じられない。
		百貨店(経理担当)	・回復しつつある品目もあるが、全体的には、景気回復の動きは感じられない。
		百貨店(経理担当)	・来客数、売上共に厳しい状態が続いているが、今月開催した宝石・時計等の展示会では、今までよりも良い動きが出ている。今後期待したい。
		百貨店(販売担当)	・客の様子を見ると、購買意欲はやや改善した印象もあるが、高級衣料品を販売しているためか、結果には出ていない。
		百貨店(販売担当)	・季節が変わり、購買意欲は感じられる。しかし、値上げなどもあって、状況は簡単には変わらない。
		スーパー(店長)	・製造業の景気回復は、食品等の購買回復にはすぐにはつながらない。毎日の食品に対しては節約が常態化しており、回復する兆しは見えない。
		スーパー(店長)	・円安によって、今後はガソリン以外でも値上げが検討されている。それに伴い、低価格志向は一層強くなり、一部の商品の単価は下がってくる。それをカバーするほどの買上点数もない。今後も、色々な物の値上がりによって、大きく左右される。
		スーパー(店長)	・円安によって、輸入食品やそれを原料とする物の値上がり予測され、消費者の買い控えと売上の減少が予測される。
		スーパー(店員)	・現状を見ると、良くなる要因はない。消費税増税を控えて、必要な物しか買われない状況になっている。
		スーパー(店員)	・大豆商品などの値上がりに伴う価格転嫁を実施し始めてから数日が経つが、この影響がどこまで広がるか、少し様子見が必要である。
		スーパー(店員)	・このところ、単価は同じように推移しており、良くなる要素がない。
		コンビニ(エリア担当)	・売上の前年割れは、当面継続する。
		コンビニ(エリア担当)	・単価が伸びていない。経済状況に明るい兆しは見られるが、まだ明確ではないため、様子見しているようである。今後、夏の暑さとボーナスの支給状況次第では、変動がある。
		コンビニ(エリア担当)	・悪い状態は、今後も続く。ただし、単価は低下しているが、一部の店では来客数が回復しているため、このままではない。しかし、良くなる要素もないため、今のまま悪くなる。
		コンビニ(商品開発担当)	・政権交代後、景気回復への期待や株価上昇などを通じて好転している様子が見られるが、来客数や販売量の増加には至っていない。好転の影響が及ぶのは、まだ先になる。
		衣料品専門店(経営者)	・物価の上昇を日常生活で感じ始めると、洋服はよほどの目的がない限り、買い控ええられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店員）	・映像家電の単価が低下している。高単価商品もあるが、良さを伝えにくい商品ばかりなので、伸び悩む。生活家電は底堅い。
		家電量販店（店員）	・映像家電の売行きは、依然として良くない状況が続いている。今後に対する期待も薄い。
		家電量販店（店員）	・物価が先行して上がっていくならば、景気は良くなるらない。
		乗用車販売店（経営者）	・景気の高揚感はあるものの、具体的な形で表れてきていない。
		乗用車販売店（経営者）	・良くも悪くもならない。
		乗用車販売店（従業員）	・よほどのことがない限り、そこそこ維持できる。
		乗用車販売店（従業員）	・今は景気回復に対する期待が膨らんでおり、以前と比べて客の雰囲気は違ってきている。しかし、新車の需要が大きく伸びるほどには感じられず、厳しい販売状況はまだ続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・在庫台数がほとんどないため、登録できない状態が続く。
		乗用車販売店（総務担当）	・景気が良くなりそうな感覚はあるが、実際に給与所得の増加などに結び付かない限り、継続的な消費行動にはつながらない。
		乗用車販売店（経理担当）	・給与が増えて消費に回れば、景気回復も感じられるが、まだそのような状況からはほど遠い。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・売上は、前年同月比で1.1%減少している。来客数は、前年同月比で1.5%減少している。
		スナック（経営者）	・アベノミクスの効果は、いつまで続くのか。株高で喜んでいる客が多いなか、財布のひもはどこまで緩むのか。皆が慎重であるため、期待しても実際にはどうなるか、といった感じである。
		スナック（経営者）	・所得に反映されるまでには時間が掛かるため、景気はなかなか良くならない。ただし、ボーナスは増えることが期待され、マインドだけでも上向きになれば、繁華街にはぎわうのではないか。
		観光型ホテル（経営者）	・アベノミクス、株高や、物が売れ始めたというニュースが流れることは良いことであるが、輸入インフレに伴う原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁できるとは限らない。一進一退の状況が続く。景況感是不変わる。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数は変わらない。
		都市型ホテル（支配人）	・様子見が続く。宴会需要が増えてくるかどうか、懸念される。
		旅行代理店（従業員）	・大手企業では、ボーナスがほぼ満額で支給されるとのことであるため、その一部が旅行に回ってくる。
		タクシー運転手	・年末以降、少しずつ良くなっている実感が、売上にも表れてきている。客からも、今まで認められなかった経費が少しずつ認められてきていると聞く。景気は上向いていると実感しており、このまま推移していく。
		タクシー運転手	・長い間、同じような状況が続いている。人事異動が前年よりも多いという話題をよく聞くので、良くなることに期待したい。
		タクシー運転手	・まだ、それほど良くならない。
		通信会社（企画担当）	・新築の客が増えており、改善方向にある。ただし、全体的に見ると、良くなるまでにはいかない。
		テーマパーク（経営企画担当）	・日本経済は良くなってきているとの印象はあるが、実感できるほどではない。
		観光名所（案内係）	・物の値上がりや、非常に多くなる。その影響が、必ず出てくる。
		ゴルフ場（企画担当）	・2か月先の予約は、前年と比べても好調である。今後2、3か月間はゴルフシーズンに入るため、今の好調は続く。
		美容室（経営者）	・例年ならば3月は寒く、客の出足は悪いが、今年の3月の売上は増加している。このまま4、5月も良くなる。
		設計事務所（経営者）	・案件が少ない状態は、まだ続いている。純粋な設計の仕事ではない設計関連の仕事でも、選ばざるを得ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・地方が景気回復を実感できるまでには、まだまだ時間が掛かる。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・今は年度末で忙しいが、3か月先はそれほど動く状態にはならない。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・円安によって生活必需品の価格が上昇しているため、景気は良くならない。
		百貨店（営業企画担当）	・4月には大型ショッピングセンターのオープンが控えており、競争は激化する。また、桜の開花が早まったことで、花見需要の前倒しと考えられるため、来月以降は厳しい状況になる。
		スーパー（経営者）	・小規模小売店や飲食店では、悪い状態がずっと続いている。徐々に悪くなっていく。
		スーパー（販売促進担当）	・例年と同じイベントを開催しても、前年並みの数字は作れていない。目を引く新しい商品企画が必要である。来月は近郊に大型総合スーパーが出店するため、数字の伸びは期待できない。
		コンビニ（エリア担当）	・政府からの呼び掛けに応じて賃上げするなど、当業界の景気は良いと思われているが、実際には過当競争下にある。そのため、新店の売上は非常に厳しく、既存店では将来に対する不安をぬぐえない。
		乗用車販売店（経営者）	・軽自動車は確かに売れているが、4月以降は新型車などの起爆剤も特になく、低調に推移する。
		乗用車販売店（従業員）	・色々な景気対策によって、先々は良くなる印象を持っている。
		乗用車販売店（従業員）	・例年と同様に、4月からは市場は縮小し、販売台数は大幅に減少する。新型車等の導入も当分なく、厳しい状態になると見込まれる。
		乗用車販売店（従業員）	・物価が上がると、まず車の維持費を安くしようとする人が多い。そのため、新車に買換えず、車検を受けて乗り続けたり、普段の点検を受けない人も増えてきている。実際に、今まで入庫していた客が、価格を理由に安い店に動き始めている。こうした状況が続くと、しばらくは厳しいのではないかと。
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	・現時点では、消費は大きく伸びておらず、景気回復の実感はまだない。消費の改善には、まだ時間が掛かる。
		一般レストラン（経営者）	・政治と円安に対する不安から、支出を控える人が多いように見える。
		観光型ホテル（販売担当）	・景気は上向きと言われるが、一部の業種に限られたものであり、サービス業にはもう少し後に影響が出てくるのではないかと。ただし、必ずしも良い影響とは限らない。実際、今後3か月間の収入予想は、前年同月比を下回っており、非常に厳しい。
		通信会社（サービス担当）	・引っ越しのピークは過ぎるため、販売量はそれほど伸びない。
		通信会社（営業担当）	・電気・ガスなど生活関連の値上げがあるため、今後の生活には不安定な要素が多く、景気は簡単には回復しない。
		通信会社（営業担当）	・全体的には、販売量も減少傾向である。
		テーマパーク（職員）	・周囲の土産物屋や観光施設の様子を見ると、やや悪くなる。
		パチンコ店（経営者）	・業界全体の低価格化が進んでいるため、今後はやや悪くなる。
		理美容室（経営者）	・客との会話では、株価は上昇しているが給与は増えておらず、生活は良くなっていないと聞く。
		美容室（経営者）	・3か月後はイベントも少ないため、レジャーや美容院を控える人が多い。
		美容室（経営者）	・景気が良くなるまでには、まだまだ時間が掛かる。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・大手の福祉用具貸与業者が、新商品の導入に際して、価格攻勢を仕掛けてきている。価格の下落が懸念される。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税増税の問題がネックとなり、やや悪くなる。
		その他住宅〔室内装飾業〕（経営者）	・年度末需要が終わったが、見積り依頼などの引き合いはほとんどない。
	悪くなる	その他専門店〔雑貨〕（店員）	・新規大型店のオープンが目前であり、客は当面の間そちらに流れる。販売量、売上など、すべて悪くなる。
		理美容室（経営者）	・マスコミは景気が良いことを言うが、まだ良くなるとは思えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
企業 動向 関連 (東海)	良くなる	—	—	
	やや良くなる	食料品製造業（経営企画担当）	・株高は、企業収益を押し上げる効果がある。これまでの減損によって苦しんできた反動から、今後は一挙に上昇気運が高まる。しかし、円安は今後、原材料や動燃費の高騰につながる可能性があり、今後も注視していく必要がある。	
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・3月の景気は予想よりも悪いが、今後の景気は、円安や原材料値上げ等の要因があっても、良くなる方向に向かう。	
		化学工業（企画担当）	・政権に対する期待から、円安、株高が進む。また、米国の景気も堅調に推移していくことが予測される。欧州の債務危機も、危険水域を脱したと見受けられる。懸念材料としてはキプロスショックがあるが、影響は少ないと予測される。	
		化学工業（人事担当）	・一部の企業では、賃上げが実施される。賞与水準も少し改善するため、その影響も出てくる。	
		一般機械器具製造業（経理担当）	・企業の開発や試作案件等の予算は、更に増加している。そのため、今後は良くなる。	
		電気機械器具製造業	・全体的な雰囲気もあるが、情報インフラ構築のための政府予算が投入される動きがあるため、やや良くなる。	
		電気機械器具製造業（企画担当）	・欧州や中国などで不安要素はあるが、国内政治は安定しているし、今後も円安、株高基調が続けば、国内消費や輸出企業の業績改善も期待できる。	
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・生産計画は、しばらく上向き傾向が続く。	
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・円安がこのまま続き、90円台で定着すると、輸出は堅調に推移する。	
		建設業（経営者）	・アベノミクス効果が、着実に出ている、ただし、キプロス問題など懸念事項もある。	
		輸送業（経営者）	・円安で輸入物量は伸びていないが、内需拡大に応じた荷動きの活性化が期待できる。	
		輸送業（エリア担当）	・株高、円安が進めば、輸出企業が活気付く。	
		輸送業（エリア担当）	・トレーラー等の車両の搬送が、非常に多くなっている。それと共に、他の荷動きも少しずつ良くなってきている。	
		輸送業（エリア担当）	・通販による荷物量の増加により、到着量は今後も一層増加すると予想し、計画している。	
		通信会社（法人営業担当）	・政府と日銀が一体となって、インフレターゲットの2%目標に向けて、あらゆる政策を実施しようという意気込みが見える。大手自動車メーカーも、売上目標を上げている。また、景気指標も景気の上向きを示している。地価も下げ止まり傾向にある。	
		金融業（法人営業担当）	・原油や原材料のコスト増などを意識する取引先の製造業が多いものの、先行きの受注量、販売量の増加に期待する意見が多い。	
		不動産業（開発担当）	・しばらくは、現状の動きが継続すると見込まれる。	
		行政書士	・貨物の動きが出てきそうである。	
		その他サービス業 [ソフト開発]（社員）	・当面は、各企業の投資が続く。	
		その他サービス業 [広告印刷]（従業員）	・問い合わせや見積が増えてきたため、多少良くなるのではないかと。	
		変わらない	紙加工品 [段ボール] 製造業（経営者）	・継続的に伸びる新規品は少ない。新規品が増加しても、価格競争が厳しいため、利益はあまり望めない。全体的に、製品価格は下がる傾向にある。
			出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年度初めの一般消費が不調であるため、夏場に向けての期待も薄い。
			窯業・土石製品製造業（社員）	・自動車関連の取引先は堅調であるが、電子部品関連が全く不透明であり、回復する兆しは見えない。
			金属製品製造業（従業員）	・金属材料の値上げは待ったなしであり、利益の圧迫につながる懸念が強い。
			一般機械器具製造業（営業担当）	・円安で価格競争力は回復しているが、欧州の債務危機もあり、海外ユーザーは新規設備投資に慎重である様子がうかがえる。購入意欲はあり、引き合い件数も多いが、実際に発注する段階になると、待ったが掛かるケースが増えている。
			電気機械器具製造業（営業担当）	・為替相場の先行きが不透明である。
		建設業（営業担当）	・検査・清掃等の産業では、相互の連帯が鍵になってくるため、一年を通しての景気の変化を確かめる必要がある。	
		輸送業（従業員）	・政府が期待している物価高は、消費者は歓迎していない。しかし、消費税増税が決まっており、高額品を中心に駆け込み需要があるのではないかと。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（エリア担当）	・サラリーマンにとって一番の息抜きの場である居酒屋での会合数が減っており、人々は外出せず消費していない。このような動きを見る限り、財布のひもはまだ固く、景気が上向くのはまだ先である。
		金融業（従業員）	・自動車関連事業の中でも、部署や製品によって、繁閑に差があり、良くなるとも悪くなるともいえない。
		金融業（企画担当）	・円安の動きが一服しており、現状は調整局面にある。一層の円安、株高が見られない限り、景気は本格的に良くなっていかない。
		不動産業（管理担当）	・欧州の債務危機が再燃しているため、先行きは明るくない。もうしばらく様子を見たい。
		広告代理店（制作担当）	・新年度の広告予算を増やさない企業が多々ある様子であり、まだ先が読めない。景気の回復もあまり期待できない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・どの新聞も購読しないという家庭が、徐々に増えてきている。賃貸住宅での購読率の低下が目立つ。
		公認会計士	・アベノミクスの中期的効果が不明である。円安によって原材料等の値上がりは見られるが、中小企業の従業員の給与の上昇は期待できない。
		経営コンサルタント	・富裕層を中心とする町では、景気は上向きである。しかし、庶民が多く住む地域では、アベノミクスの効果はまだ及んでいない。当面は横ばいである。
		会計事務所（職員）	・中小企業では、今までのマイナスの埋め合わせが急務であるが、短期間ではなかなか実現できそうにない。少なくとも1、2年の期間を要するため、従業員には景気回復の実感が出てこない。
		会計事務所（社会保険労務士）	・年度末で一時的に仕事が集中するかもしれないが、例年のことである。また、例年ピークを過ぎると、反動がある。建設関係では、消費税増税前に着工する動きが一部に見られるが、これも継続するとは言い難い。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・円安によって一時的に利益が出て、仕事が発生しなければ経済は良くならない。新製品を世に問うしかなく、新製品の開発が一層求められている。少し経つと、円高になっていく。
		やや悪くなる	
窯業・土石製品製造業（経理担当）	・新設住宅着工件数が減少している。		
金属製品製造業（経営者）	・引き合いが減少している。景気拡大の期待感だけが先行している。		
電気機械器具製造業（経営者）	・円安に伴う受注は考えられるが、素材等の高騰や現在の受注価格を考えた場合、決して良くならない。		
不動産業（経営者）	・中小企業金融円滑化法の終了後に、中小企業の不良債権が直ちに健全化するとは考えにくい。不動産等を安値で早期売買することにより、案件が増加しても、実体経済は低迷しそうである。		
悪くなる		鉄鋼業（経営者）	・大手企業は景気回復への期待も含めて良くなっているが、中小零細企業の仕事量はまだ増えていない。それどころか、現状では目先の受注も見積も少なく、全体量は減少している。中小零細企業への直接的な受発注は、現在も2、3か月先も全く見えていない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・当業界では、取引先が2、3か月後に設備投資を増やすとは思えない。
雇用関連 (東海)	良くなる	人材派遣会社（社員）	・正社員採用の求人案件が増加傾向にあり、企業の採用意欲は高まっている。
		人材派遣会社（営業担当）	・円安が継続することによって、輸出産業の業績に弾みがつく。株価も上昇していくことで、消費者心理にも影響し、消費は上向いてくる。
		人材派遣会社（営業担当）	・アベノミクス効果は、まだ継続する。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数は落ち着いており、求人は増加傾向が続いている。
やや良くなる		人材派遣会社（経営企画）	・新年度に入り、新規予算によって、取引先の開発活動が活発化すると期待される。
		人材派遣会社（営業担当）	・まだまだ時間は掛かると思うが、政府の経済政策に期待している。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・円安効果で、自動車の輸出も増加に転じる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・前年同月比でみると、全産業で、求人数は平均的に増えている。製造業の求人は伸び悩んでいるが、景気はやや良くなってくる。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・受講生の語学資格、検定スキルを生かしての就職は、前年よりも芳しくない。しかし、業種に固執しなければ、採用されている。雇用全体の裾野は、広がってきている印象である。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・求人を出しているが、求職者は熱心ではないことがうかがえる。当社は年齢の高い層が多いが、取引先からは嫌われてしまうため、採用を断ることもある。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・4月以降の動きは、まだ鈍い。
		職業安定所（職員）	・太陽光発電などのエコロジー関連と、付随する各種工事では、人手不足になっている。アプリケーション・プログラム開発を除く設計開発エンジニアでは、業務が減少している。また、休業を検討している企業もあるなど、業種・産業によってばらつきがある。
		職業安定所（職員）	・円安などの政策効果が、地元の中小企業には反映されていない。インフレを志向する政策のデメリットを危惧する声も多く、景気は変わらないかやや悪くなる。
		職業安定所（次長）	・管内では、電気機器製造業関係の新たなリストラ情報は無いが、近隣地域での大手企業の動向の影響を受ける可能性はある。今後の景気については、窓口を見ている限りどちらともいえない。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・経済紙面を見ると、採用者数が増えるのではないかと期待が持たれる。しかし、企業はあくまで、厳選した即戦力採用の傾向が強いため、全体的に雇用情勢が改善するとは思えない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・金融業界では、派遣活用を縮小する方針である。
		人材派遣会社（社員）	・予約状況は、例年と比べてもあまり良くない。歓迎会の直前予約に期待したい。
悪くなる	—	—	

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北陸)	良くなる	住宅販売会社（従業員）	・消費税率引き上げによる駆け込み需要がしっかりと感じられるようになってきた。
	やや良くなる	一般小売店〔精肉〕（店長）	・確実に平日も来客数が増加しており、客単価も週末を中心に上がってきている。この傾向は続くものと思われる。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・特別大きな売上の増加にはならないが、マインド的には良くなると思う。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・アベノミクスの効果や株価の上昇など景気回復の期待が持てることが多い。
		百貨店（売場主任）	・若干気温の上昇が早く訪れ、初夏の商品への期待感はある。また高額商品の動きはここしばらくは継続すると期待される。
		百貨店（営業担当）	・3月に入ってから、客の購買意欲が上がっている。アベノミクスの影響も後押ししてか、予算や前年売上と比較すると、100%を超えている。アパレルフロアでも、買い控えが多くみられた前年と比較しても、春物のコートなど高額アイテムが好調なことから、今後3か月後もこのような状況が続くのではないかと期待している。
		スーパー（店長）	・今後も消費は少しずつではあるが、上がっていく機運があるように期待している。ただし、楽観視はできない状況であるといえる。生鮮食品を中心とした販売に注力しながら、集客への魅力度を上げていきたいと思っている。
		コンビニ（経営者）	・2号店を閉めたことで、分散していたスタッフを優秀な人材のみで固めたため、店のレベルが向上すると予想している。現在より悪くなるとは思わない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・世間ではアベノミクスなど景気の良くなる話が報道されているが、今後消費税率引上げなど景気が上向き要素ばかりが多いわけではない。実際3月は全面改装したにもかかわらず前年同月比を少し割っており、むしろ景気は悪くなっているとも感じられる。4月に期待しながらも私の身の回りの景気の良くなる具体的な要因が無いため、変わらないのではとさえ感じている。季節や時節柄によりやや良くなると期待したい。
		コンビニ（店舗管理）	・新政権発足に伴い円安傾向であることが、市井の人々の閉塞感を緩和することを予想する。
		衣料品専門店（経営者）	・2～3か月もすれば、当地にも、円安と株高の影響が出てくるだろうとたくさんの人が思っているようである。私もそのように思う。また、同時に、現在の円安と株高が長く続いて欲しい。「一時的に終わってしまうということはないいでしょね」とたくさんの人が言っている。
		家電量販店（店長）	・消費税率の引上げ前にエアコンを買換える傾向が今年の夏から出ると思われる。
		乗用車販売店（役員）	・経済界としてはアベノミクスに期待したいところであるが足元は弱含みであり、徐々に消費の拡大傾向に向かっていくことを期待したい。
		住関連専門店（店長）	・消費税率引上げの駆け込み需要は確実にあり、その分での良くなる可能性がある。その後が問題となってくる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・ゴールデンウィークなどで、消耗品の売上が増加することに期待している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・円安による懸念はあるが、国内ではゴールデンウィークが長く、旅行の準備品及び外出先での消費に期待が持てる。
		一般レストラン（スタッフ）	・マスコミおよび社会全体が政治も含めて良くなっていくという報道や雰囲気がある。
		観光型旅館（スタッフ）	・前年同月比をみると、4月の予約状況は95%、5月は108%と前年同月を確保できる見通しである。また、6月以降は80～90%前後でWeb受注も好調であり、今後の間際受けがどれだけ確保できるかが焦点となっている。
		旅行代理店（従業員）	・個人客については、相変わらず動きがみえないが、団体客については、企画提案や見積依頼の件数が大幅に増えてきている。
		旅行代理店（従業員）	・政策の実行次第である。
		タクシー運転手	・来月前半の市長選挙、市議員選挙が終わり、今までの暗いイメージの反動で多少人が出ると期待している。
		通信会社（職員）	・主要大手企業の賃上げの動きに刺激され、地方の中堅企業にもその影響が少なからず出るものと期待でき、春先の季節需要期を皮切りに夏場の商戦にも消費意欲向上に期待が持てる。
		通信会社（営業担当）	・必要なものにはお金を使うという流れにより、上向いている。
		美容室（経営者）	・新店舗をオープンするため、新店効果もあり、売上や来客数とも増加する。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税率引上げ前の駆け込み需要が見込める。
		住宅販売会社（従業員）	・展示場の来客数は横ばいであるが、家を建てたいという確かな客の質的变化がみられる。今後、高級な注文住宅の相談案件が増えることが十分予想され、注文を取っても加工ができなくなることを防止するには、協力業者の早期手配などが急務となっている。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅販売各社とも、客に対し資材の値上がりも近づいていると話しているため、9月までの客の動きはさらに強くなると思われる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税率引上げ前の駆け込みで、客の積極的な動きが予想される。
変わらない	商店街（代表者）	・一過性かもしれないが、しばらくは今のムードが続きそうである。	
	商店街（代表者）	・都会のデパートでは一部高額品の販売額が増えているようだが、地方ではそのような気配は微塵もない。まだ当分はこういった状況が続く。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・上向き加減だが、汎用性の低い商品は厳しく、日常的でカジュアル志向の商品が求められている。例えば、「カップ＆ソーサー」のセットでは、ソーサーは不要であるなど、ギフトにおいても箱物セットは敬遠されがちである。
		スーパー（店長）	・ここ2～3か月では、特に流れるにも変わらないと思われる。競合店の状況を踏まえ、店のレベルアップを図ることにより、2～3か月先の売上は少しは増加するのではないかと考えてはいるが、今の段階ではどちらともいえない。
		スーパー（総務担当）	・春頃より原材料費上昇のため商品の値上げが始まる。政府の経済対策で円安、株価上昇になっているが、今後客はますます節約志向を高めていくことも考えられる。
		スーパー（総務担当）	・円安のデメリットとして、石油の値上がりによる関連品の値上がり、メリットとして株価上昇や一部大手の給与増があるが、相殺すればまだ変化は少ないと思われる。
		衣料品専門店（経営者）	・まだ景気回復に不透明な要素が多く、現時点では景気が好転して売上が増加していくとは考えにくい。
		家電量販店（店長）	・主要商品の売上に大きな変化が無く、購買意欲が出る話題性の高い商品が無い。
		家電量販店（管理本部）	・マスコミではアベノミクスで盛り上がっているが、効果は株式市場や一部企業のみであり大部分の消費者は収入増加見込みの実感が無いので当分現状維持が続くと思われる。
		乗用車販売店（経営者）	・新型車の効果で需要は伸びたが、現実的な経済の回復感を実感していない顧客層を取り込めていない。業績はこの顧客層にかかっているので引き続き注力が重要である。
		自動車備品販売店（従業員）	・高額商品であるカーナビゲーションはディーラーが力を入れているが、依然厳しい状況であり、今後もこうした流れは変わらない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・株が上がったり円安が落ち着き、景気が良くなってきても、こちらの方に回ってくるにはまだ2～3年掛かる。
		その他専門店〔医薬品〕（総務担当）	・所得が増えない中では、将来の大きな出費に備えて貯蓄に回し、消費支出を抑える傾向は今後も続いていくと考える。
		高級レストラン（スタッフ）	・慶事や法事などの個人利用の手ごたえはあるが、法人接待利用の減少は下げ止まりの状況がみえてこない。
		一般レストラン（店長）	・株高、ベースアップなど、都市部の景気上昇気配はあるが、地方への波及には時間が掛かると思われ、現状維持である。
		スナック（経営者）	・不況業種である当店では、一般の方々の給料やボーナスが上がるかによって、客の出入りが左右されるかと思うため、期待はできない状態と思われる。
		観光型旅館（経営者）	・4月以降も予約数が前年割れの状態が続いている。特に、関西圏からの集客に苦戦している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況に加え客の表情をみている限り良い傾向が継続している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・円安によるいろいろな値上げや夏場にかけての電気料金の値上げなどの影響が、少し明るい景気回復の兆しに水を差すことにならないか心配しており、もう少し、売上や個人の消費行動を見極めたい。
		タクシー運転手	・少しずつではあるが良い方向に向かっており明るい材料もみられるが、節約傾向は依然として残っている。
		通信会社（営業担当）	・携帯業界の繁忙期を迎え、一時的に回復が期待できても本当の意味での景気回復に向かう材料は乏しく思う。一方、高価格の商品の動きが以前より見受けられるので、徐々にでも景気が回復する兆しであってほしいと思う。
		通信会社（役員）	・通信業界はサービスが多様化しており、顧客ニーズも分散化する傾向にある。この影響として契約件数が伸び悩んでおり、家計の購買意欲の高まりを実感するまでにはもう少し時間を要すると考えている。
		競輪場（職員）	・来月より本場開催が始まり、開催日数が増える時期に突入するが、売上の少ないグレードの低いレースを発売することも多く、月単位の売上平均は微減すると予想される。
		その他レジャー施設（職員）	・燃料費の上昇が一服している。
	やや悪くなる	スーパー（統括）	・今後、コンビニエンスストアやドラッグストアを含む異業種の出店計画があることと、客がより単価の安い所、より便利な所を選択するという買物の必要なシーンに分けて使い分けているということにより、来客数も含めて厳しい状況になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・新カテゴリーのドリップ式コーヒーを近々販売するので売上増加が見込まれるものの、近隣に競合店のコンビニエンスストアが開店するので、かなり売上が減少することも予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・今年エコカー補助金も無く、4月からの自賠責保険の値上げなど、良くなる材料が乏しいため、販売量がやや悪くなる。
		通信会社（営業担当）	・新商品の発表はあると思われるが、スマートフォンの需要が相変わらず高いため、それを越える端末が発表されるか否かにより売上也比例すると思う。
	悪くなる	テーマパーク（職員）	・引き続きの円安傾向から海外からのいわゆるインバウンドの客は前年を上回る利用数になることは間違いないと思うが、国内の団体そして個人の予約については、進行予約は鈍い状況にある。全体としては悪くなる方向にあると思われる。
企業 動向 関連 (北陸)	良くなる	—	—
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・景気回復の期待が高まっているが、コストの上昇が先行しており、採算面で不安がある。しかし、輸出関連を中心に受注増そして新商品の受注が期待される。
		繊維工業（経営者）	・国内の動きは特に従来と変わらないが、円安による輸出増に期待している。
		化学工業（総務担当）	・社内会議の中で販売量は増える予定であるとの報告があった。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・円安、株高などが消費意欲高揚のきっかけになっており、景気に結び付きつつある。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・補正予算で「円高・エネルギー制約対策のための先端設備等投資促進事業費補助金」が出されており、大学や高専、また企業も設備投資を実施すると考えている。
		建設業（経営者）	・過去は新年度が始まった第1四半期での工事発注はわずかであったが、補正予算と新年度予算のダブルでの工事発注で建設業界は久しぶりに多忙になるであろう。しかし、これまでに人員削減を続けて何とか生き延びてきた業界であり、技術者や技能者不足の状況になっており、対応できる業者と対応できない業者に分かれるだろうが、そこから新しい産業へ進化することを期待したい。
		通信業（営業担当）	・情報通信技術がようやく浸透してきたように思える。企業価値を上げるために、多機能なシステムを求められるケースが出てきている。販売量も増えてきている。
		金融業（融資担当）	・アベノミクスによる経済効果への期待が、次の参議院議員通常選挙、夏場まで続くものと思われる。
		金融業（融資担当）	・高額商品などが売れ始めている所については、北陸地方ではまだ動きがみられず、耐久消費財あるいは衣食住の基本消費財についても、まだ売行きが好転している材料は見当たらない。ただし、都市部の景気が徐々に北陸地方にも波及してきて、先行きについては、悪化する材料は見当たらないと思われる。
		不動産業（経営者）	・物件への問い合わせが少しずつ増えるようになってきている。法人でも個人でも2か月くらい先は動きが出てくるであろうとの話が聞かれるようになった。
		税理士（所長）	・現状の課題は企業の付加価値、特に客である中小零細事業所が大手からの値引き攻勢に10年以上さらされていることである。同事業所の付加価値が上がらないと全体の人件費が上がらないため、政治的なリーダーシップに期待したいと思う。ただし、いろいろな面で株も上がっており、期待感も上がってきている。また、企業関係の人件費も上がるので、個人消費も上向くと期待もある。
		変わらない	プラスチック製品製造業（企画担当）
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の入り具合は現状と変わらない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・国内高付加価値商品は順調に動いているものの、国内低価格品競合社も新機能商品を市場投入してきており、今後の動向に注意する必要がある。海外についてはしばらく現在のよう状況が続くと思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（総務担当）	・工事発注量が増加傾向にあるが、急には作業人員が確保できず、逆に資材価格や労務費の上昇による厳しい状況が続くと予想される。
		輸送業（配車担当）	・物流については、景気の影響を受けるのは最後であり、国内の需要が増えない状況が続くと思われる。
		司法書士	・資力のある層に動きがある一方で、中小企業金融円滑化法の終了という不安材料もある。
	やや悪くなる	食料品製造業（役員）	・販売重量や販売単価ともにほとんど変化の無い中で、素材価格や光熱費の上昇分が収益性を悪くする。
	悪くなる	—	—
雇用 関連 (北陸)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・新年度4月以降もIT関連やコールセンターの引き合いが増えてきている。業種、職種にもよるが、景気の先行きに期待したい。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・しばらく求人を出していなかった客からの引き合いが増えてきた。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・製造業や建設業などの現場で人手不足の感が出てきている。証券会社などからの求人広告もある。今後、景気は良くなっていくと思われる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・景気回復傾向になると、今まで抑制していた雇用が活発化してくると期待する。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	・新卒採用の企業では1～2か月新規需要は発生しない様子である。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数、新規求人数ともに、前年同月とほぼ同水準となっており、この傾向は続くともみている。また、在職中の求職者の動きも落ち着きを見せている。
		職業安定所（職員）	・製造業の事業所からは、景気回復が浸透してくるのはまだ先との声が聞かれる。
		職業安定所（職員）	・一部製造業では円安による燃料費、原材料費の高騰の影響により低調であるが、建設業や医療福祉では求人が増加しており、状況は変わらない。
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)	良くなる	商店街（代表者）	・客単価を上げるために、客の好みに合った雑貨商材を強化してきた結果、ロコミで来店する客も増え、売上に貢献している。
		一般小売店〔食料品〕（管理担当）	・新商品はそのまま売れると思われるほか、もうすぐ中元時期に入るため、その分でも忙しくなる。
		百貨店（売場主任）	・大幅なリニューアルを控えており、街自体の集客が増えるため、間違いなく売上は増加する。ただし、恐らく当店や周辺店舗の売上は増収となるが、ほかの地域の売上が幾分か減少する可能性がある。
		百貨店（マネージャー）	・アベノミクス効果が総選挙までは続き、外商を中心に富裕層の消費が活発化する。また、大半の企業が春闘でアップ回答をしており、消費税率引上げ前までの消費は好調に推移する。
		家電量販店（企画担当）	・地価の高騰、株価の上昇、円安傾向などで、景気回復の雰囲気が高まっている。
		都市型ホテル（客室担当）	・先の入込状況も良く、前年比で4月が130%、5月が125%である。海外からの団体客は少ないが、個人客はインターネットで予約を入れており、今後も期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・ボーナスの増額で個人消費の増加につながる。
	通信会社（社員）	・昨年までは、経費の削減や家庭内のコストダウンに対する要求が高かったが、今年からはスマートフォンやタブレット端末の導入意向も、少しずつではあるが高まりつつある。家庭内の通信コストの上昇にもつながることを期待したい。	
やや良くなる	商店街（代表者）	・アベノミクスによる賃上げやボーナス増加の影響がどのように出てくるかに期待したいが、中小店舗はなかなか回復しない。	
	商店街（代表者）	・期待感も含めて、良くなってほしい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔精肉〕 (管理担当)	・ちょうど春休みやゴールデンウィーク、夏休みなど、客が動き出そうとするイベントが多く控えており、良くなるのではないかという期待感は大い。ただし、その半面、日常の消費マインドの冷え込みを解消することは難しい。
		一般小売店〔衣服〕 (経営者)	・来客数が次第に増えているので、景気は上向きとなる。
		一般小売店〔家具〕 (経営者)	・日本銀行総裁の発表や株価の上昇で、やや良くなると期待している。
		一般小売店〔花〕(店長)	・このまま少しずつでも伸びてくれればよいが、アベノミクスに期待したい。
		一般小売店〔酒〕(社員)	・駅前の大型ショッピング施設のオープンに伴い、来客数が増加する。
		百貨店(売場主任)	・大型店ほど著しい改善はないが、少しずつ良くなってくる。
		百貨店(売場主任)	・高額品が動き始め、予想以上にカラフルな衣料品が売れたり、明らかに消費者のマインドが景気に対して前向きになっている。
		百貨店(売場主任)	・給与所得が増える実感がまだない中で、電気やガス料金、食料品などの値上げによるマイナス効果はあるものの、株価上昇に伴う資産効果がそれを上回るため、消費意欲は高まる。
		百貨店(企画担当)	・今般の給与増の動きに加え、消費増税が近づくこともあって、欲しい物は今のうちに買っておこうという、消費拡大に向けた動きに引き続き期待したい。
		百貨店(営業担当)	・景気回復の期待から、高額衣料品が売れていくことを期待している。
		百貨店(売場マネージャー)	・アベノミクスによる景気回復が、一般顧客の購買行動に変化をもたらしている。メディアで取り上げられる機会も多くなり、顧客が良い方向に影響されている。
		百貨店(店長)	・現状はアベノミクスによる政策への期待感が大きく、実際には具体化されていないものの、今後の動向に期待が持てる。
		百貨店(サービス担当)	・今月末から建て替え前の売り出しセールが始まることや、特選洋品ブランドの値上げ前の駆け込み需要などで、前年並みの売上が確保できそうな状況である。
		百貨店(商品担当)	・経済指標が上向き、所得増が進みつつあるため、消費への好影響が期待できるが、消費増税が控えていることもあり、期間限定の改善にとどまる。
		百貨店(外商担当)	・株高、円安基調がしばらく続くとの見方から、雰囲気や消費マインドが更に良くなると考えられる。また、当初は一部の富裕層だけが感じていた景気の上向き感を、より多くの人が感じるようになったことで、今後は更に良くなる。
		百貨店(販促担当)	・徐々に高額品に動きが出ているように、景気全体が上向きつつあるのを追う形で、客の動きが良くなることを期待している。特に、給与面の変化には時間を要するものの、株価が継続して上昇すれば、購買への反応も良くなる。
		スーパー(店長)	・前月までは慎重な見方をしており、いまだに全面的な改善の判断はしにくい。店頭からの動きからは、わずかながら上向いていきそうな気配が感じられる。
		スーパー(店長)	・天候や気温の条件もあるが、流れは良い方へ向かっている。
		スーパー(社員)	・景気回復への期待感が客の購買心理に良い影響を与えつつある。イベント日やこだわり商品では買上単価も高くなっているなど、昨年と比べて販売促進による集客効果が高まってきた。
		コンビニ(経営者)	・近隣にマンションが建ち、昼夜を問わず日用雑貨や身の回り品のほか、調理用食品がよく売れるようになってきた。5月か6月には店の前にもマンションが建つので良くなる。
		コンビニ(経営者)	・ファストフードの好調は続くほか、好況感からプレミアム商品などの売上増も期待できるため、客単価はまだ上昇しそうだ。
		コンビニ(広告担当)	・やや良くなるというよりも、良くなってほしいというのが実情である。アベノミクスの効果に期待したいところであるが、電気料金の値上げなどの不安要素も一部にあるため、微妙なところである。
		コンビニ(店員)	・暖かい季節になって外出の機会も増えるため、来客数が増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・売上にはつながりにくいですが、乗客数や問い合わせは増加している。
		家電量販店（経営者）	・消費増税前の大型商品の購入や、電気料金の値上げで省エネ家電への買換えに拍車がかかるため、家電業界の動きは活発化する。
		乗用車販売店（経営者）	・具体的な要因は特にはないが、何となく世の中全体が上向いているような気がする。
		乗用車販売店（経営者）	・アベノミクス効果で市場に安心感が出ている。今後、経済面だけでなく外交、政治面でも国民に安心感が広がり、消費が拡大する。
		乗用車販売店（経営者）	・新車販売の好調がもう少し続く。
		乗用車販売店（経営者）	・アベノミクスで客の気持ちが緩んできたことは確かであるが、財布のひもが緩むまでには時間がかかりそうである。今までの冷え込み方が異常であり、少々暖かくなってもなかなか緩まない。ただし、回復し始めると早い。
		乗用車販売店（販売担当）	・株高の影響がすぐに出るとは思わないが、徐々に客の動きは活発になる。
		乗用車販売店（営業担当）	・最近の乗客数や単価の動きをみていると、徐々にではあるが回復している。
		高級レストラン（支配人）	・乗客数が3か月前に比べて増えており、先行きはやや良くなるが、客単価が低下しているという課題は残る。
		一般レストラン（経営者）	・円安の影響で食料品などの価格が上昇するなか、レストランなどでの料金は据え置きになるので、外食に割安感を感じる可能性がある。
		一般レストラン（スタッフ）	・政権交代以降、多分に期待感が先行しているが、春闘の結果などから、節約傾向の変化が消費者である一般の社員にも波及している。ただし、関西地区の伸びは他地区より若干低い状況ではある。
		一般レストラン（経理担当）	・春になって客が動きやすい時期となる。大きな自然災害や事件がなければ、ゴールデンウィークなどの大型連休なども控えているので期待が持てる。ただし、単価の下落傾向は続いており、どこまで上げられるかが課題となっている。
		スナック（経営者）	・世間の波に乗って、良くなってほしいと願うだけである。
		観光型ホテル（経営者）	・以前よりも動きは出てくるが、今までのマイナス分を補えるほどではない。
		観光型ホテル（経営者）	・非常にこれから先の景気に期待している。
		観光型旅館（経営者）	・4月の予約状況も好調である。
		観光型旅館（団体役員）	・季節的な動きもあると思われるが、1～3月は月を追って街歩きをしている客が多くなってきている。
		都市型ホテル（支配人）	・アベノミクス効果による円安や株高が続けば、一時的なものだけでなく継続して景気が回復する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・客室、宴会、会議部門共に、昨年の予約率を上回っている。宴会では総会や歓送迎会などが好調で、不調であった会議とそれに伴う宿泊も増えている。レストランについては、企画商品をアピールして集客を行っている。
		都市型ホテル（総務担当）	・宿泊、宴会の予約が好調であり、単価も上昇しつつある。
		旅行代理店（経営者）	・株高の好影響や、関東のテーマパークのCMが流れ始めたことで、国内旅行の受付も増加傾向にある。
		タクシー運転手	・少し良くなるような気配があり、活気が出てきていると感じる。
		タクシー運転手	・金融政策の効果が出るほか、4月に入れば入学シーズンとなるため人が動く。
		タクシー運転手	・政権交代後、一般客の乗車機会が増加し、企業の営業関係やハイヤー予約も確実に増えている。
		通信会社（経営者）	・為替政策をはじめとする景気対策に期待している。
		通信会社（企画担当）	・円安、株高の恩恵による景気回復の持続に期待している。
		観光名所（経理担当）	・3月のリニューアル効果が長く続くように、あの手この手で施策を打っていく。
		その他レジャー施設 [球場]（経理担当）	・プロ野球のシーズンとなり、5月には家族向けのイベントや、そのほかのコンサートも多いので、若者を中心に多数の来場が予想される。
		その他サービス [コインランドリー]（経営者）	・例年良くなる時期であるとともに、世の中の景気上昇の雰囲気の後押しとなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・しっかりとした理由よりも、期待感による部分が大きい が、株高、円安がもう少し続いているうちに、何らかの手ごたえがあるはずである。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・オイルマッサージのため服を脱ぐので、暖かい時期になると来客数が増える。
		その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・景気の先行きに対する期待感が高まっているため、生命保険の加入を検討する客が増える。
		住宅販売会社（経営者）	・消費税の増税前であることが主な要因とみられるが、同業者も住宅の受注ラッシュとなっている。しかし、なかには消費税とは関係のなく購入する客もいるなど、景気の上昇が感じられる。
		住宅販売会社（経営者）	・消費増税前の駆け込み需要が活発化してくる。
		住宅販売会社（総務担当）	・消費税の増税を前に、ますます駆け込み需要が多くなる。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・住宅展示場への来場者数が増加しているなど、しばらくは消費増税による駆け込み需要が見込まれる。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・景気の上向き感が、個人の給与所得にも少しずつ出てくるなかで、消費意欲が上向き傾向となっている。まだまだ不安要素はあるものの、緩やかな上向き傾向となる。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・マスコミなどで取り上げられている景気の良さが、今のところは地域の雰囲気として全く感じられない。それよりも食品などの身近な物の値上げが明らかとなり、年配客を中心にあきらめムードの方が強い。先行きが全く不透明で、どんよりの感がある。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・食に携わる商売は相変わらず価格競争が激しく、好転するまでには少し時間がかかる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・少しずつではあるが、景気は良くなりつつある。ただし、中小企業や零細企業が集まる地域では、景気が良くなるという実感が出てくるのは、まだまだ先である。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・景気の回復効果が末端にまで回ってくるまでには、時間がかかる。
		一般小売店〔花〕（店員）	・客の節約志向は変わらず、客単価が低くなっており、販売量も伸び悩んでいる。今後も客の節約意識は変わらない。
		百貨店（売場主任）	・先行きは長期的な展望がなく、特に東日本大震災の復興の道筋がみえていない。国内の企業も安定しておらず、不安定要素が多すぎる。
		百貨店（売場主任）	・景況感は良くなる予想されるが、主力の衣料品の動きがいまだにみえてこない。アベノミクス効果も、可処分所得に増加の兆しがなければ、一般消費者の購買意欲は向上しない。
		百貨店（企画担当）	・この調子がどこまで続くのか不安である。全体的な入店客数は減少していることから、売上増は一時的な動きのようにも思える。
	百貨店（営業担当）	・高額品を購入する数少ない客に対する、各社からのアプローチが更に激しくなり、競争が激化する。	
	百貨店（売場マネージャー）	・富裕層による購入の増加はしばらく続く。また、自動車大手が円安で利益水準を上方修正した動きなどから、消費者が変化の風を感じると思われる。株価上昇による含み益が出る企業も多いなか、消費者にまで効果が及ぶのはまだ先のこととはいえ、良い雰囲気は中間所得層にまで広がり、消費行動は活発化する。ただし、昨今の天候の変化などがマイナスに働く恐れもあるため、全体としては今月の動きが続く。	
	スーパー（経営者）	・競合店や客の雰囲気をみると、景気が上向きような感じは全くない。	
	スーパー（経営者）	・アベノミクスの効果は一部の地域や業種、企業に限られており、全体に波及するには、まだまだ時間がかかる。	
		スーパー（経営者）	・4月に入り、光熱費の値上げや、円安、相場上昇などによる小麦粉の値上げなどが予定されている。収入が上がらないなか、とうもろこしなどの原料価格の上昇や、それに伴う各種食料品の値上げ、紙の値上げなど、家計を直撃する要素が増加傾向にある。小売業ではスムーズに価格転嫁できると思えず、収益の大きな圧迫要因になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・アベノミクス効果の悪影響が出始めており、円安による輸入価格の高騰で、穀物や燃料関連商材の値上げが確実である。厚生年金、国民年金保険料の増額や電気、ガス料金などの支出増も確実な一方、賃金に関しては輸出関連以外の業種では見込めないか、上がったとしても手当てなどの縮小で相殺されるため、家計収支は悪化する。
		スーパー（店長）	・来客数、客単価共に若干の悪化が続くなど、販促強化週とそうでない時の差が大きい。通常は更に節約傾向が進んでいるように見受けられる。
		スーパー（店長）	・アベノミクスによって景気が回復傾向にあるようにみえるが、小売の現場では効果が実感されるまでに時間がかかる。電気料金や物価、消費税などが値上げされるなか、給料は上がらない人の方が多い。
		スーパー（経理担当）	・株高や賃上げ報道が相次いだことで、消費マインドの改善も見込まれるなど、消費環境はやや上向きにある。一方、業界ではオーバーストアや競争の激化が続き、業績の向上は見込みにくい。
		スーパー（広報担当）	・電気料金の値上げなどによる家計の負担増加が懸念される。
		スーパー（企画）	・一部の大手企業で給与のベースアップや賞与の積み増しなどが始まるものの、円安や原料高による4月からの店頭価格の上昇、年金保険料や自動車保険料の値上げ、5月からの電気料金の値上げなど、個人消費が伸びる要素は少ない。株価は大幅に上昇しているものの、企業収益の改善などの実体経済を反映したものではない。
		スーパー（販売担当）	・価格競争によって単価が下がっており、買上点数が昨年を上回っても、売上は上回らない状況である。景気が上向いているような報道が多いが、販売の現場ではまだまだそのような状況は感じられない。
		スーパー（管理担当）	・流通業界では、大手企業は春闘の回答が良いかもしれないが、中小企業は依然としてかなり厳しい状況であり、賃金交渉にも明確に表れている。
		スーパー（開発担当）	・株価が上がって円安になっても、小売業にはあまり恩恵がない感がある。
		コンビニ（店長）	・気温の変化で来客数の増減はあるが、たばこの販売の減少が止まらない。消費税が上がることによる影響も今後は心配であるが、ここ2、3か月は横ばいとなる。
		衣料品専門店（経営者）	・客の収入が増えているわけではないが、仕事は徐々に増えていると感じている。ただし、光熱費の増加や物価の上昇が懸念材料であり、実際に収入が増えない限り、本格的に景気が上向くとは考えにくい。
		衣料品専門店（販売担当）	・消費税率が上がるまでは変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・少しずつ客は戻ってきているが、まだまだである。自動車ディーラーでは新車が売れ始めているらしいが、中古車に回ってくるのは当分先になる。
		乗用車販売店（販売担当）	・新車は4月からの新規需要が終わると新たな材料も少ないため、これからの期待感は薄い。
		住関連専門店（店長）	・浮き沈みが激しい売上状況が長年続いており、ここまでのわずか数か月だけの好調ではまだ安心できない。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・米国や欧州の不安定要素が出てこない限り、今の状況は変わらない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・厳しかった冬もようやく終わろうとしている。3月末ぐらいから暖かくなってくる予報のため、衣替えによる衣類などの整理で、防虫剤や紫外線カットの日焼け止めクリームも動き出す時期となる。最近では自分の香りを持ちたいというし好があり、シャンプーやリンス、洗剤などの新商品の開発が活発であるため、売上に貢献する。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・今後は天候次第である。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・給与などの人件費アップに結びつくまでは、景況感は回復しない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・売上の見込める展示会などの催事が無い。
		高級レストラン（スタッフ）	・引き続き、歓送迎会などの予約が既に入っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・景気が回復するとしても、仕入価格がどんどん値上がりしているため、利益は少ない。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・給与水準が上がらない今、消費拡大につながる要素が見当たらない。
		観光型旅館（経営者）	・ガソリン価格の高止まりに加え、電気、ガス料金の値上がりや公務員給与の減額など、景気の先行きは不安材料が多いため、良くなる期待感が薄い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先行予約は宿泊、宴会共に、これといった大型案件もなく、景気の動向に左右される。直近でどこまで予約を伸ばせるかが良し悪しの分かれ道となる。
		都市型ホテル（マネージャー）	・宿泊部門は、国内の観光客が関東のテーマパークに集中する可能性が高く、エリア全体での苦戦が予想される。料飲部門では、企業の宴会需要や個人のレストラン利用はやや上向き期待はあるが、総選挙により動きが鈍化する可能性もあり、全体では現状と大きく変化することはない。
		旅行代理店（広報担当）	・総選挙に向けて政府は景気を盛り上げようとしているが、客は冷静であり、マインドはなかなか盛り上がってこない。ボーナスが前年を大きく上回るなど、回復の実感が広がれば変化も出てくる。
		タクシー運転手	・現在は歓送迎会などにタクシーで繁華街へ繰り出しても、電車で帰る人が多い。週末の動きは少し良くなるとしても、週の前半の動きが悪い。
		通信会社（企画担当）	・為替、株価の影響で期待感が出てきている。
		観光名所（経理担当）	・今月は寒暖の差が激しく、不順な気候となり、月前半の人はやや少なかったが、中旬からは多くなった。売上としては前年を13%ほど上回る水準となっている。また、観光バスの台数は前年を下回っているが、電車や自動車での来場が増え、家族客や若い人のグループ、PTAなどの来客数が増えてきている。中国（台湾）人客もまた来るようになってきているなど、やはりメディアの影響で、どことなく景気が少し上向いている。
		ゴルフ場（支配人）	・来場者数は一時よりも増えているが、回復の兆しが出てくるのはもう少し先のようなのである。
		競輪場（職員）	・春闘で良い方向に向かっているとの報道があるが、様々な物が値上がりして家計を圧迫するため、それほど期待できない。
		競艇場（職員）	・前月、前々月の購買単価は下げ止まり傾向にあり、同様の水準で推移しているが、今後飛躍的に上昇したり、来場者数が増える状況にはない。
		その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・政府が経済成長の政策をいろいろと出しているが、消費者に波及するまでには時間がかかる。また、TPPへの交渉参加を決めたことによる賛否もあり、景気がどちらに傾くのかは何ともいえず、様子見の状態になる。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・観光、行楽業界では、国内景気の回復による反応はまだまだ鈍い。ただし、円安による海外からの客の増加は期待したい。一方で、エネルギーコストの増加という不安要因もある。
		美容室（店長）	・消費税増税については、かなり収益面に影響が出る。
		美容室（店員）	・パーマやカラーの単価が上昇しており好調で、今のような状況が3か月後も続く。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・書籍販売とカフェの併設店では、カフェにつられて書籍売上や来客数が増えているが、レンタル売上は価格競争からいまだに脱却できていない。特に、レンタル単独店は厳しい。
		住宅販売会社（従業員）	・為替、株価の動きは、新政権への期待感が先行しているようにしか思えず、実体経済が上向きまでにはまだまだ時間がかかる。
		住宅販売会社（従業員）	・景気回復とインフレへの期待感から、消費者のマンション購入に対する買い得感がかなり高まっており、消費税の増税までは好調な状況が続く。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・正規雇用者数が増加しない限りは、良くも悪くもならない。
	やや悪くなる	一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・株高や円安により、経済状況に変化がみられるが、消費への影響はまだまだである。
		スーパー（企画担当）	・競合店の出店で来客数の減少に拍車がかかる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・今月よりも、5、6月にかけて悪くなるような気がする。単価が下がっていて、販売量も減っているため、売上は前年比で2割以上悪化する。
		乗用車販売店（営業担当）	・今の好調な状況が続くとは思えない。
		住関連専門店（店員）	・毎日の目標は達成しているが、前年比は大幅に伸びていない。円安になっている影響で、前年と同等の売上では利益がマイナスに転じる。
		一般レストラン（経営者）	・4月からは値上げラッシュとなるため、年金生活者は財布のひもが固くなる。
		一般レストラン（店員）	・商品数が少なくなっている。新たな商品が出てくればよいが、マンネリになると売上は落ちる。
		通信会社（社員）	・例年どおり閑散期になるため、来客数、販売数共に減る。
		美容室（経営者）	・客には年金生活者が多く、4月から商品の値上げが多くなると、女性は自分の買物を控えるため、来店が間延びする。
	悪くなる	—	—
企業動向関連 (近畿)	良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・今後、取引先との新たな契約が決まり、販売額や利益が増える。
		化学工業（経営者）	・新規の注文が次々に入ってきており、しばらくは現在の好調が続く。
		金属製品製造業（管理担当）	・当面は太陽光発電関連が好調な見込みで、5月に新工場が完成する。ただし、建築、土木関連は低調なままで、東日本大震災の復興事業に解体工業者が取られているため、名古屋駅前再開発などの大型プロジェクトも遅れている。
やや良くなる		食料品製造業（営業担当）	・今後は気温上昇と共に、飲料水の販売も増える。
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・配達量が多く、忙しくなっている。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・医療関係では幹細胞関連で新薬や治療方法の開発が期待されており、今後の治験の進展が、大きく業績に寄与するものと期待している。
		化学工業（管理担当）	・アベノミクス効果による円安で輸出量が増加するほか、賃上げで消費も増加する。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・新規案件が出てきているので、順調に進めば良くなる。
		金属製品製造業（経営者）	・全体的に良い方向に向かっているが、今のところ動きは変わっていない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・小口の受注が順調であるため、この推移が続けば大口の受注にも期待できる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・製造業の景況感は悪くない感はあるが、非製造業ほど急速には良くならず、2～3か月のうちに良くなっていく。
		建設業（経営者）	・政府による金融政策に期待する。
		建設業（経営者）	・例年、年度末以降は受注が減少するが、今年は消費税問題や再生可能エネルギーの固定価格買取制度などが追い風となる。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・消費者が好景気に向かっていることを実感する。
		不動産業（営業担当）	・賃貸相場は下がっているが、土地の相場は底を打って上がり始めている。そういった動きから、賃貸市場は悪いが、土地の売買状況は上向いている。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・マンションや新築戸建物件などの不動産のほか、自動車関連の広告が目立って増えていて、月間の折込件数が増えている。
		広告代理店（営業担当）	・ゴールデンウィークに向けて気温が上がれば、春夏物や行楽用品雑貨の動きも活発になってくる。
		広告代理店（営業担当）	・広告の出稿を考えているという案件が増えてきている。
		経営コンサルタント	・4月に入ると、季節的に小売業の売上が増える。
		コピーサービス業（店長）	・大阪駅周辺の商業施設のオープンで再度活性化が促され、全体的な底上げが期待できる。ただし、立地などによる勝ち組、負け組ははっきりし始めるため、楽観視はできない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・今年になってからは景気の底打ち感があるため、これからは上向いていく。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・消費者のマインドが上向いていることが好調を下支えしているため、当面はこの状況が持続する。
		その他非製造業〔民間放送〕（従業員）	・今年も猛暑となることが予想され、夏に関する産業のにぎわいが期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	食料品製造業（経理担当）	・ベースアップや一時金の増額などの明るい話題はあるものの、景気回復の実感が全くない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・大きく景気に変化し、製品の取引量が増加するとは思えない。
		化学工業（企画担当）	・原料相場は種別による高低があり、全体的にはプラスマイナスゼロの状態である。今後はゴールデンウィークでの販売増が若干見込めるものの、全体的には大きな需要増につながるとは思えない。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・給与の増加が見込めない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・各国の政府、金融当局が金融緩和を進めているため、数か月という短期であれば海外経済の破たんは回避できる。円安についても、3か月ぐらいは崩れないと期待している。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・引き合い案件が減少しており、年度末以降の受注がみえてこない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・今後の状況は、今とあまり変わらない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・今の仕事が終われば、次の予定がない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・海外受注といっても、国内企業の関連会社との取引がほとんどである。製造業を営む中小企業にとって、本来の意味での海外展開は今後欠かせないが、リスクが伴い、課題も山積している。
		その他製造業〔事務用品〕（営業担当）	・受注量が増加する状況が今後も続く。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・アベノミクスの効果により、円安、株高傾向が続き、輸出企業を中心に景気回復が見込まれる。ただし、我々の業界では円安による原材料価格の高騰が続き、その値上がり分を価格に転嫁できずにいるのが現状である。
		建設業（経営者）	・東日本大震災の本格復興や政権交代による公共工事の増加で、職人不足や賃金・建設資材価格の高騰が今後予想される。建設業は、景気回復後に企画や設計が増えてからの施工となり、回復がワンテンポ遅れるため、早い景気回復を望む。
		輸送業（商品管理担当）	・4月から給料が上がるが、物価も上がるといわれているので、全体としては変わらない。
		輸送業（営業所長）	・円安や株高が話題になっているが、景気に反映されるのはまだまだ先である。
		通信業（管理担当）	・アベノミクスでしばらくは好調が続く。
		金融業（営業担当）	・内需の拡大や景気の改善が今後望めるものの、物価の上昇が先行することが、どのように作用するかがかぎとなる。
		司法書士	・期待感が高まるものの、具体的に景気回復を実感できない状況であるため、当分の間は現状と変わらない。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・いろいろと手を打っているが、これという対策がないので難しい。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・T P Pへの交渉参加による効果は様々で、農林水産関連の生産は大幅に減るが、消費拡大は期待できる。いまだに未知の部分が多いが、全容がもう少し明らかになるにつれ、景気にも大きく変化が出てくる。
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・実体経済が良くなっているとは思わない。
やや悪くなる		食料品製造業（従業員）	・今後期待できる新製品もあり、そこそこ売れているが、既存の売上のベースとなる製品は他社との競合で廉価販売の対象となっており、売上が落ちている。既存品の売上に新商品分が加わればよいが、現状は新商品が既存品の売上を奪っているような状況である。デフレ脱却を図るような方策を業界全体で考えなければ、景気は良くならない。
		繊維工業（団体職員）	・昨年末からの運送代の値上げ要請や、今後の電気料金の値上げなど、製造コストの増加要因があるなか、容易に価格転嫁はできず、先行きは不透明である。
		繊維工業（総務担当）	・まだまだこの円安の方向性は続く。
		繊維工業（総務担当）	・まだ景気の底上げ感が伝わってこない上に、加工代などが上がっている状況から考えて、それぞれの取引先で利益の確保が厳しい状態である。
		化学工業（経営者）	・円安による原材料の値上げに対し、それを販売価格にすぐには転嫁できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・ガラス瓶を作っているが、製品の動きが悪くなってきている。特に末端の消費者のニーズに左右されるほか、電気やガス料金の値上げを前にコストの削減も迫られているなど、景気が悪い方向に向かっている。
		金属製品製造業（営業担当）	・実需が出てくるのは少し先になる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・取扱商材の関係で、新年度の始まりは厳しい状況が予想される。一般的には新生活関連や、円安、株高による需要増で、良い方向へ向かう。
		輸送業（営業担当）	・燃料や材料の輸入価格が上がり、利益の出ない中小企業の工場は休業している所もある。
		輸送業（営業担当）	・繁忙期であるこの時期に売上が落ち込んでいるので、先行きは厳しい状況となる。
		広告代理店（営業担当）	・新年度の良い受注の話は聞こえてこない。しばらくは様子見の時期となる。
	悪くなる	—	—
雇用 関連 (近畿)	良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・アベノミクスに伴う円安による輸出企業の利益押し上げや、株高による富裕層の個人消費の活発化、日本銀行の新総裁の就任による量的緩和期待からの海外資金の流入など、景気回復の明るい材料が目白押しである。
		学校〔大学〕（就職担当）	・株価が上昇して、企業収益が改善されているため、求人数の増加が予想される。
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・円安効果か、今まで弱っていた家電メーカーのIT部門が人集めをしており、4月から一段と良くなる環境がそろってきている。ただし、雇用情勢は改善されるとしても、相変わらず需給バランスが崩れているため、人集めには苦労する。
		人材派遣会社（役員）	・正社員志向の流れは依然として大きなものがあるが、派遣を含め、事務系の求職者数も着実に伸びている。
		人材派遣会社（支店長）	・このままの傾向がしばらくは続く。ただし、人材確保には苦労する。
		アウトソーシング企業（社員）	・新年度から園児数が増える。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・求人数が6か月以上にわたって上向いているほか、株価の上昇や円安の状況も続いており、悪くなる要素は今のところ見当たらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・4月にオープンする大規模事業が景気を押し上げており、関連の広告出稿も多い。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新年度の新聞に対する広告の申込状況をみると、年度始めは様子見状態であるが、引き合いの状況からいけば4月以降は徐々に回復してくる。
		職業安定所（職員）	・求人数の増加傾向がみられるものの、主要産業別にみると製造業の動きがほかの産業に比べて非常に弱い。円安・株高などによる雇用面へのプラスの影響は見受けられない。
		職業安定所（職員）	・円安や株価の上昇、景気回復の期待感もあり、輸出関連企業が今後緩やかに良くなっていく。
		民間職業紹介機関（職員）	・建設労働者不足という問題はありながらも、公共事業の増加などの潜在的な圧力が強いので、当地の日雇い求人（多くは建設部門）も少しずつは増えていく方向となる。
	民間職業紹介機関（大学担当）	・今後の経済は良い方向に向かっていく。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・医療系大学の特性かもしれないが、就職志願者が倍増している。	
変わらない	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・経済全体が何か良くなるのではないかと感じる兆しは感じるが、求人に直接影響するまでには少し時間がかかる。	
	職業安定所（職員）	・前月は株価の上昇や新政権による公共事業の増加への期待感からか、求人の動きが活発となっていたが、直近はその勢いが薄れてしまっている。採用数も伸びておらず、企業の採用意欲が高まっている感触もない。さらに、新規求職者数がやや増加傾向に転じているなど、今後の景気が良くなるかどうかは微妙な状況である。	
	職業安定所（職員）	・一時的な欠員補充のための求人が多い。	
	職業安定所（職員）	・政府は円安や株高効果で景気回復を宣伝しているが、この効果が雇用面に出てくるかどうかは、しばらく様子を見る必要がある。	
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
----	----------	-------	----------------

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (中国)	良くなる	乗用車販売店（副店長） 自動車備品販売店（経営者） その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・自動車メーカーはおおむね賞与が上昇するという報道により、その関連社員からの購入が見込める。 ・この調子で市場が盛り上がりれば期待が持てる。給料とボーナスが上がれば景気も良くなり、気分だけでも明るくなる。 ・来客数、買上点数を見ると客の購買意欲が高くなっている。この雰囲気はボーナス時まで続く。
	やや良くなる	商店街（理事） 商店街（代表者） 商店街（代表者） 一般小売店〔茶〕（経営者） 一般小売店〔印章〕（経営者） 百貨店（営業担当） 百貨店（営業担当） 百貨店（営業担当） 百貨店（販売促進担当） スーパー（店長） スーパー（店長） スーパー（総務担当） スーパー（販売担当） コンビニ（エリア担当） コンビニ（エリア担当） コンビニ（地域ブロック長） コンビニ（副地域ブロック長） 衣料品専門店（経営者） 衣料品専門店（地域ブロック長） 家電量販店（店長） 家電量販店（企画担当） 乗用車販売店（店長） 乗用車販売店（店長） その他専門店〔時計〕（経営者）	・日用品の売上に変化はないが、消費税増税前に買物をしようという気分になるかもしれない。 ・株高・円安で景気の見通しは明るい。しかし、可処分所得が上がって客が良いものを購入しようという気持ちになるにはしばらく時間がかかる。これが底であって欲しい、景気が上向いて欲しいと切に願っている。 ・当店に来る営業マンは皆、忙しくしている。肌で景気回復を感じているのがよくわかる。 ・新年度からの景気回復を期待している。 ・支店開設や会社設立に伴う注文があり、前向きな取組がなされている。 ・期待したほどは伸びなかったが、全体的に雰囲気が上向きつつあるように感じられるので、今後に期待したい。 ・「ひろしま菓子博」による来街者増を期待している。 ・高額商品が動き、販売量も安定しているので、この状況が続く。 ・3月の動きを見ると、若干ながら消費が上向きである。これからの夏商戦も主力のファッションの動きが持ち直してきているので、期待が持てる。 ・アベノミクスの影響で株価が上昇し、外的要因で明るい兆しがあり、少しずつ良くなる。 ・食料品や日用雑貨などの売上は伸びつつある。初夏に向かって期待できる。 ・安価な商品の購買が伸びる。 ・中高年の比較的ゆとりのある層は、消費が活発になってきているように感じるが、一方で学生などの低年齢層は、相変わらず消費活動が乏しい。ただ、総体的に見れば富裕層の消費が売上をけん引していくと予測している。 ・前月、今月ともに、来客数と売上は前年を上回っており、この調子でいけば、来月、再来月も前年比をクリアできる。ただし、ソーシャルメディア関係のカードがよく出ており、その売上がかなりの割合を占めている。将来のことを考えると、これでいいのかという気もする。 ・アベノミクスの影響で若干ではあるが、景気は良くなっていく。 ・世間の景気高揚感により、消費動向が活発になる。 ・アベノミクスの影響により、消費者のマインド変化が期待でき、大手企業の給与増加により、消費意欲の向上が期待できる。円高による自動車業界の活性化で大手自動車メーカー関連企業の消費が増える。 ・株価が上がり、ニュース等でも明るい話題が増えると、消費者にも安心感が出て、購買意欲が増える。 ・アベノミクス効果を一般消費者が期待しており、景気が上向くことによって業績も改善する。 ・太陽光発電システムの買取価格は低下するといわれるが、今や太陽光発電システムは商売の柱的な存在であり、販売目標達成に努めたい。エアコンの販売増加も目指す。 ・株価上昇や円安など明るい話題が多いので、具体的な根拠はないもののやや良くなると思いたい。 ・来場客数も多く、販売も順調に伸びている。 ・客の動きは夏までは続く。客が買物をする動きが早い。 ・株価の上昇、地価の下げ止まりによる景気拡大が地方にも波及して欲しいし、景気上昇を信じたい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔布地〕(経営者)	・アベノミクスがなんとなく本物になりつつあるようにみえる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(支配人)	・株価や物価、賃金上昇の傾向が継続すれば、即効性はないが、消費に対する心理的効果が浸透し、徐々に景気上昇機運が高まる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(運営担当)	・新政権への期待感があり、これまでの節約疲れも感じられるので、春以降は個人消費の伸びに期待できる。
		一般レストラン(経営者)	・現在、動きが良くないのは、先に向いての期待感からの待機状態ではないかと思う。
		一般レストラン(経営者)	・景気回復について前向きな情報が報道されることにより、個人消費では気分的に楽観視する状況は続く。
		一般レストラン(外食事業担当)	・T P P問題で、アメリカ産牛肉の30か月の輸入制限が変更されれば、牛肉の値段が下がる。市場でも明るい話題が聞かれるようになり、売りやすくなる。
		スナック(経営者)	・アベノミクスによる効果が少しは効いてくる。
		観光型ホテル(スタッフ)	・アベノミクス効果なのか、例年の来客数を上回っている。
		観光型ホテル(支配人)	・宿泊、料飲、宴会部門とも、前年同期の来客数を超えている。ここ数年は行われていなかった新入社員歓迎会等の予約も入ってきている。
		都市型ホテル(スタッフ)	・広島では大型イベントが4月から始まるため、宿泊においてはファミリー客が少し増える。
		都市型ホテル(総支配人)	・ゴールデンウィークの先行予約状況は各旅行会社とも好調に推移している。島根県においては出雲大社の大遷宮が5月から始まることも好要因となっている。
		タクシー運転手	・客単価が伸びており、売上も前年に比べプラスになっている。
		通信会社(企画担当)	・今年度最終四半期の上向きの感触は、新年度になっても継続していきそうである。
		テーマパーク(業務担当)	・中国横断自動車道松江線開通に伴う道路利用者の増加が、来園者数にどのように影響するのか注視したい。山陰方面から山陽方面へのアクセスが容易になることから、中間にあたる本公園の来園者も増加することを期待する。
		ゴルフ場(営業担当)	・速報値では前年同月より予約数が多い。
		設計事務所(経営者)	・現在の購入意識の高さと積極性が続く。
		設計事務所(経営者)	・公共事業への期待が大きいこと、また民間でも消費税増税までに契約をしておきたいといった動きが出てきている。
		住宅販売会社(営業担当)	・時期的に需要が高まることもあるが、消費税増税の駆け込み需要を含め、当面は今の上向き傾向が続くと想定する。
		住宅販売会社(販売担当)	・消費税増税に伴う駆け込み需要が見込まれる。ただし、購入側も予算には厳しくなると予想されるため、利益につながるかは不透明である。
	変わらない	商店街(代表者)	・暖かくなり通りを歩く人は増えているようだが、売上につながっていない。財布のひもが固いようで、来店者も必要以上の買物をしない。
		商店街(代表者)	・新入学、就職シーズンの盛り上がりには欠け、当地域には円安株高の恩恵を受ける企業が少ない。
		商店街(代表者)	・都会ではアベノミクス効果があるが、田舎への影響はまだ先である。
		商店街(代表者)	・各種公共料金や輸入品の値上げにより、市場的には現状より良くなるとは考えにくい。
		一般小売店〔酒店〕(経営者)	・ひな祭り、花見、歓送迎会などのイベントには期待しているが、景気は上向きではない。アベノミクス効果を期待したいが、まだまだ先の話のように思われる。
		一般小売店〔酒店〕(経営者)	・景気回復の効果が本当に現れるのはまだまだ先だと思われ、この雰囲気はいつまで続くのか分からないので、景気は「変わらない」と判断した。
		一般小売店〔紙類〕(経営者)	・来客数は増えるが、客単価は上がらない。
		百貨店(売場担当)	・円安に振れることで、輸入中心の雑貨アイテムはコストが上がり、店側がより在庫効率を求められるようになり、投入在庫が減ると予測される。
		百貨店(購買担当)	・現状で株価が上がったとしても、生活用品や食料品の値上げの影響でぜいたく品と言われる洋服や靴、バッグは買い控えられ、旅行やグルメなどには金を使うが、気候が良くなり客が外出して買物をしても、洋服を買うことは考えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（電算担当）	・前年比でわずかにプラスである。固定客がいる化粧品、新ブランドが順調な婦人靴が好調である。婦人衣料もわずかにプラスで、貴金属、呉服は2けたのプラスである。しかし、常設売場の生鮮三品が苦戦しており、競合店が多いので黒字化は厳しい。
		百貨店（販売担当）	・一部ではあるが、高額商品の動きが以前より少しずつ良くなってきているので、今後に期待したい。
		百貨店（営業推進担当）	・外部環境等を考えると、心理的には若干上向きではあるが、消費に直結するとは考えにくい。
		スーパー（店長）	・2～3か月後に今より良くなる材料が見当たらない。
		スーパー（店長）	・もっと長期的に見れば景気は回復するかもしれないが、地域の生活者の暮らしにはまだ変化がなく、2～3か月では何も変わらない。
		スーパー（店長）	・消費税増税や商品の値上げ等があるので景気は変わらない。
		スーパー（業務開発担当）	・競合店との厳しい価格競争や安い物しか売れないため収益が落ちている。安い価格で必要最小限を購入することが定着してしまい、なかなか販売増にならない。
		スーパー（財務担当）	・消費者の低価格志向に対応するため、競合店との低価格競争とポイント販売促進がますます激しくなる。
		スーパー（販売担当）	・客層が固定化しており、買上点数を伸ばすのは難しい。
		スーパー（管理担当）	・ディスカウント店の進出で価格競争の様相であるが、価格対抗は難しい。サービス面・品ぞろえで対抗して差別化を図ることも容易ではない。
		スーパー（営業システム担当）	・客数の変化はさほどないが、やはり客単価は低い。新しいディスカウントストアができ、何をどこで買うのか、消費者の選択肢が増えている。
		衣料品専門店（経営者）	・景気が良くなる見通しでいたが、政権交代以降も特に売上に変化はない。
		家電量販店（店長）	・売上に大きく寄与する商品群が見当たらないため、大きく好転することは考えにくい。高省エネタイプのエアコン、冷蔵庫等が電気料金の値上げにより伸びる。
		家電量販店（販売担当）	・時期的にボーナス時期へと続くので客の様子は変わらない。
		乗用車販売店（統括）	・エコカー補助金がなくなった関係で厳しさが予想される。
		乗用車販売店（営業担当）	・新生活に向けての出費はするが、それ以外の事に関してはまだまだ慎重になっている。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・現在より悪くなる要素がない。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	・春休みで観光客が動き出したが、本格的に回復した感じではない。出雲大社の遷宮で客が増えることを期待する。
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	・ゴールデンウィークで行楽の消費があり、このまま上向きに推移していく。
		高級レストラン（スタッフ）	・先の予約状況はほぼ前年並みで、特に変わった動きはない。今後の予約の伸びはわからず、どちらとも判断できない。
		一般レストラン（エリア担当）	・歓送迎会も少なく単価も低い状況が続いている。
		都市型ホテル（企画担当）	・ビジネスなどの動きは活発になると思われるが、国内観光需要などの増加はあまり期待できない。一部の株式所有者だけが潤っても、一般消費者の購買意欲は厳しい状況にある。
		都市型ホテル（企画担当）	・今の状況が続くか見通しが不明であるが、景気の上昇は期待したい。
		旅行代理店（経営者）	・政府による景気対策を早急にも実施してもらいたい。
		タクシー運転手	・やや悪くなるという気持ちはあるが、願望を込めて変わらない。
		タクシー運転手	・当市では景気が良くなるような要素は見当たらない。
		通信会社（社員）	・新規の問い合わせが増えない。
		通信会社（通信事業担当）	・人事異動が活発ではなく、転出などによる解約数は少なく、転入による新規も見込めない。
		通信会社（総務担当）	・需要の高まりが望めない。
		通信会社（工事担当）	・上向く要因が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・少子化や高齢化など、経済社会構造面でのマクロな潮流に変化が見られない。
		通信会社（広報担当）	・アベノミクス効果により、為替や先物取引のマネーゲームは過熱するが、末端の消費者までの効果は期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（管理担当）	・株高、円安と経済が動いているように見えるが、地方の経済に影響が出てくるには時間がかかる。
		テーマパーク（広報担当）	・近県に無料の高速道路が開通するため、そちらに観光客が流れる可能性がある。広告宣伝も縮小する予定なので、あまり増加は望めない。
		競艇場（職員）	・ゴールデンウィークのレースで売上が確保できるが、その他に変化はない。
		その他レジャー施設（アミューズメント）	・若者向けの大作映画公開があまりなく、大幅な来店増は期待できない。ファミリー客は単価増にはつながらないが、継続して来店する傾向があるので現状は維持できる。
		美容室（経営者）	・近くに大型商業施設ができる予定なので、客がそちらに流れて、一時的にでも商店街への客足が遠のくことを心配している。
		美容室（経営者）	・2～3か月では良くなることも、悪くなることもなく、耐え忍ぶ状態が続く。もっと大きな変化があればいろいろな反応が出てくるかもしれない。
		美容室（経営者）	・消費者の美容に対する価値観が二極化している現状で、富裕層を獲得できるかどうか鍵になる。
		その他サービス〔介護サービス〕（介護サービス担当）	・一年以上、身のまわりで景気の変化が見られないことから、よほどのことがない限り、2～3か月で景気の変化が見られるとは考えられない。
		設計事務所（経営者）	・政府の経済政策は大手企業に対してだけであり、地方の企業に対する政策はない。いまだに進まない規制緩和及び地方分権はいつになるのか。
		設計事務所（経営者）	・既に建築物価の上昇や人手不足が始まっており、思うような価格や時期に建築をすることが難しくなっている。消費税増税までこの状況はますます加速して行く。
		住宅販売会社（従業員）	・購入資材の値上げが出始めているが、売価に転化して値上げできない状況にあり、利益圧迫が懸念される。
やや悪くなる		コンビニ（エリア担当）	・食品の値上がりによる買い控えやディスカウント店舗の増加で客単価下落が予測される。
		家電量販店（店長）	・今月は新生活の準備で良かったところもあるが、2～3か月後は来客数が少なくなる。
		スーパー（店長）	・近隣にオープンしたディスカウントストアの販売促進が強く、集客合戦となっている。一般食品や野菜を購入する客が減少しており、今後も影響がある。また、円安の影響で値上がりする商品の購入数の落ち込みや買い控えも発生する。
悪くなる		乗用車販売店（業務担当）	・大增販月の1～3月が終われば、販売は急速に落ち込んでいく。
		通信会社（営業担当）	・2～3月の新生活需要が終わり、販売と集客がかなり落ち込む時期である。新年度は新卒採用者やシステム提案等、企業へのアプローチをしっかりと行う必要がある。
		鉄鋼業（総務担当）	・日銀総裁も代わり、大胆な金融緩和策が奏功する。
企業 動向 関連 (中国)	良くなる	輸送用機械器具製造業（経営者）	・3か月後も新車立ち上がりで忙しくなる気配がある。
		繊維工業（統括担当）	・世の中のムードが変わってきている。
	やや良くなる	木材木製品製造業（経理担当）	・消費増税前の需要増やアベノミクス効果等が期待できる。
		化学工業（経営者）	・取引先企業間で温度差はあるが、鉱業関連企業で増産計画に伴う受注がやや増加している。他業種について現状は期待感にとどまる。
		化学工業（総務担当）	・家電等は少し元気になっている。
		鉄鋼業（総務担当）	・アベノミクスがより本格化していく。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・受注量の改善、増加の兆しが見られる。円安の好影響がいずれ幅広い業種に広がると思うが、波及には時間差が生じる。
		建設業（総務担当）	・政府の打ち出した景気対策により景気回復への期待感が先取りされて、景気を押し上げている。俗に言う景気は気からと感ずる。
		通信業（営業企画担当）	・客との商談のなかで、車の購入や旅行の計画などの話題が増えており、購買に関する需要が高まっているように感じられる。
		通信業（営業担当）	・決算時期で忙しく、円安効果で製造業での受注量も少し伸び始めている。
		金融業（自動車担当）	・米国経済の好調など、世界的な景気回復のなかで、円安が輸出を後押しして、自動車部品メーカーの受注環境は当面改善が続くと期待する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（営業担当）	・取引先の経営者と話す、最近の円安・株高を歓迎する声が多く、明らかにここ数年のなかで心理的には良い状況となっている。当地において、不動産の動きも少しずつ出てきており、設備投資意欲については若干上向きである。現状の経済に対する期待感が継続するとの条件付きであるが、この先2～3か月でやや景気は改善する。
		広告代理店（営業担当）	・新年度を迎えるなかで、卒業、進学、入社等での動きがあり、活発な販売促進シーズン到来になる。小口でも大口でも、先々の受注予定も出ており、現状での見通しは良い方向に向かっている。
		会計事務所（職員）	・来年の消費税増税を踏まえて、建設業及び製造業では大口案件の受注の話も出ている。
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	・既存客のリピート需要が少なくなっており、1人当たりの購入金額を上げるような対策が必要である。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼向けの大口引き合いや焼却炉の新設受注がないなど、生産は低調な見込みである。二次製品での納入が客先都合で増加しており、この部門は繁忙である。
		非鉄金属製造業（経理担当）	・販売増が見込まれる一方、販売価格に下げ圧力がある。
		金属製品製造業（総務担当）	・鉄原材料価格は上昇傾向にあるため、コスト面では厳しくなる。得意先からは受注状況は現状より良くなるとの話はあるが、早くても6月以降である。当面3か月は現状のままで推移する。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きは変わらない。
		一般機械器具製造業（経理財務担当）	・T P P交渉参加により先行不透明である。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・6月までは現状通りで、社外工の労力が若干必要な状況が予測される。
建設業（経営者）		・地価公示価格の下落等、厳しい状況が続いている一方、建設投資に少しは期待できる状況もみえてきたことから総合的に判断した。	
輸送業（業務担当）		・今までの景況感が常態化し、良くなるという感覚があまりない。また、当県への波及は全国平均より半年以上遅れる傾向にある。	
やや悪くなる		農林水産業（従業者）	・強風やしけで出漁できない日が多かった2月は不漁であった。中型巻網漁と小型イカ釣り漁はまずまずであるが、他の漁種は厳しい状況であり、今後も水揚げ量は期待できない。
	食料品製造業（総務担当）	・消費税増税の円滑な実施に向けて政府が対策を考え始めているが、客からは消費税増税分をカバーして欲しいという要望が出始めている。	
	電気機械器具製造業（総務担当）	・今後円安による原材料費の上昇や、マスコミの報道による客先からの発注控えにより受注が減る。	
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注量、売上高ともに減少傾向である。客より代金の値下げ要請がきている。	
	輸送業（総務担当）	・取引先の明るい情報がない。	
	不動産業（総務担当）	・需要時期を過ぎる。	
	コピーサービス業（管理担当）	・年度末の掛け込み需要によって受注量は通常月より増加しているが、来月になると落ち込むのは間違いない。以前は年度末特需で年間の累積マイナスをばん回していたが、現在、ばん回できるまでの業務量はない。もう事業として成り立たない業種である。	
悪くなる	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・周囲の会社に輸出企業が少なく、円安で輸入品が値上がりしており、また水産会社では漁業の水揚げ量が増えていないため、かなり苦労している様子である。	
	建設業（総務担当）	・仕事量はあるが、地域の大型物件が重なるため、技術職員や専門業者不足によるコスト高の問題や受注を控える必要が予想される。	
雇用 関連 (中国)	良くなる	—	—
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（サイト運営担当）	・為替と株など良いニュースが多く、このまま行くと採用数増加につながる要因が揃ってきた。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・政権交代による景気の回復が各業界とも全般的に見込まれるとは言いがたいが、各社とも期待感を持っている。
		求人情報誌製作会社（採用支援担当）	・顧客企業の業績が回復しているとよく耳にする。業績が回復すれば採用意欲が増し、新卒採用媒体を使う企業が増えてくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	・2014年度は社員採用しないと早くから宣言していた地場中堅の食品加工会社が、一転して新規採用の準備に入るなど、春爛漫という季節感もあるが、たしかに景気が明るい方向に向かっているのを実感する。
		民間職業紹介機関(職員)	・製造業では、中小企業から零細企業レベルに仕事が下りてきつつあり、今後の景気浮上が期待できる。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	・アベノミクスの影響で多少景気は上向くと考えられるが、まだまだ採用活動が活発になる材料とまで言えない。
		人材派遣会社(営業担当)	・新車製造が春先から始まる事に先駆けて、部品メーカーから生産人員の相談を受けることが若干増えているが、まだ確定的なものではないため、先行きはいまだ不透明である。
		人材派遣会社(支社長)	・求職者・求人に関する動きに変化はない。
		人材派遣会社(営業担当)	・アベノミクス効果が地方に波及するには時間がかかる。今は期待感のみで来ていると感じるので、本物が偽物かの見極めがまだ必要である。
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	・業績が上向いた企業が賃上げに踏み切り、家計を潤すことになる。賃上げに踏み切るのは今のところ流通業中心で、製造業は慎重である。非製造業に関しては、国際展開が限られ、生産性も低いなかで、まだまだ時間がかかる。
		職業安定所(雇用開発担当)	・求人は増加傾向で推移し、求職者は減少傾向で推移しているため、求人倍率は高くなってきている。しかし、正社員求人は前年同月比2%程度の増加でしかない。一般の有効求人数は前年同月比11%の伸びが続いているものの、求人の内容は正社員以外の臨時、期間雇用等が多くなっている。
		職業安定所(産業雇用情報担当)	・雇用調整を行っているところが依然として多い。
		学校〔短期大学〕(学生支援担当)	・この時期、変化が感じられない。
		その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕(職員)	・今春の新規学卒求人を見ると、件数では前年を上回ったものの、募集人数が絞られたため全体では前年比でやや増加に止まった。有効求人倍率をみると、全国数値との乖離が拡大している。
	やや悪くなる	職業安定所(産業雇用情報担当)	・新規求職者数は増加傾向であるが、新規求人数は減少している。
	悪くなる	—	—

9. 四国(地域別調査機関:四国経済連合会)

(-:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	—	—
(四国)	やや良くなる	商店街(代表者)	・大規模小売店に中心街が席卷されている。街で商売や事業を始める若者も激減しており、中心市街地の活気が喪失している。
		商店街(代表者)	・中心市街地活性化基本計画が国に認定され、いろいろなハード事業がここ5年くらい進むようになっている。消費者マインドが政権交代後に上昇し、商店主のマインドもかなり前向きになっている。空き店舗も埋まりつつあり、やや良くなる。
		一般小売店〔生花〕(経営者)	・順調に予約が入ってきている。購入しなくても下見に来る客が増えた。
		百貨店(営業担当)	・来客数が増えており、買上数も増えている。高額商品も少しずつ増えており、やや良くなる。
		コンビニ(店長)	・建設業の客の増加に伴って少しずつ好転していくと感じている。
		コンビニ(商品担当)	・昨年より売上が上振れて推移している。特にファストフードが好調で、出かける人が増えてくるので、やや良くなる。
		衣料品専門店(経営者)	・気温の上昇とともに、売上、来客数も伸びてきたように感じている。株価も上昇しており、期待を寄せている。
		家電量販店(店員)	・来客数増が購入量・金額増につながっており、やや良くなる。
		住関連専門店(経営者)	・政権が代わり、円安傾向、株式も上昇しており、全体的に明るい感じはする。
		その他専門店〔酒〕(経営者)	・花見やゴールデンウィークの時期は販売量の動きも良くなるので、売上も上昇すると思われ、やや良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・わずかながら売上増を見込んでおり、やや良くなる。
		観光型旅館（経営者）	・3月後半から、4～5月の予約状況が良くなってきており、皆の意識が変わってきているのではないかと。景気が良くなっていくことは間違いないと思う。
		通信会社（企画）	・客の様子もここ数か月いい状態が続いていることから、徐々に良くなると思われる。
		観光名所（職員）	・来客数の増加が見込めるため、やや良くなる。
	変わらない	設計事務所（所長）	・民間の遊休地で開発の気配が出てきている。
		商店街（事務局長）	・原材料高や将来の増税への不安もあり、消費者の購買行動に慎重さが感じられる。高額品の一部により動きがみられるものの、まだ一般消費者の財布のひもは固いと思われる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・特に良くなる理由も、悪くなる理由も見当たらない。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・首都圏は景気回復の傾向のようだが、地方はまだ先のことになりそうだ。人口減少で需要が増える見込みはなく、物品販売は難しい。
		百貨店（総務担当）	・気温が上昇すると、春物衣料の動きに期待が出来る。
		スーパー（企画担当）	・来客数は増加するが、客単価は上がらないとみる。売上の上昇はかなり厳しい。
		コンビニ（総務）	・先行き不透明のため。
		衣料品専門店（総務担当）	・景気回復のニュースが多くなっているが、まだ客の購買意欲が上がっているとは感じられない。
		乗用車販売店（従業員）	・自動車の受注台数が前年比約50%増で推移している。
		乗用車販売店（営業担当）	・需要期の動きからみて、今後も期待は薄い。
		スナック（経営者）	・景気が良くなると言われているが、当店に反映されてくるまでは時間がかかるのではないかと。思う。
		都市型ホテル（経営者）	・心理的には景気は良くなっていくと思うが、現実には、物価の高騰に収入が追い付いていないと考える。
		旅行代理店（支店長）	・今後も景気回復感で国内旅行需要は上向くと思われるが、このまま円安が続けば海外旅行需要が落ち込み、全般として需要の伸びはあまり期待できない。
		タクシー運転手	・春が来てお遍路も始まっているが、昨年より少ない感じである。この先、良くなるような要素も見当たらないので、変わらない。
		タクシー運転手	・ハイヤー・タクシー業界において、昨年度、60台保有している会社が倒産し、今月も13台前後保有しているハイヤー会社が倒産した。送別会等の頻度が少なくなっており、この傾向は今後も変わらないと思う。
		ゴルフ場（従業員）	・4～5月の予約状況は、昨年より若干良い状況である。少しは良くなる気配があるが、単価の下落もあり、しばらくは今の現状で推移する。
		競艇場（職員）	・ゴールデンウィークを控えているが、準優勝戦、優勝戦が平日開催になるため、売上増があまり期待できない。
		美容室（経営者）	・アベノミクス効果が地方に現れる前に各種の値上げが始まっているため、消費マインドは低いまましばらく続くと思う。
		設計事務所（職員）	・2か年継続の仕事量が少なくない。年度当初は手持ち仕事量が減少する時期であるが、今年度は、年度初めから稼働状況が良く、数か月先までこの状況は変わらないといえる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要はまだない。具体的な商談数の増加につながっていないように思われる。販売量も横ばいで推移している。
	やや悪くなる	スーパー（統括担当）	・株価が上がって景気は良さそうであるが、消費者の客単価は上がっていない。
		乗用車販売店（従業員）	・消費税増税前の期間は非常に不安定な購買心理が続くのではないかと感じている。
		乗用車販売店（従業員）	・ガソリン価格の高騰によりハイブリッド車への代替需要は継続すると思われるが、現状の市場は前年比80%強である。新型車発売等の予定も無いため、当面は徐々に厳しくなっていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		乗用車販売店（役員）	・新車登録は2月がピークで3月は少し落ち込んでいる。4月以降も現在の状況が続くのではないかと感じている。自動車業界では、今年は昨年より2割落ち込むと言われており、4～6月は苦しいのではないかと。	
		通信会社（営業担当）	・1年で最大の商戦期が終わり、新端末発売までは例年販売数量が落ち込む時期であり、やや悪くなる。	
		美容室（経営者）	・今が良いので、悪くなると思う。	
	悪くなる	スーパー（店長）	・大手企業が単価を引下げており、市場が活気を帯びてくるような要素もなく、悪くなる。	
企業 動向 関連 (四国)	良くなる	食料品製造業（商品統括）	・資源の国産化の可能性が大きく取り上げられ、未来の日本について良いイメージが形成されつつある。	
		繊維工業（経営者）	・各地で小売店の新規開業などが今後も続くと思われる。円安、株高で消費者マインドが上向き、タオル業界でも高額品の販売が伸びそうである。全体的には上向くと思う。	
		一般機械器具製造業（経理担当）	・期待先行であることは承知しているが、足元の円安、株高を見る限りでは、しばらくは追い風が続くと考えている。	
	やや良くなる	通信業（部長）	・政権の安定と景気対策が見込まれることで、企業の投資意欲も上向くと思われる。	
		金融業（融資担当）	・新聞の求人も増え、身の回りでも就職できる人が増加している。	
	変わらない	農林水産業（総務担当）	・電気料金の値上げ等で、節約志向が強まることを懸念している。	
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・現在の状況がすぐには変わらないと思えない。また、小売に対して価格修正が通るかどうかがポイントである。	
		建設業（経営者）	・早く我々の業界にもアベノミクスの影響が出るようお願いしたい。	
		建設業（総務担当）	・景気回復の期待感はあるが、受注価格に反映するには時間がかかる。	
		輸送業（経営者）	・なかなか人間のマインドは変わらない。	
		輸送業（営業）	・原油価格の上昇や円安が続く中、顧客の生産量低下による発送貨物の減少並びに地方消費の低迷による到着貨物の減少による影響は大きく、地方における景気回復は程遠いとみている。適正運賃収受問題（価格競争の激化）、燃料油の高騰、免許制度改正によるドライバー不足等の諸事情が運送事業者の経営を圧迫しており、一企業の自助努力ではどうにもならないのが現状である。	
		不動産業（経営者）	・客足や問い合わせが増えているが、これ以上良くなるとは考えられない。	
		広告代理店（経営者）	・受注は比較的堅調であるが、用紙価格や電気料金の値上げを控えており、利益を維持することが難しい。	
		広告代理店（経営者）	・円安・株高によりマインドが上がっているが、得意先の広告予算を聞く限り、広告費増加には時間がかかる見込みである。	
		公認会計士	・海運等限られた業種については円安効果のプラス面があるが、その他の企業はマイナス効果が出てくるのではないかと考える経営者や、3月末の中小企業金融円滑化法の終了により、どのような影響が出てくるのか心配している経営者がいる。	
		やや悪くなる	木材木製品製造業（経営者）	・例年、仕入価格は4～6月に下落するが、今年は前年比10%程度の上昇で推移する予定である。
			電気機械器具製造業（経営者）	・4月1日より再生可能エネルギー固定価格買取制度の価格が10%下がるため、需要が減るのではないかと予測している。秋口までは残工事で忙しいが、それ以降は少なくなるのではないかと予測している。
	電気機械器具製造業（経理担当）		・米国の高齢者保険圧縮などの影響を受け、当社の製品価格引下げが予想される。収益の圧迫あるいは販売減等により、収支はやや下振れすると考えている。	
	輸送業（支店長）		・受注量にさほどの変化は無いが、燃料コストアップが影響して、やや悪くなる。	
	悪くなる	鉄鋼業（総務部長）	・受注量・価格ともに悪化傾向であり、悪くなる。円安のメリットの影響は秋以降になる見込みである。	
雇用 関連 (四国)	良くなる	—	—	
	やや良くなる	人材派遣会社（営業）	・季節的に人の入替わりや組織の変化などで景気が動くと考えられる。雇用創出に伴って消費意欲が増す事を期待している。	
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人依頼関係の問い合わせが昨年より増えており、今後も求人数は増加していくと期待できる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	求人情報誌（営業）	・円安基調により、地域基幹産業の一つである造船業の景気回復が見込まれるが、引き合いはあるものの、件数は少ない。同分野の人材採用においても、余剰人員が多く新規採用は控えている。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・求人数が一段落すると予想される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ガソリンや輸入食料品、電気料金など値上げが相次ぎ、消費税増税前の駆け込み需要までは厳しいと予想する。
		職業安定所（職員）	・全体的に求人意欲の向上はみられるものの、小規模事業所からの募集で、求職者の希望とはミスマッチとなっている。
やや悪くなる		人材派遣会社（営業担当）	・製造業などの求人が少なくなっており、先行きに不安を感じる。
		職業安定所（職員）	・月間有効求人倍率は先月より、0.03ポイント低下している。また、製造業の工場閉鎖が連続して発生している。
		民間職業紹介機関（所長）	・最近の企業訪問のなかで、特にサービス業での厳しさが見受けられる。業種間での企業格差が広がっており、アベノミクス効果は、今のところ地方まで届いていないように思われる。
悪くなる		—	—

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (九州)	良くなる	コンビニ（販売促進担当）	・4月から包材、小麦粉、油等の価格が上がるが、そのなかでパンは価格を据置きでスタートする。いま以上に伸びることはないが、ほぼ横ばいの販売量で推移し、良い状態を維持する。
		住宅販売会社（代表）	・今後2、3か月という単位でいうと建築業界や工務店業は必ず良くなる。ただ、1、2年は続くが、その後の3、4年後は駆け込み需要の反動で必ず落ち込む。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・テレビやラジオ等の報道で、景気にテコ入れをするという政府の方針が少しずつ企業に浸透し、良くなっている企業がある影響か、消費者の財布のひもは少し緩みそうな雰囲気が出てきている。期待感を持った消費者が多い。
		商店街（代表者）	・4月からは商店街全体で販売促進事業を企画しており、売上及び来客数の増加が見込まれる。今後2～3か月先は景気が上向く。
		百貨店（売場主任）	・百貨店の店頭で活気が出ている。既存の客だけではなく、フリーの客の購買が目立つようになってきた。3月のパーソナルギフトの動きも好調で、1万円前後のネクタイや革小物が良く売れている。
		百貨店（総務担当）	・昨年の12月に最悪であった飲食の宴会需要にやや回復の兆しがみられる。
		百貨店（営業担当）	・友の会春コース入会での次年度購入準備、クレジットポイント催事やクレジットシェアの増加により、客の購入意欲やお得感への敏感な反応が感じられる。また、消費税増税への対策意欲も後押ししている。
		百貨店（販売促進担当）	・今後の予定では、毎月新規フェアを実施する計画があり、来店促進につながる。
		百貨店（営業統括）	・アベノミクス効果が地方都市にも少しずつ反映される可能性が大きい。
		百貨店（売場担当）	・円安、株高の効果が企業の業績に反映され、個人の消費にも少しずつ反映される期待があり、景気はやや良くなる。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・例年よりも気温が高いせいもあり、客の来店頻度や来客数が昨年よりも増えている。
		衣料品専門店（店員）	・旅行用の服を買う客が増えてきている。これから旅行のシーズンなので景気は少し良くなる。
		衣料品専門店（チーフ）	・消費マインドが回復傾向にあるため、そのまま売上が伸びる。
		家電量販店（店員）	・アベノミクスがうまく功を奏し、景気は良くなっている。当社の株価も多少の上下はあるが、全体でみると3か月前から上ってきており、今後は期待感も込めてやや良くなっていく。
住関連専門店（店長）	・移動や新生活シーズンで開いた財布のひもが、あと1～2か月は緩んだままで推移しそうな兆候がある。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・4月は入学式のシーズンということで、コーヒー関係はちょっとした進物ギフトが良く出る。また4、5月は気候的に暖かくなるので例年通り来客数が増える。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・今年は4月末から5月上旬の連休が大型化しているため、売上は昨年以上に増える。このため今後3か月間は売上は伸びる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	・客の様子をみると、将来への期待感が出ている。今春の賃上げでもベアを実施する企業が増えており、政府の景気対策から円安や株高も明るい兆しとなっており、消費環境を後押しする。
		居酒屋（経営者）	・最悪だった年末よりは人が動いており、このような人の動きが維持され、景気は上向く。
		観光型ホテル（スタッフ）	・4月以降の予約状況が順調に伸びている。
		タクシー運転手	・この先の予約状況が大変良く、客を乗せた時にも大変面白い話が聞けるようになった。会社の先行きや予約状況、稼働状況が大変良いという話を聞く。
		タクシー運転手	・一部の企業であるが、ボーナスを満額出すという傾向にある。また、お金を全然持っていないわけではないので、少しずつお金が消費に回り、景気が少し上がってくる。
		通信会社（営業担当）	・政府が進めているいろいろな経済政策を確実に実行して、それが末端まで浸透することが期待される。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・政権交代により、施設系の補助金枠が増額傾向であり、事業拡大に向けた動きが活発になる。
		住宅販売会社（従業員）	・政権が代わり、アベノミクス効果による株価の上昇等により、不動産業では投資等の動きがみられる。ただ、実態経済で実際に景気が良くなるのは1、2年様子をみなければならぬ。また、自治体の動きも注視する必要がある。中小企業で賃上げがあったところは、景気が良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・消費税増税前の駆け込み需要発生といった特需の影響が徐々に顕在化してくる。
変わらない		商店街（代表者）	・売上の伸びがみられない。しかし、これ以上悪くはならない。この状態がしばらくは続く。
		商店街（代表者）	・先行きは不透明で、将来の展望がたたない。厳しい状況が続く。
		商店街（代表者）	・商店街にとって景気が良くなる要因が全くないので、悪い状況はこのまま続く。
		商店街（代表者）	・4～6月と春の行楽シーズンに向けて景気が良くなると期待しているが、現在、卒業や入学、就職又は行楽と、かなり出費が見込まれている。また5月以降は電気代の値上げも言われており、先行きは一般の家庭で財布のひもがかなり固くなり、厳しい時期がくる。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・テレビの報道でアベノミクスが全国的にかなり騒がれているが、当地の青果物に関しては、その反応は鈍い。特に当店の客層は高齢者で年金収入の客が多く、消費税増税のことを考え買い控えをする客が多い。3か月先も変わらない状況となる。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・桜は満開だが、店は閑古鳥が鳴いており、売れそうな気配が全くない。どうしたものか塞ぎ込むばかりである。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・景気が上下するような要素は特にない。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・例年通りであれば5月の新茶時期に入るまでは売上は上がる。4月から仕入れ値も上がるが、売値を変更せずにいくため、大きな売上は期待できない。
		百貨店（企画）	・景気回復への期待は大きいですが、反面、客の動向は期待通りではなく、買物での取捨選択は相変わらず慎重である。
		百貨店（店舗事業計画部）	・景気回復報道で消費者心理はプラスに働く反面、電気料金の値上げ等マイナス要素もあり、夏季賞与支給の動向がみえるまで、景気は大きくは変わらない。
		百貨店（営業政策担当）	・株価の高まりや一部有力企業の春闘における賞与増額等、好材料があるものの、長期金利等その他の経済指標は低位である。ガソリン価格の高騰も続き、個人消費全体が好転するにはまだ力不足である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場担当）	・特段にマイナス要因はない。当店は5月に2つの雇事を行うため、確実に前年実績を上回る。その他、競合店においても、景気は悪くならないとみている。あとは天候要因がどのように左右するか分からないが、衣料品関係を中心に売上はかなり上がる可能性がある。家庭用品についてはリニューアルを行っており、そこそこ伸びる。食料品の流れは今とほとんど変わらない。来客数はマイナス要因がみられない。
		百貨店（業務担当）	・この時期に売れるべき商材が売れず、もう少し暖かくなって動き出す商材が前倒しになって動いているため、これから先を考えると少し不安である。
		スーパー（経営者）	・ベアやボーナスに報道ほどの期待ができず、消費者には買い控え傾向がみられる。
		スーパー（店長）	・加工食品や惣菜等の調理品の購入が増えているが、価格面では厳しい。今後、大きな変化はない。
		スーパー（店長）	・5月になると競合店進出の影響が一巡し、5月を過ぎれば前年比は改善する見込みである。政府のアベノミクスの影響は食品業界にはあまり影響しておらず、今後3か月の流れはあまり変わらない。
		スーパー（店長）	・全体的には景気の先行きは明るい兆しがあるが、小売についてはまだまだ実感がなく。ただ、時計やバッグ等の高額品が少しずつ売れており、速度は遅いが、これから小売りのほうにも少しずつ景気の浮上が期待できる。
		スーパー（店長）	・政府の景気対策の効果が新聞やマスコミ等で取り上げられているが、電気料金の値上げやガソリン価格の高騰等により、消費者の生活防衛意識は高い。実用品においては必要な物を必要な時にしか購入しない傾向である。
		スーパー（総務担当）	・客の価格への意識は引き続き強く、低価格競争がこれからもしばらく続く。
		スーパー（総務担当）	・例年になく気温が上昇しているため、若干ながら来客数の増加に期待がもてる。一方で、競合他社や新規参入により、競争が激化しており、総合的にはあまり変わらない。
		スーパー（経理担当）	・春から夏にかけて競合店の出店が多く続き、競争激化に拍車がかかる。
		スーパー（業務担当）	・生鮮食料品の動向はここ数か月間変化がなく、目新しい動きがない。売上点数や客単価も大きな変動はなく、景気上昇の兆しがあるとは言えない。
		コンビニ（経営者）	・商品の値上げの動きがあるが、売上や買上数量は増えない状況が依然として続く。
		衣料品専門店（店長）	・アベノミクスにより、景気回復が消費向上につながるのはいち早くなる。
		衣料品専門店（店長）	・桜のせいでも春が早く来たように感じ、花見用の弁当の動きは良いが、春のお出かけには早いようである。客の動きはまだ鈍い。今後もこの状況は変わらない。
		衣料品専門店（総務担当）	・株価の上昇や一部の大手企業の給与の上昇等、景気はやや良くなっているようだが、当地においては中小企業が多く、実際の所得向上につながるかどうか、見極めが難しい。慎重な購買動向は変わらない。
		衣料品専門店（取締役）	・円安や株高、企業内に埋蔵金があるところはボーナスが増えるというような報道がなされており、物の動きがある。しかし、多くの企業は売上が上がらないことには給料等を増やすことは難しいので、今後の実態経済はまだ読めない。景気が良くなるかは全く分からない。
		家電量販店（店員）	・卒業や入学シーズンのこの時期、家電は盛り上がりがないといけませんが、現在そういった動きはない。この状態であれば4～6月は気温に左右されるような状況となり、このまま悪い状態が続く。
		家電量販店（総務担当）	・いろいろな仕掛けや招待セールを行っても、誘客につながらなくなっている。今後もこの状況が続く。
		家電量販店（広報・IR担当）	・身の周りについて、景気の良くなる材料が見当たらない。
		乗用車販売店（総務担当）	・今後も車両の販売台数はエコカーを中心に堅調に推移する。
		住関連専門店（経営者）	・4月からの電気料金やガソリンの値上げの報道があり、消費者の財布のひもは固くなる。地方では所得増加の話もまだ出てこないため、先行きは不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の仕入価格及び小売価格は、為替の要因が大きく、2～3か月後の小売価格を予想するのが困難な状況である。景気が回復し、流通が活発化することによって、自動車等の使用頻度が増加し、燃料油の販売量の増加に期待したい。
		その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	・景気はやや悪い方向で変わらない。客の買上販売量の減少傾向に歯止めが掛からない。
		その他専門店〔書籍〕（代表）	・新政権の経済対策の効果も地方の小売現場では、実感が薄い。今後も厳しい状況が続く。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・アベノミクスで景気は上向きになるかもしれないが、4月からの電気代など公共料金の値上げがマイナスに働く。
		高級レストラン（専務）	・十数年景気の悪い状態が続いているが、今、少し良くなっている。ただ、政治がまだ安定していないので、1年ぐらい経たないと判断がつかない。これから先、消費税増税等マイナス要素もいろいろある。
		高級レストラン（支配人）	・予約数が増加傾向でない。
		観光ホテル（総務）	・予約状況や収入予測の結果、景気は変わらない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況が例年と比較しても大きく変動していない。
		都市型ホテル（副支配人）	・4～6月は福岡市内のイベントが予定通りに開催され、今後も現状より良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・円安による海外旅行への影響はないが、レジャーへの消費を増やしている実感もない。
		旅行代理店（企画）	・福岡発アムステルダム行き直行便が4月より就航という業界にとって明るいニュースがあるため、販売増に期待がある。一方で、原油価格の高騰や円安の進行により、客にとって魅力的な環境とそうでない環境が顕在しており、先行きには不透明感がある。
		タクシー運転手	・東京方面ではいくらか景気が良くなっているような話が聞かれるが、その景況感が地方のほうまで流れてくる。
		タクシー運転手	・選挙が近づいてくると人の動きが極端に悪くなるので、あまり期待できない。
		通信会社（管理担当）	・債権回収会社に債権の回収を依頼しているが、上手くいっていない。
		通信会社（業務担当）	・4月以降は市場としてもあまり良い情報はなく、新商品の発売時期の販売増は期待できるが、スマートフォン全体の販売は他社からの攻勢でシェアが減る状況が続く。
		通信会社（総務局）	・個人消費に対するアベノミクス効果は秋以降になる。
		通信会社（販売部）	・年間最大の商戦期である3月の来場者数が伸び悩んだことを考えると、今後も大きな期待は持てない。
		ゴルフ場（従業員）	・ゴルフの予約状況は特にゴールデンウィークに関して、昨年と比べて半分位の予約数で推移している。観光地として全体的に伸び悩んでいるのが現状である。また、地元客もやはり単価の安いゴルフ場でプレーしている状況で、なかなか収入が増えず、回復の兆しはみえない。
		ゴルフ場（支配人）	・4～5月の天気、季節予報は平年並みと発表されているが、1～2か月先のコンペ予約はあまり増えていない。本来はシーズン料金を高めに設定したい季節であるが、入場者数の確保も必要であり、価格はあまり高くできない。低価格競争が続いており、今後も厳しい。
		競輪場（職員）	・売上の動向は一定に推移している。今後もこの状況が続く。
		美容室（経営者）	・おしゃれ業界で3月に思った以上の景気回復が望めなかったことや客の購買意欲が見込めないため、並行線である。景気の先行きはあまり変わらない。
		美容室（店長）	・景気が良くなりつつあるが、急には良くならない。消費者は様子をうかがっているようである。
		設計事務所（所長）	・消費税増税前の駆け込み需要が多くなる。実際の景気はそれほど良くなっていない。現在は消費税の絡みで少し忙しくなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・テレビや新聞報道ではアベノミクスによる春闘のベースアップや高額マンションの好調な販売等が伝えられているが、都内や大企業、高額所得者の一部の層に限られている。地方や中小零細企業、特に低所得者や年金生活者には公共料金の値上げや円安による物価上昇が消費行動を鈍らせている。
		商店街（代表者）	・当店はオーダーメイドの印刷や彫刻サービスを承り、今の時期の需要はあるが、3か月後は減少傾向になる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・花屋は今から母の日までは何とか見込めるが、毎年ながら、それ以降の夏場の需要は減る。新たな劇的な大口納品先をみつけないことにはかなり厳しくなる。
		スーパー（店長）	・今後もコンビニエンスストア等の出店が予定されており、ますます競争が激しくなってくる。身近な商品はコンビニエンスストアでの購入が多く、食料品が減少傾向にある。
		スーパー（店長）	・来年の消費税増税に向けて、消費者の節約志向は更に強まる。
		乗用車販売店（従業員）	・決算が過ぎ、客の来店が少なくなるので、魅力のある車が投入されないと受注は落ちる。
		高級レストラン（経営者）	・来月の予約状況をみたところ、今一つ伸びがない。3月に送別会が結構入ったが、4月の歓迎会がなかなか動かない。アベノミクスは消費に影響しているが、実際、飲食店に影響してくるのはもう少し先である。
		通信会社（企画担当）	・競争が激しくなっており、競合大手への対抗が困難になっている。厳しい状況が続く。
		理容室（経営者）	・今月は前年度と比較して、少し良くなりそうである。卒業や入学、就職等で客が少し動いているが、例年4、5月はその分、客が減る。それをまた補うには3か月～半年近くかかり、決して良くなるとは考えられないので、景気はやや悪くなる。
			悪くなる
自動車備品販売店（従業員）	・ディーラーがナビゲーションの販売に力を入れており、ナビゲーションの売行きが悪い。今後も厳しい状況が続く。		
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・近隣の競合店が相次ぎリニューアルしている。今後も厳しい状況が続く。		
企業 動向 関連 (九州)	良くなる	—	—
	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・円安の影響等で輸入物の高値感があり、国内物の相場が安定している。これで景気上昇の期待感もあり、大手冷食加工メーカーを中心に原料肉等の引き合いが高くなっている。スーパー等についても地元を中心に総菜加工品等発注が少しずつ増え始めている。
		繊維工業（営業担当）	・円安の影響で少しではあるが、生産が日本に戻つつある。オーダーが増えている。ただ原油の値上がりで、糸やほかの資材で値上げが考えられている。
		家具製造業（従業員）	・2～3か月先の受注案件が確実に増えており、3か月先の物件情報は3割増しの状況である。家具小売も需要期とはいえ、売上を伸ばしている。
		鉄鋼業（経営者）	・以前は各月の受注量に大きな波があったが、近頃は大幅増がないものの、安定した受注量が継続している。ただ、販売量は工事現場の人手不足や材料加工場での人手不足があり、伸び悩んでいる。今後も受注量は期待できるが、工事の進捗に不安がある。
		金属製品製造業（企画担当）	・大型補正予算の成立により、受注に動きが出ている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・円安の影響で、今後輸出産業には若干の上昇気運がある。ヨーロッパ問題により、円高になると厳しい状況となる。2、3か月はその推移をじっくりみながら、日々の状況を把握していく必要がある。
		一般機械器具製造業（経営者）	・引き合い見積の件数が増えており、これらの仕事が増えてくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（経営者）	・新年度になり、経営改革や経営システムを全面的に変える。時間管理を徹底化することによって、業績が即座に個人や団体、グループ、全体も分かるようにすることで、やる気を起こさせる。また、新製品の開発が99%可能になったので、その製品を展開するため、期待される。ほか、新しい市場や客を開拓していく動きもあり、景気を良くする動きを計画している。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・得意先の生産計画が上方見直しをしており、景気は良くなる。
		建設業（従業員）	・消費税増税前の駆け込み受注の動きが少しずつではあるが、多くなっている。また、見積案件も増えている。
		建設業（社員）	・2012年度の補正工事の残発注があり、2013年度も前倒しで発注されるとの情報があり、期待はできる。実際に発注され、受注できてこそ景気が良くなってきたと判断されるので、今はまだ不安である。
		輸送業（総務）	・消費税増税前の駆け込みの影響からか、建築資材関係の物量が増えている。自民党政権の景気対策を期待する。
		通信業（職員）	・省エネ関連の事業が伸び悩んでいたが、電気料金の値上げと当社の新システムの提供により、夏までに受注量が増えるのではないかと期待される。
		通信業（経理担当）	・3月決算を迎える企業の好決算が予想される。これまでの厳しい経営環境に対する合理化や効率化、さらには設備投資が経営のプラス要素となり、徐々にではあるがその効果が波及していく。
		金融業（従業員）	・製造業ではこのところの円安効果により、輸出関連企業を中心に商談が活発化している。また、マンションの建設計画も増加傾向にある等、住宅投資が持ち直している。雇用面でも新卒者等の採用枠を増やす動きが出てきている。
		金融業（調査担当）	・取引先等の話から、政策に対する期待感が大きい。しばらくは、マインド改善の動きが継続する。
		新聞社（広告）（担当者）	・引き続き住宅設備関連や通販関連の出稿が増える見込みである。今後2、3か月はこの2業種が売上をけん引する。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・公共工事が若干増えている。例年に比べると若干増加している。また、消費税増税の影響でマンション等の建設ラッシュとなっており、建築がかなり増えている。間接的に他の購買を増やす。
		変わらない	
窯業・土石製品製造業（経営者）	・4、5月と焼物業界はある程度、販売数量が伸びるが、現状の状態では量販店、百貨店共に売場面積も狭くなり、商品回転率が悪く、売場にもなかなか出ないような状況である。これから特注の動きにも期待されるが、まだ確定的な状態ではない。		
精密機械器具製造業（従業員）	・生産計画は増える傾向にあるが、まだまだ見通しがつかない。		
輸送業（従業員）	・今後は全体的に飲料の荷動きが良くなるという話があり、1、2月で落ち込んでいた輸入紙も少し回復傾向にある。もちろん出荷量等が落ち込む業界であるが、一部では回復している業界もあるため、倉庫業としては何とか変わりなく推移できる。		
金融業（営業担当）	・ビル等の箱物の建築単価はこれから一年、上昇傾向を予想している。新規事業計画の採算悪化が予想され、計画の見合わせ等が生じ、動きが停滞する恐れがある。		
金融業（営業）	・生産が増加した場合、海外移転が進む可能性がある。先行きに明るい兆しもあるが、現状の受注をキープするにとどまる。		
金融業（得意先担当）	・個人からの借入れは住宅ローン案件を含め、堅調に推移するとみるが、事業所への貸出しについては依然として厳しい状況が続いている。今後についても3月末で期限が切れた金融円滑化法の終了後の条件変更の対応等、しばらく予断を許さない状況が続く。		
不動産業（従業員）	・賃貸物件の入居状況や売上が横ばいに推移している。		
広告代理店（従業員）	・3月の新聞折込枚数は前年同月比2%減となっている。円安、株高の景気回復の期待感サービス業には、まだ実感がない。2013年の後期は来年の消費税増税前の駆け込み需要により、少しは消費行動が活発になる。ただ、景気の回復による活性化とは言えない。まだまだ辛抱の時期は続く。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（従業員）	・冷え込んだままで売上が伸びない。景気が上向き兆しはない。
		経営コンサルタント	・一般的には上昇傾向にあるが、コンサルタント関係の仕事はそれから少し遅れて動き出す。
		経営コンサルタント（社員）	・小売店の廃業や業態変更が見受けられる。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・問い合わせや案件状況の推移から判断して、引き続き景気は上向いていく。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・建設工事の市町村からの発注は、以前から検討されていた必要な箇所の工事が発注されており、それ以外で継続して増えることは考えにくい。そのため、土木や建築のコンサルタントでは業務量が増加せず、景気は変わらない。
	やや悪くなる	農林水産業（従業者）	・酪農は餌が非常に上がっており、厳しい状況になっている。また先行きについても円安の状況が続くので、更に厳しくなる。
		食料品製造業（経営者）	・納入先の来客数の絶対数が不足しており、増加の気配は全く見受けられない。情報が少なく業績予想がほとんどできない状況であるが、納入先となる観光分野の景況感から判断すると、景気は悪い方向に向かっている。
		食料品製造業（経営者）	・電気料金の値上げは製造業には非常に痛手である。ただ、販売量が減少する時期であるが、例年に比べれば好調に推移する見込みである。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・3月末が決算期の取引先が多く、3月の駆け込み需要が終了し、4月以降はやや落ち着く。
		悪くなる	—
雇用 関連 (九州)	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・4月以降の企業の求人意欲が衰えない。
		人材派遣会社（社員）	・昨年からの注文を受けていた短期の仕事の仕量が多く、更新が続いている。また、直接雇用に切替たいという企業も多い。企業側も長期的に雇用できるところが増えている。
		人材派遣会社（営業）	・企業の投資意欲が少しずつではあるが感じる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・円安、株高により、大手企業の業績が回復し、求人活動が活発化していることから、今後、その動きが地方にも波及すると期待される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・金融緩和が続くので、景気はやや良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・景気が良くなって欲しいという期待感から、週末や夕方の方の動きが増えている。2～3か月後には実態として景気が良くなる。
		職業安定所（所長）	・管内企業に具体的な改善の要素は見当たらないものの、最近の円安や株高、アベノミクスへの期待から動きが出てくる。
		職業安定所（職員）	・消費マインドの好転により、卸売業や小売業、宿泊、飲食サービス業の求人の増加が今後も見込める。
		職業安定所（職員）	・心配された金融円滑化法終了による倒産等の影響もみられず、求人数も増加傾向にある。
民間職業紹介機関（職員）	・年度末の季節要因や企業の雇用状況が増加傾向にあることから、特に正規雇用に踏み切れない企業からの派遣ニーズが広がっている。		
変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・建築土木業の下請での求人が活発であるが、採用に至っていない。同様に労働集約型の業界の求人特に公共投資等で相変わらず採用に苦勞している。建築関連の求人が伸びても、採用が追い付かなければ、景気の先行きは厳しい。	
	民間職業紹介機関（社員）	・消費税増税を控え、建設関連業界では人手不足の傾向がでてきているが派遣そのものの需要が大幅に増えるところまではいっていない。	
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・都市部は良くなるが、地方の景気回復はもうしばらく時間がかかる。	
	学校〔大学〕（就職支援業務）	・求人件数は増加しているものの、厳選採用という厳しい就職環境は継続している。また、採用予定数に満たなくても選考活動を終了している企業が見受けられ、景気回復には時間がかかる。	
	やや悪くなる	—	—

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	民間職業紹介機関（支店長）	・労働者派遣法の法規制強化や運用の煩雑さ等から、取引先がパートやアルバイト社員の直接雇用を増加させている。

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)	良くなる	観光名所（職員）	・先行予約が前年同月に比べて良い。
	やや良くなる	百貨店（営業企画）	・3月からの営業時間延長の取組や、市役所が移転してきた効果による来店客数増を見込んでいる。
		コンビニ（経営者）	・当店の近くに居酒屋が開店、営業を始めたため、客足が増加する傾向になる。
		衣料品専門店（経営者）	・テレビ等で景気の良い話が少し流れているが、現場では、そういう話はあまりしていない。ただし、これから少し上向きになっていく感があり、期待している。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	・来月のゴールデンウィークや様々な景気対策、アベノミクスが徐々に効果を上げて観光客の増加や商店街にも人が増えていくとみる。周辺の都市開発なども動いていくので少しずつ良くなっていく。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	・2、3か月先の予約状況は前年に比べて好調に推移している。特に観光客の予約が好調で、前年比110%となっている。旅行会社によると、円安等の影響で海外から国内に旅行がシフトしているようだとの話があった。
		住宅販売会社（総務・企画分野）	・季節的要因ではあるが、住宅メーカー等各社で、ゴールデンウィークの商談設定のため、イベントの開催があり、今月より集客増が見込め、それに伴い受注機会も増えると見込む。また、消費税増税前の駆け込みも予想でき、消費税現行税率での支払となる9月末の契約を意識した商談で、受注数が増えてくると予測する。
		住宅販売会社（代表取締役）	・建築相談が増えていることもあり当面は安定して建築受注が見込める。ただし、建築現場での職人不足や建築資材の値上がり懸念される。
	変わらない	一般小売店〔菓子〕	・弊社としては為替による原材料やエネルギーの価格高騰が心配である。ただし、全体的には景気上昇傾向にみえるので、観光客が増えると推測する。そのため、景況感に関しては変わらないとみる。
		スーパー（企画担当）	・周辺の競合開店等の影響は無く、今後3か月は前年並みで推移する見込みである。
		スーパー（販売企画担当）	・円安や株高などの好景気となるような報道はあるが、実際にそれを実感することは無い。身近では消費税増税の懸念が大きく感じられる。これでは財布のひもが緩むことは無いとみている。
		コンビニ（経営者）	・来客数増の要因が見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・競合等の出店で商圈は縮小するので、個店ごとの浮き沈みはあるが、客単価や購買意欲が落ちているため、しばらくはこの傾向が続くとみる。
		コンビニ（エリア担当）	・観光、建築は安定しており、先行きもこれまで同様明るい判断する。
衣料品専門店（経営者）		・良くなるか悪くなるか読めない。	
その他専門店〔書籍〕（店長）		・ここ3か月の推移をみる限り、悪くなることはあっても、良くなるとは感じられない。	
通信会社（店長）		・来客数、販売量共に前年並みで、上向きになる要素も無いので、この状態が続くのではないかとみている。	
ゴルフ場（経営者）		・先行き不透明ではあるが、引き続き料金単価の上昇を図っていきたい。	
やや悪くなる	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・沖縄は米軍基地移設の政治的な大きな問題を抱えており、消費行動にも影響があり、あまりお金を使わないように見受けられる。	
	観光型ホテル（マーケティング担当）	・現段階の予約受注状況から推測できる稼働率が、前年同月実績に比べ、同様もしくは若干下回る見込みである。	
悪くなる	商店街（代表者）	・観光関連の客は多少は戻りつつあるが、購買力が落ちている感がある。意外と客の財布のひもが固く、商品等を見ても、買い控えしている。その他についても消費低迷が現在続いており、まだまだ厳しい状態は続く。	
企業	良くなる	建設業（経営者）	・真剣な引き合い件数が増加している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連 (沖縄)	やや良くなる	窯業・土石製品製造業 (経営者)	・取引先からの受注状況がやや上向きになると予想している。
		輸送業(代表者)	・石垣で、需要家同士の生コンの乱売が終息する見込みである。東日本震災復興の本格化やアベノミクスで、市場全体にタイト感がある。
		通信業(営業担当)	・今後とも案件は十分にあるとみている。課題は案件を受注するための要員を確保することである。
		会計事務所(所長)	・新政権の経済政策への期待感が大きい。しばらくは、国民の多くが、景気が良くなるという感覚でいる。
	変わらない	食料品製造業(総務)	・雇用の改善や賃金の上昇が、地方ではまだまだ実感できないのではないか。また、円安による原材料の値上がりも予想されるため不安である。
		輸送業(本社事業本部)	・景気を引き上げる大きな要素はみえない。燃料費の高騰は継続的に行われているため、景気自体の変化はみられないが、経費増加により悪くなる可能性もある。
		広告代理店(営業担当)	・国内景気が上昇傾向にあるなかで、県内においても期待感はあるものの、具体的な実感としては感じられず、先行きは不透明である。
	やや悪くなる	—	—
	悪くなる	—	—
	雇用 関連 (沖縄)	良くなる	人材派遣会社(総務担当)
求人情報誌製作会社 (営業担当)			・有効求人倍率が増加している。
変わらない		求人情報誌製作会社 (総務担当)	・ここ1年「良い」状態が続き、今のところ悪くなる要素は見当たらず、かと言って良くなるかについては、もう少し様子見が必要だとみている。
やや悪くなる		学校[専門学校](就職担当)	・政治の影響が迅速に反映され、社会全体が政治家の動向に振り回されて落ち着かない感がある。大波小波とうねりが激しく、不安定さが否めない。良い気配が感じられない。
悪くなる		—	—